第2次
熊本市環境総合計画

地域別環境配慮指針

良好な地域の環境づくりに向けて

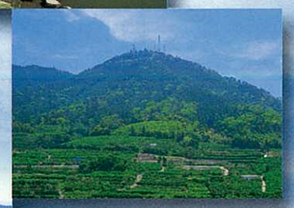
K U M A M O T O

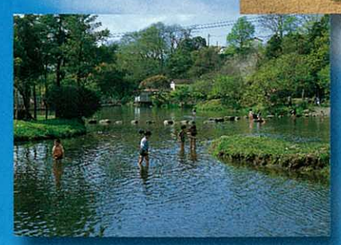
熊本市

第2次
熊本市環境総合計画

地域別環境配慮指針

良好な地域の環境づくりに向けて





目次　INDEX

Ⅰ 地域別環境配慮指針の基本的考え方

1 地域別環境配慮指針の役割 …… 2
2 第2次熊本市環境総合計画上の位置付け …… 3
3 地域別環境配慮指針の活用に向けて …… 4

Ⅱ 地域別環境配慮指針 －良好な地域の環境づくりに向けて－

1 地域別環境配慮指針の構成 …… 5
[1]対象とする環境目標 …… 5
[2]地域区分の設定 …… 6
[3]地域別環境配慮指針の体系 …… 8
2 良好な地域の環境づくりに向けて（地域別環境配慮指針） …… 9

A地域 1 地域の概況 …… 10
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 12
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 16

B地域 1 地域の概況 …… 20
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 22
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 26

C地域 1 地域の概況 …… 30
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 32
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 36

D地域 1 地域の概況 …… 40
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 42
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 46

E地域 1 地域の概況 …… 50
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 52
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 56

F地域 1 地域の概況 …… 60
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 62
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 66

G地域 1 地域の概況 …… 70
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 72
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 76

H地域 1 地域の概況 …… 80
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 82
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 86

I地域 1 地域の概況 …… 90
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる …… 92
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる …… 96

Ⅰ 地域別環境配慮指針の基本的考え方

1 地域別環境配慮指針の役割

熊本市環境総合計画（第2次環境総合計画「本編」）では、今日の新たな環境問題に的確に対応し、環境基本条例で定められている良好な環境を確保するため、環境の保全と創造に向けた市全体での長期的な目標を示し、環境目標の達成や実現していくための私たち市民・事業者・市の役割と取組の方向を示しています。

一方私たちが暮らしや活動を営んでいる市域では、地形・地質、地下水・地表水、植生、気象などの自然環境をはじめ、それらを資源とする土地利用や水利用、エネルギー利用といった社会的環境利用や環境保全対策の状況などの環境条件がそれぞれの地域で異なっています。

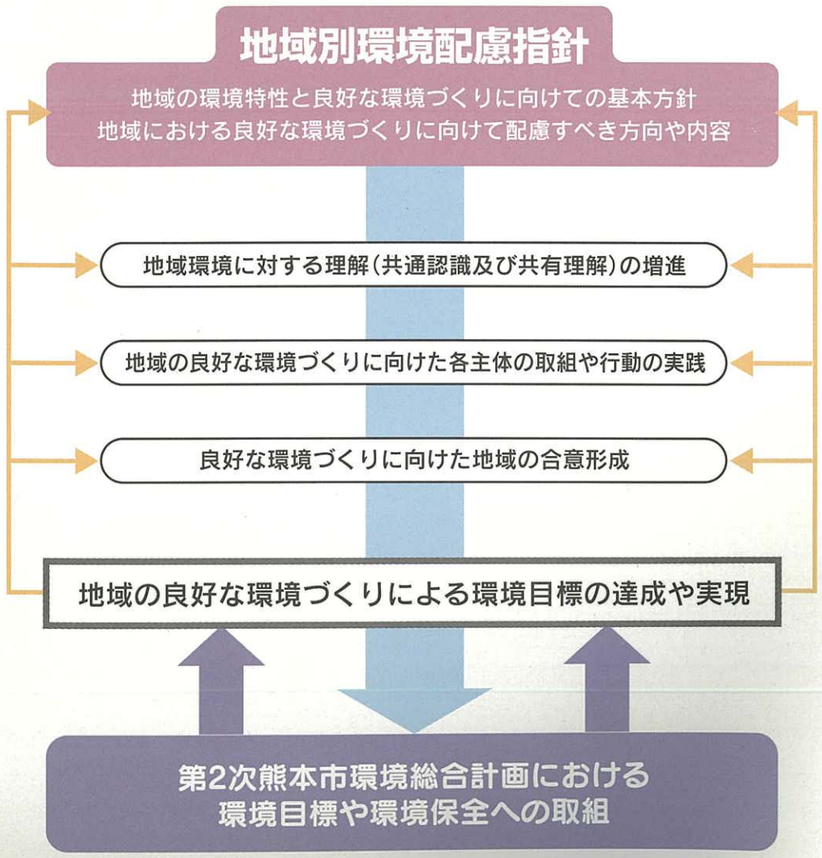
また、これらの環境条件が相互に関連しあって形成している風景や暮らし方、文化も多様です。

従って環境総合計画が掲げる環境目標を達成し、より良好な環境づくりを進めていくためには、私たちは、こうした地域の環境特性に十分配慮し、環境と調和したものとなるように努めていく必要があります。

そこで、この「地域別環境配慮指針」は、地域の環境特性に基づく環境配慮の方向や内容を整理したもので、市民・事業者・市が、自主的に地域の良好な環境づくりを図っていくための基本的な“道しるべ”としての役割を担っています。

あわせて、地域環境に対する共通理解や良好な環境づくりに向けた地域の合意形成に資するため、市民・事業者・市の各主体が共有すべき基本的な判断情報としての役割も果たすものです。

[地域別環境配慮指針の役割]



2 第2次熊本市環境総合計画上の位置付け

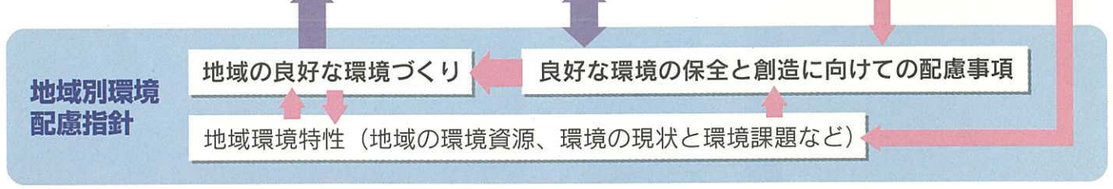
第2次熊本市環境総合計画は、環境基本条例に規定された『市民生活における良好な環境の確保を図る』ための長期的な目標を示し、その実現に向けた方針や具体的な取組の方向を示す「本編」と地域の環境特性に応じた配慮事項を示す「地域別環境配慮指針」から構成されます。

本編　長期目標の実現に向けた方針や取組の方向を示しています。
あわせて、目標の実現に向けて市民・事業者・市の各主体に求められる役割と行動を明らかにした「ローカルアジェンダ21行動計画」としての役割をもっています。

地域別環境配慮指針　目標の実現と合わせて、地域の環境特性に応じた良好な環境づくりを進めるための、環境配慮の方向を示しています。

[第２次熊本市環境総合計画「本編」]

長期目標	環境目標(中目標)	環境目標(小目標)
自然と共生する風格のある「森の都」をつくる	恵み豊かなくまもとの水を守る	豊かな地下水をまもる
		きれいな地下水をまもる
		きれいな河川・海をまもる
	自然豊かな「森の都」を育てる	緑をまもり、つくる
		多様な生き物を育む自然環境をまもる
		自然とのふれあいを進める
	歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる	歴史遺産等をまもり、生かす
		魅力ある都市景観をつくる
環境負荷の少ない循環型の社会をつくる	さわやかで安心できる生活環境をつくる	さわやかな大気をまもる
		騒音・振動のないまちをつくる
		有害化学物質による汚染を防ぐ
		環境に配慮した交通を目指す
	ごみを減らし、資源循環のまちをつくる	ごみを減らす
		リサイクルを進める
		ごみを正しく処理する
	地球環境問題に地域から貢献する	地球温暖化を防ぐ
		オゾン層をまもる
		酸性雨を防ぐ
		国際協力を進める
地球市民を育てすべての者の参加と協働を実現する	自発的に実践する人を育てる	環境教育・学習を進める
		自発的な活動を進める
	活動の「輪」を広げ「協働」の取組を進める	パートナーシップをつくる
		様々な主体から情報を発信する
	環境に配慮した都市をつくる	環境に配慮したまちをつくる
		事前配慮のしくみをつくる



3 地域別環境配慮指針の活用に向けて

私たちは、地域の環境から多面的な恩恵を受けつつ、あわせて環境にさまざまな影響を与えながら日常の暮らしや活動を営んでいます。

私たち一人ひとりが地域の環境づくりの主体であることを自覚し、それぞれの立場にたって、暮らしや活動を営んでいる地域の環境(資源)や環境問題について考え、環境の保全や創造など、地域のより良好な環境づくりに向けた創意工夫や取組が必要です。

そこで、次の①～④のような環境利用に係る場面において、私たちはこの「地域別環境配慮指針」を活用して、それぞれの立場や役割に応じた適切な環境配慮を自主的に、かつ積極的に図っていくことが必要です。

また市においては、自主的な環境への事前配慮を促進するために、環境配慮情報の整備・提供を積極的に進めます。

1 市の施策・事業の立案や実施に際して(市)

市は、市域の環境の保全や創造を率先して行い、市民・事業者の環境保全や創造に対する取組や環境配慮を先導していく役割を有しています。

このため、市が主体となって行う各種の施策や事業の立案や実施にあたっては、関連する環境配慮指針の内容を十分に活かすよう努める必要があります。

また、指針に沿って各主体間の環境利用に対する意見調整を公平な立場に立って調整や指導していくことも必要です。

2 開発事業等土地利用計画の立案や実施に際して(開発事業等を行う事業者)

開発事業等土地利用を行う事業者は、環境が有限な資源であり、人の活動やさまざまな生物の営みが持続的に展開されていくための共通の基盤（共有財産）であるとともに、一度改変された環境の復元には、膨大な時間と経費がかかり、かつ困難なこともあることに十分に留意する必要があります。

このため、開発事業等の地区選定や構想、土地利用計画の立案などできるだけ早期の段階から、環境配慮指針にもとづき積極的な環境配慮に努めていく必要があります。

また、事業実施後のモニタリングなどに努め、環境配慮の効果や技術の蓄積に努めていくことも必要です。

3 地域環境に配慮した事業活動に向けて(事業者)

継続的な事業活動が地域環境に及ぼす影響は大きく、時には重大な環境悪化を招く可能性もあります。

このため、事業者はそのことを十分に理解し、常に事業活動に伴う環境負荷の低減に努めていくとともに、地域社会の一員として、地域別環境配慮指針を踏まえ、事業活動を通じた地域の良好な環境づくりに取組む必要があります。

4 住まいづくりや暮らしづくりに向けて(市民)

市民は、日常の生活や活動のなかで、環境へのおもいやりをもち、環境への負荷の少ない暮らしを実践していくとともに、自らが暮らす地域の良好な環境づくりに積極的に参加していくことが大切になっています。

とくに、暮らしの基盤となる住まいは、地域の環境特性と密接に関連し、自然災害等からの安全の確保をはじめ、日照や省エネ、ライフスタイルに応じた快適な暮らしの実践などに、重要な役割を果たしています。

このため、住まいの建築や購入、借用など“住まいづくり”にあたっては、地域の環境特性に十分配慮し、より安全で快適にかつ環境への負荷のより少ない暮らしが行えるよう努めることが必要です。

II 地域別環境配慮指針 -良好な地域の環境づくりに向けて-

1 地域別環境配慮指針の構成

[1]対象とする環境目標

「地域別環境配慮指針」は、それぞれの地域における良好な環境づくりへの取組や環境利用に際して、地域の環境特性に応じた環境の保全や創造に関する配慮すべき基本的な内容や方向を示すものです。

このため、ここでは、第2次環境総合計画が掲げる環境目標のうち、自然環境や生活環境、歴史的文化的環境など、地域が有している環境資源や環境特性と密接に関連する環境目標を対象とし、環境目標（長期目標）の、「地球市民を育てすべての者の参加と協働を実現する」及び「環境負荷の少ない循環型社会をつくる」の中目標「地球環境問題に地域から貢献する」などのように、地域の環境特性に関わりなく、私たちの日常生活や活動における行動や取組そのものが環境配慮となる環境目標については、扱わないことにしています。

[第2次熊本市環境総合計画の環境目標と「地域別環境配慮指針」との関連]

長期目標	環境目標(中目標)	環境目標(小目標)	地域別環境配慮指針が対象とする主な目標
自然と共生する風格のある「森の都」をつくる	恵み豊かなくまもとの水を守る	豊かな地下水をまもる	●
		きれいな地下水をまもる	●
		きれいな河川・海をまもる	●
	自然豊かな「森の都」を育てる	緑をまもり、つくる	●
		多様な生き物を育む自然環境をまもる	●
		自然とのふれあいを進める	●
	歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる	歴史遺産等をまもり、生かす	●
		魅力ある都市景観をつくる	●
環境負荷の少ない循環型の社会をつくる	さわやかで安心できる生活環境をつくる	さわやかな大気をまもる	○
		騒音・振動のないまちをつくる	○
		有害化学物質による汚染を防ぐ	○
		環境に配慮した交通を目指す	○
	ごみを減らし、資源循環のまちをつくる	ごみを減らす	○
		リサイクルを進める	○
		ごみを正しく処理する	○
	地球環境問題に地域から貢献する	地球温暖化を防ぐ	○
		オゾン層をまもる	
		酸性雨を防ぐ	
		国際協力を進める	
地球市民を育てすべての者の参加と協働を実現する	自発的に実践する人を育てる	環境教育・学習を進める	
		自発的な活動を進める	
	活動の「輪」を広げ「協働」の取組を進める	パートナーシップをつくる	
		様々な主体から情報を発信する	
	環境に配慮した都市をつくる	環境に配慮したまちをつくる	★
		事前配慮のしくみをつくる	★

●：地域の環境特性に密接に関連し、本環境配慮指針が主として対象とする目標
○：地域の環境特性との関連性が認められ、本環境配慮指針が対象とする目標
★：地域別環境配慮指針を推進や展開していくためのしくみや取組の方向を示す目標

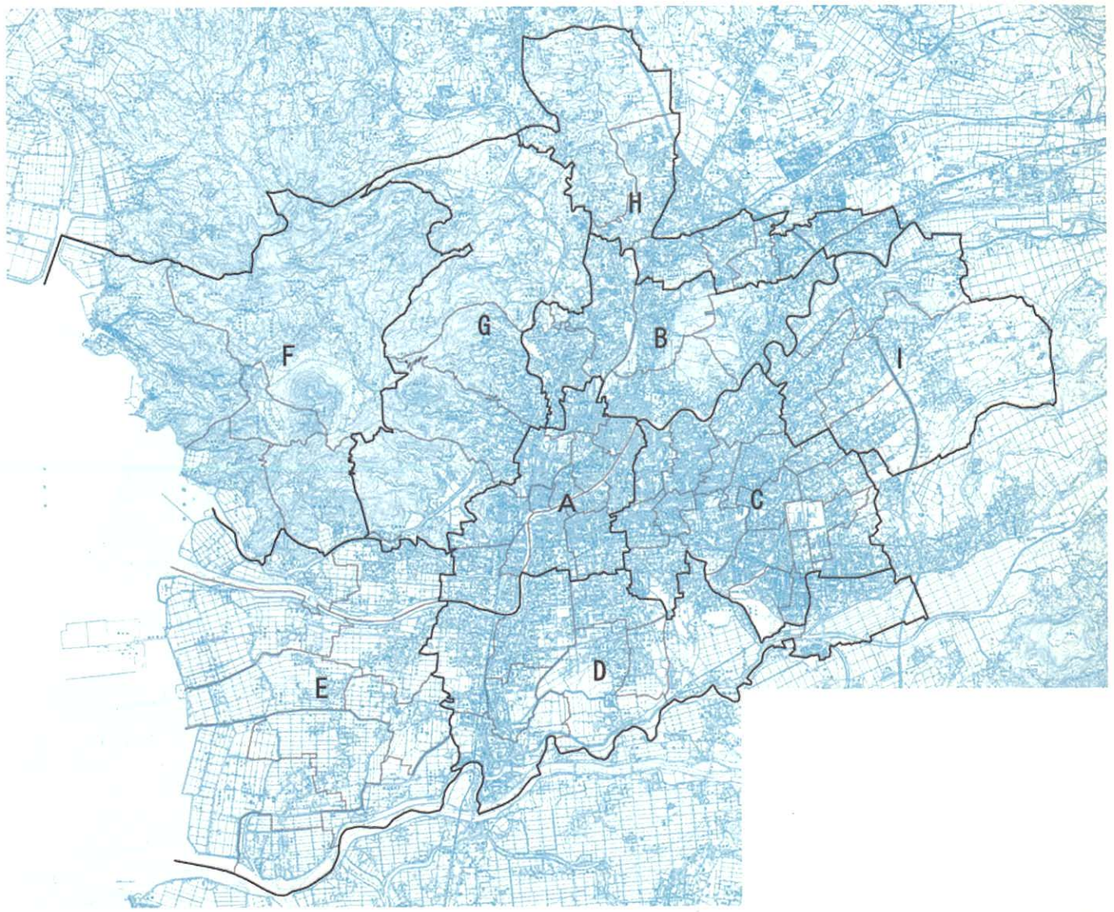
[2]地域区分の設定

ここでは、第1次熊本市環境総合計画との整合等を踏まえ、小学校校区を基礎単位として、環境特性や課題が似通った校区をまとめて地域を設定して（下表参照）、地域ごとの環境特性（環境資源や特性、良好な環境づくりの課題）を明らかにするとともに、それに基づいた良好な環境づくりのための基本的方向と、地域の環境利用を誘導するための指針を示しています。

[地域区分と環境づくりの基本的方向]

地　域	該当校区	環境づくりの基本的方向
A地域	碩台、白川、壷川、城東、慶徳、本荘、春竹、向山、古町、白坪、春日、一新、五福	中心地の特性を生かした風格と活力ある環境づくり
B地域	池田、高平台、清水、黒髪、龍田	身近に自然とふれあえる緑あふれる環境づくり
C地域	西原、託麻原、帯山、帯山西、出水、出水南、砂取、月出、山ノ内、東町、尾ノ上、健軍、健軍東、泉ヶ丘、白山、大江、桜木、桜木東	やすらぎと潤いのある文教のかおり漂う環境づくり
D地域	画図、田迎、田迎南、日吉、日吉東、城南、力合、御幸、川尻、秋津、若葉	田園や水辺環境と調和した流通機能の高い環境づくり
E地域	城山、中島、小島、飽田東、飽田南、飽田西、中緑、川口、銭塘、奥古閑	自然豊かな有明の海と田園が広がる安らぎのある環境づくり
F地域	芳野、河内、松尾西、松尾北、松尾東	金峰山と有明海の豊かな自然と共生する環境づくり
G地域	西里、花園、城西、池上、高橋	歴史と自然が調和する緑豊かな環境づくり
H地域	川上、北部東、城北、楡木、楠、武蔵、弓削、麻生田	計画的な住環境整備と農村との連携による快適な環境づくり
I地域	託麻東、託麻西、託麻北、託麻南、長嶺	託麻三山と白川の自然にふれあい誰もが憩える環境づくり

[地域区分図]



「本書に掲載した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである。(承認番号　平14九複　第274号)」

[3]地域別環境配慮指針の体系

地域別環境配慮指針は、第2次環境総合計画が掲げる環境目標との連携を踏まえ、次に示される体系で整理しています。

良好な地域の環境づくりに向けて

1 地域の概況

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

①自然環境特性
【環境特性図-1（環境配慮に係る情報図)】
・恵み豊かなくまもとの水、自然豊かな「森の都」、歴史遺産等
②環境配慮指針
・恵み豊かなくまもとの水を守る
・自然豊かな「森の都」を育てる
・歴史遺産等を活した美しい景観をつくる

(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

①生活環境特性
【環境特性図-2（環境配慮に係る情報図)】
・大気、騒音・振動、有害物質、交通、ごみ・資源、自然災害
②環境配慮指針
・環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

A地域
B地域
C地域
D地域
E地域
F地域
G地域
H地域
I 地域

2 良好な地域の環境づくりに向けて（地域別環境配慮指針）

A 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

B 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

C 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

D 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

E 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

F 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

G 地域

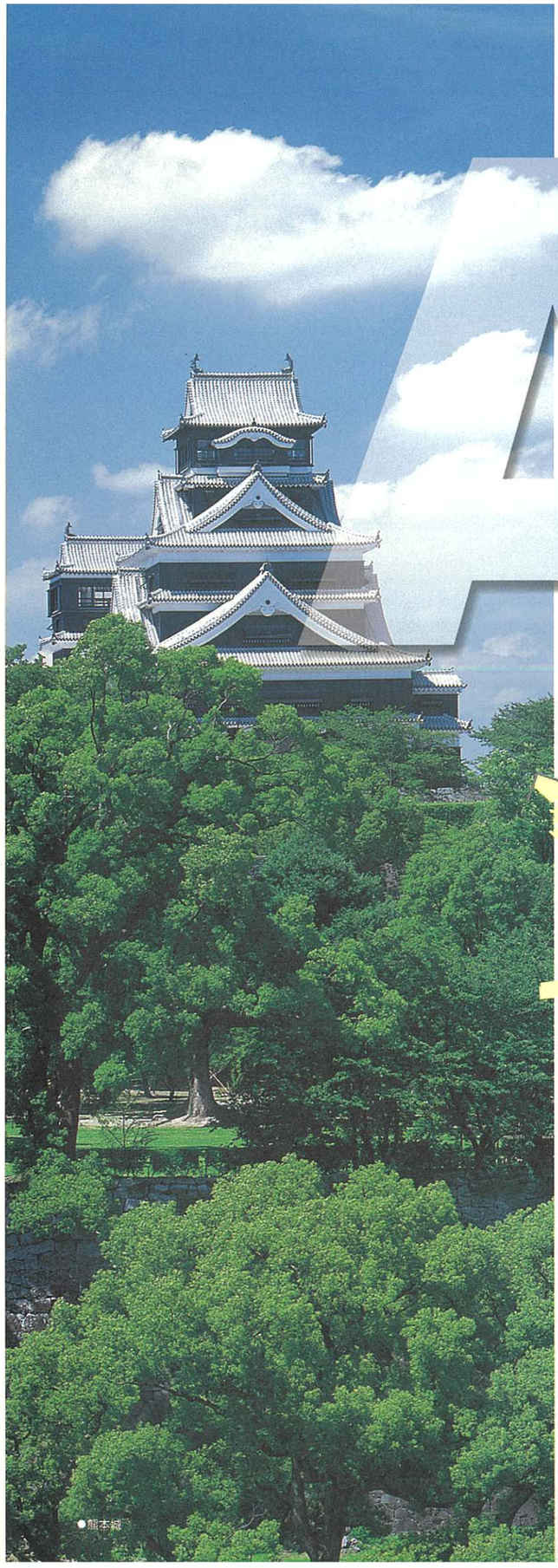
1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

H 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

I 地域

1 地域の概況
2 環境配慮指針
(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる
(2)環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



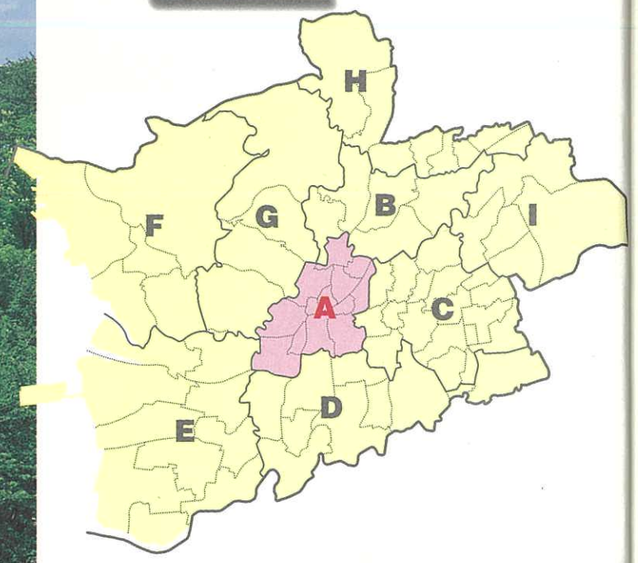
●熊本城

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

A地域

地域の位置・対象校区

硯台、白川、壺川、城東、本荘、春竹、向山、古町、白坪、春日、一新、五福、慶徳



環境づくりの基本的方向

中心地の特性を生かした風格と活力のある環境づくり

○中心市街地の特性や熊本城をはじめとした歴史ある街並特性を生かした風格のある街づくり

○水辺を軸とした都市緑化等による水辺と緑、生物生息空間のネットワークづくり

○公共交通網の体系的整備と利用促進による環境にやさしい魅力ある街づくり

1 地域の概況

地勢・沿革

●白川が形成した緩扇状地や自然堤防の地形が広がる地域です。北部から舌状に伸びる京町台地や南西部の花岡山、白川や坪井川の流れが地形や景観に変化をもたらしています。

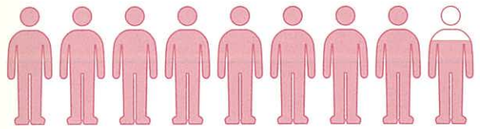
●京町台地の南端部に熊本城が築城され、その周辺の緩扇状地面の比較的安定した地盤に城下町としての中心市街地が古くから形成されてきました。

●特に、市役所や合同庁舎等の官庁街をはじめ、通町を中心とした商業ゾーンが形成され市の政治経済の中心地区となっています。

人口・世帯数

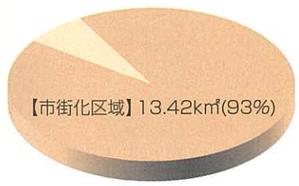
平成12年10月時点

【地域人口】 88,391人



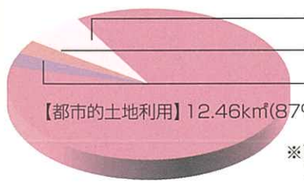
【地域世帯数】 41,049世帯

面　積



【地域面積】14.39㎢

土地利用



※面積は、熊本市都市マスタープラン現況資料編による

【概　要】都市的土地利用が大半を占めています。自然的土地利用としては、花岡山や京町台地の縁辺部にわずかに残されている山林のほかは、白川や坪井川の水面や河川敷となっています。

交　通

●鉄　道：JR鹿児島本線、JR豊肥本線が南西部の熊本駅を中心に九州各地と結んでいます。また、熊本電鉄線や、熊本駅や上熊本駅と健軍地域とを結び市街地内を走る熊本市電は、市民の重要な交通となっています。

●道　路：城下町を中心に幹線道路が放射状に形成され、複雑な道路形態となっています。
また、中心部の花畑町に熊本交通センターがあり、市内をはじめ、九州各地を結ぶバス交通の主要拠点となっています。

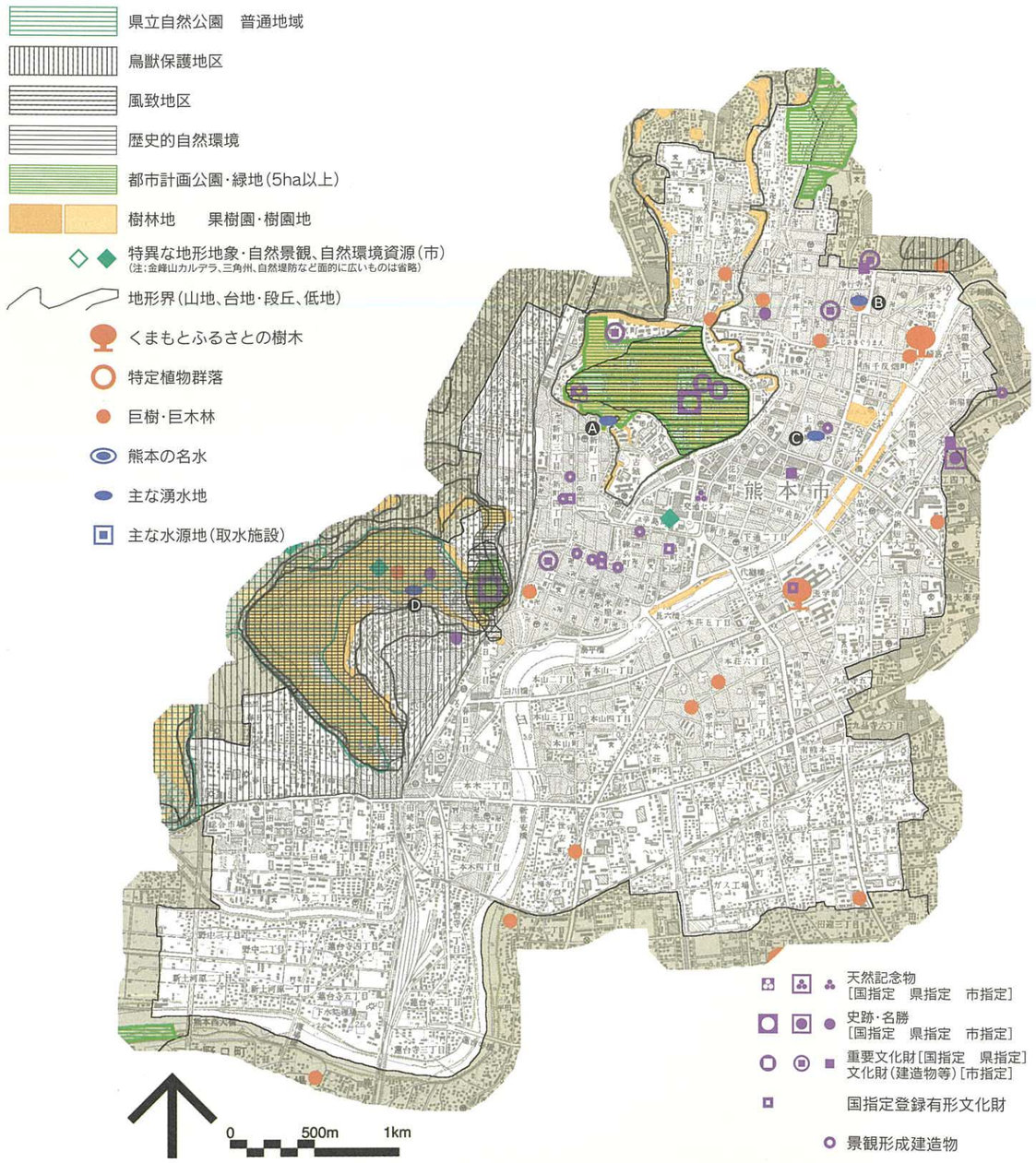
主な整備計画

【交　通】九州新幹線、都市計画道路（上熊本細工町線、春日池上線、他）

【その他】熊本駅周辺地域整備

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●早くから市街地が形成され自然環境が少ないため、白川の河川敷や水辺の緑地は、自然とふれあえる身近で貴重な水辺空間となっています。

●緩扇状地などの堆積物の地盤からなり、南西部に広がる平野部の浅層地下水をかん養する地域となっています。都市化により雨水の地下浸透によるかん養機能は低くなっていますが、地下水汚染物質の地下浸透による地下水汚染を引き起こしやすい地盤条件ともなっています。

●有機塩素化合物による地下水汚染地区があり、汚染機構解明調査を行い、向山・春竹地区では浄化対策を、八王寺地区は水質監視を継続しています。

●地域内に河川水質の環境基準点は設定されていませんが、補助点が、白川で代継橋と十禅寺に、坪井川で行幸橋に設定されています。

●下水道は、一部を除き中部処理区に含まれ、ほぼ全域が整備されています。

【環境質の状況】　※平成5年度以降

●河川水質(BOD)
白川(代継橋、十禅寺)→平成7年度を除き、環境基準(B類型)を達成
坪井川(行幸橋)→環境基準(C類型)は未達成

●地下水質
有機塩素系化合物による地下水汚染地区:向山・春竹地区、八王寺地区

【環境資源一覧】

河川等

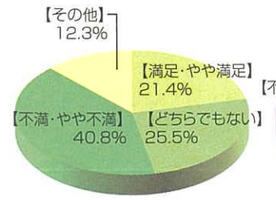
白川、坪井川、井芹川、大井手川

湧　水

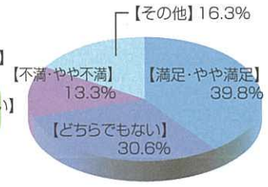
清爽園(熊本城内)Ⓐ、壷井の井戸Ⓑ、桜井戸Ⓒ、乳の水Ⓓ、など

【市民意識】　平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの不満の原因は、ゴミの散乱等をあげている人が多く、次いで家庭排水となっています。また、地下水については、満足度が他地域に比べ最も低くなっています。

【環境づくりの課題】

●循環型の水利用、雨水の有効利用

●雨水の地下浸透機能の向上など都市における健全な水循環の形成

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止、汚染地の環境改善

●河川の水質保全、水辺のゴミ散乱防止、身近に自然とふれあえる親水空間の形成など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●花岡山・万日山は、金峰山県立自然公園の普通地域となっているほか、風致地区に指定されています。また、花岡山・万日山を含むJR鹿児島本線の西側一帯は金峰山鳥獣保護区に指定されています。

●花岡山・万日山にはまとまった樹林地が、比較的急な斜面が残されている京町台地縁辺部には連続した樹林地が残され、ヤブツバキクラス域植生など比較的自然度の高い樹林からなっています。このほかの緑地は、ほとんどが公園緑地や社寺林など人為的な植栽地からなっています。

●花岡山・万日山等の樹林地は、熊本城のクスノキ群などの緑とあわせて、都市における緑のランドマークや背景緑地景観を形成しています。

●これらの樹林地や熊本城とその周辺の熊本城公園を中心に野鳥が多く見られるほか、白川の河川敷や街路樹等に飛来しています。

●地域の樹林地や緑地は、人工物によって分断され島状に点在しているため、野鳥や昆虫など生物の種類や数は少ない傾向にあると考えられます。

●上通り、下通り等の中心市街地には、土地の高度利用から緑が少なく、ヒートアイランド現象が危惧されています。

【環境資源一覧】

天然記念物

藤崎台のクスノキ群(国)、旧代継宮跡大クスノキ(市)

ふるさとの樹木

熊本大学の楷、お宮のイチョウ

巨樹・巨木林

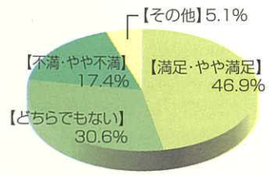
熊本城クスノキ巨木群など12箇所

特異な地形・地質・自然現象

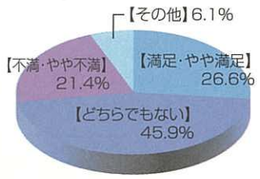
自然堤防、複合三角州

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいは、やや満足の傾向となっていますが、他地域と比べ満足度は特に低い傾向となっています。

●生き物とのふれあいの満足度は、市全体で最も低くなっています。不満の原因として、「野鳥や昆虫が少ない」、「生息できる場所が少ない」があげられています。

【環境づくりの課題】

●残されてきた自然性の高い樹林地や熊本城公園の樹林地、巨樹巨木林の保全と活用

●生態系や生物生息に配慮した公園緑地や水辺空間の整備、都市緑化など、身近に生き物とふれあえるの場の創出

●大井手川、白川、坪井川等の親水空間の整備とあわせて、これらの緑地を結ぶ都市緑化等による生物の生息環境の確保など

歴史遺産等

【現　　状】

●本地域の中心には、市を代表する文化財であり日本三名城の一つにあげられている熊本城が立地しています。熊本城を中心に、夏目漱石、小泉八雲などの近代文豪ゆかりの地が点在し、重要な観光資源となっています。

●花岡山・万日山、熊本城周辺には、埋蔵文化財が数多く見られます。また、現在、熊本城の復元整備など文化財等の整備と活用が進められています。

●古町、五福、一新などは、江戸時代からの問屋町、寺社町などとして独特な町並みを形成してきましたが、マンション開発や業務ビル等の建設に伴い昔の面影が失われてきています。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

熊本城跡(国特別)、熊本藩細川家墓所(国)、夏目漱石内坪井旧跡(市)、花崗山陸軍埋葬地(市)、細川忠利公火葬地(市)

文化財(建造物)

熊本城(国)、細川家舟屋形(国)、旧細川刑部邸(県)、不動院跡の六地蔵塔(県)、小泉八雲熊本旧居(市)、本光寺の笠塔婆の塔身(県)、安元元年笠塔婆〔屋蓋部分〕(市)

登録有形文化財(国)

早野ビル、長崎次郎書店、熊本大学医学部山崎記念館(旧熊本医科大学図書館)、ピーエス熊本センター(旧第一銀行熊本支店)

景観形成建造物

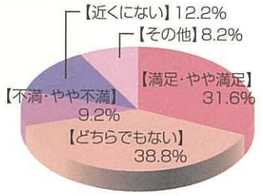
吉田松花堂、長崎次郎書店、ピーエス・オランジュリ（旧第一銀行熊本支店)、西村邸、弘真亭カフェ真源、森本襖表具店、後藤商店、紫藤邸

歴史的自然環境

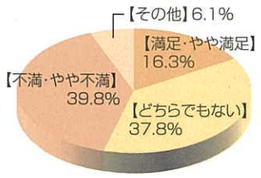
熊本城・熊本城跡、北岡自然公園・細川家霊廟及び門

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気の満足度は他地域に比べ高い反面、街並みの風景の美しさへの満足度は最も低くなっています。不満の原因には、「看板や電柱が目立つ」「街並みが雑然としている」があげられています。

【環境づくりの課題】

●熊本城の復元整備と一体となった歴史的文化的環境資源の保全・整備など、観光資源や市民が身近に歴史や文化にふれあえる場としての積極的な活用

●歴史的文化的資源を活かした街並みづくりなど

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●各地に分布する湧水（井戸を含む）の保全と身近な水環境としての活用

●白川や坪井川などの自然性の高い水辺環境や周辺の緑地や樹林等の保全

●白川や坪井川、大井手川など、都市における貴重な生物生息環境の場としての多自然型川づくりや市民が水辺と親しめる親水空間の整備と水辺の安全性の確保

●白川、坪井川、大井手川などの河川水質の保全と向上、水辺におけるゴミ散乱等の防止、上流域における「まちづくり」との連携

●建物周辺の緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透桝の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の保全や向上

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善

●地下水汚染物質の使用自粛や適正な管理による地下水汚染等の未然防止、地下水汚染地区での浄化対策

自然豊かな「森の都」を育てる

●残されてきた自然性の高い樹林地や社寺林、巨樹・巨木林などの緑資源の保全と活用

●花岡山・万日山、熊本城周辺地域、白川等における生物生息環境の保全と多様な生物生息環境の場としての整備や管理

●公園緑地、緑道、街路樹、建物周辺植栽地での食餌植物等の植栽や多孔質空間の確保など、身近な生物の生息環境に配慮した緑地空間づくり

●白川、坪井川など水辺の自然環境の保全や創造と一体となった緑地の保全や都市緑化などによる水辺と緑のネットワークづくりに配慮

●花岡山や万日山、白川などの自然景観の保全、まとまりある樹林地等の緑地景観資源としての活用

●公共空間や大規模施設周辺の緑化や周辺自然環境に配慮したビオトープの創造

●新屋敷など緑の多い住宅地における屋敷林や庭木等の保全、緑の少ない地区における適切な緑化の推進など

●良好なまちづくりと一体となった身近な水辺や公園緑地、自然地等の維持管理のための地域社会のしくみへの配慮と協力

●中心市街地における緑化を推進するため、屋上緑化等の緑化空間の確保

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●熊本城周辺地域における文化財の積極的な保全と活用

●埋蔵文化財や包蔵地等の保全と身近な歴史的自然環境の場としての活用

●街路等からの熊本城への眺望や歴史的文化的環境との調和に配慮した建築計画の立案や整備など、熊本城周辺における伝統と風格ある街並みの形成

●歴史的文化的資源周辺地域における歴史的文化的環境や景観に配慮したまちづくりや建物等の整備

●藤崎宮や古町に点在する社寺や社寺林、古町・五福・一新などの歴史的町並みの保全と生活の場との調和など、個性ある街並みづくり

●周辺地域の街並みや緑地環境に配慮したマンションや商業施設等の建築

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

2-1 生活環境特性

生活環境

【現　状】

大 気

- 地域には、花畑と古町に一般環境大気測定局、水道町に自動車排気ガス測定局があります。
- 各測定局の測定結果では、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素についてはここ数年は環境基準を達成しています。また、光化学オキシダントは、花畑町局で環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質は、観測している測定局全てで環境基準を達成していません。
- 自動車が主な発生源となっている窒素酸化物や浮遊粒子状物質は、一般環境測定局では横ばいの傾向にありますが、自動車排気ガス測定局では高い傾向になっています。
- 中心市街地として、自動車交通の集中や事業活動が活発な地域で、温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出量も多いと考えられますが、二酸化炭素の吸収や都市気候の緩和機能などを果たす緑地が少ない地域です。

騒音・振動

- 地域の自動車騒音測定は、国道3号線及び県道熊本高森線で実施されています。
- 全ての測定地点で、昼と夜の時間帯で環境基準を達成していません。また、白川公園前では、夜間に騒音規制法による要請限度を達成していません。

有害物質

- 水道町における有害大気汚染物質の測定結果では、環境基準が定められているトリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンについて達成しています。ベンゼンは基準を達成していません。
- 古町小における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。

交 通

- 熊本駅、熊本交通センターは、県内各地をはじめ九州各地への鉄道やバスの交通拠点となっています。中心市街地には市電が走り、熊本駅、上熊本駅、健軍地域を結び市民の重要な交通機関となっているなど、公共交通の利便性が高い地域となっています。
- 国道や県道など交通量の多い幹線道路が集中し、国道3号や主要地方道熊本高森線が水道町を起点に鍵型に走っています。また、朝夕には慢性的な交通渋滞を起こしています。

ごみ・資源

- 地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会64団体、町内会11団体、ＰＴＡ8団体、老人会4団体、婦人会2団体、その他6団体の計95団体が登録され、活動を行っています。
- 高密な都市的利用地で、マンション等も多いため、家庭での生ゴミの堆肥化などによる堆肥活用場所や機会が少ない地域となっています。

環境美化協定

- 城見町通り美化協定、本荘校区町おこし美化協定

自然災害

- 白川や坪井川は、後背流域や地域内での地形的特徴から、かつてはたびたび氾濫し浸水被害を発生してきました。河川整備などに伴い河川氾濫は少なくなりましたが、豪雨時には内水被害の発生等が見られます。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素

各測定局とも環境基準を達成

浮遊粒子状物質

各測定局とも環境基準を未達成

自動車交通騒音

各測定地点で全時間帯の環境基準は未達成

ダイオキシン

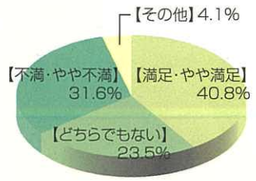
測定地点で大気環境基準を達成

光化学オキシダント

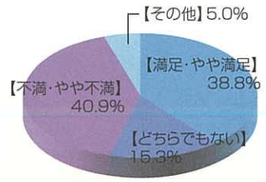
花畑町局で環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



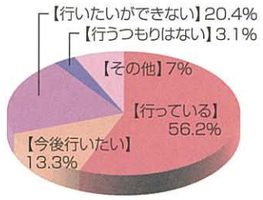
●静けさ



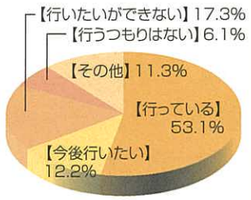
●空気のきれいさやにおいへの満足は、やや高い傾向にありますが、他地域に比べ特に低く、原因として「自動車の排気ガス」が最も多く、次いで「家庭ゴミ集積場のにおい」があげられています。

●静けさの満足度は、不満が上回っています。満足度は他地域に比べ特に低く、「自動車やバイクの騒音」が不満の原因としてあげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●公共交通など利便性が高い地域であり、また朝夕の交通渋滞も多いなど、「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動が、郊外地域に比べ高い傾向があります。

【環境づくりの課題】

●利用者に配慮した公共交通機関の相互連携や利便性向上など、公共交通網の体系的整備など

●慢性的な交通渋滞の緩和、自動車排気ガス対策や騒音対策など、自動車公害の改善

●駐輪場の確保や自転車利用空間の整備など自転車利用しやすいまちづくり

●二酸化炭素等の吸収や都市気候の緩和に配慮した都市緑化

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など

●廃棄物収集の効率化とごみ集積場所での鳥獣被害等の未然防止

●都市内でのオープンスペースの確保など、自然災害防止や火災等二次災害の未然防止

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上や中心市街地への自動車の乗り入れ抑制、交通渋滞の緩和に留意した道路整備

●公共交通機関の利用促進のためのバス停上屋などの施設整備

●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止

●二酸化炭素等の吸収や都市気候の緩和などに配慮した公園や公共施設等の植栽の検討

●省エネルギーや都市気候の緩和などに配慮した都市緑化（壁面緑化や屋上緑化など）、太陽光発電パネルの導入など

●市中心部や駅等での適切な駐輪場の確保やレンタサイクルの充実、狭隘な路地等での交通安全対策、自転車道の確保など、自動車優先型都市構造から歩行者優先型へのまちづくり

●熊本城周辺におけるレンタサイクルの導入

●工場等事業所と住宅の混在地区における騒音・振動・大気汚染防止

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など

●地域における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区の改善対策

自然災害防止

●花岡山・万日山や京町台地縁辺斜面地などでの土砂災害等への配慮、地盤保持機能の高い植生の育成

●都市内でのオープンスペースの確保や建物やインフラの防災対策など、自然災害の防止等に配慮した安全なまちづくり

ごみ対策

●家庭や飲食店等事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化、ごみ集積場所での鳥獣被害等の未然防止、生ゴミによる堆肥の活用空間の確保と提供など

●中心市街地における積極的な環境美化や狭小路地の多い地域におけるごみ収集の効率化への協力

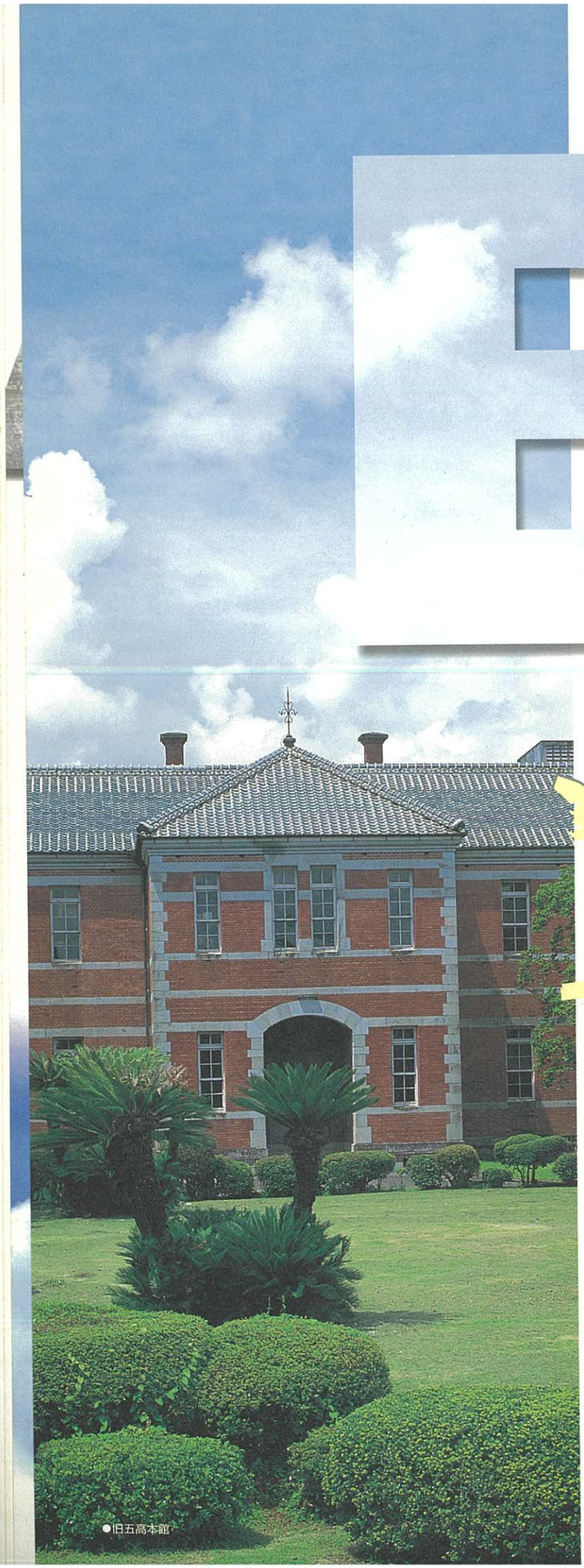
●フリーマーケットやガレージセール等ができる施設や空間づくりと提供

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

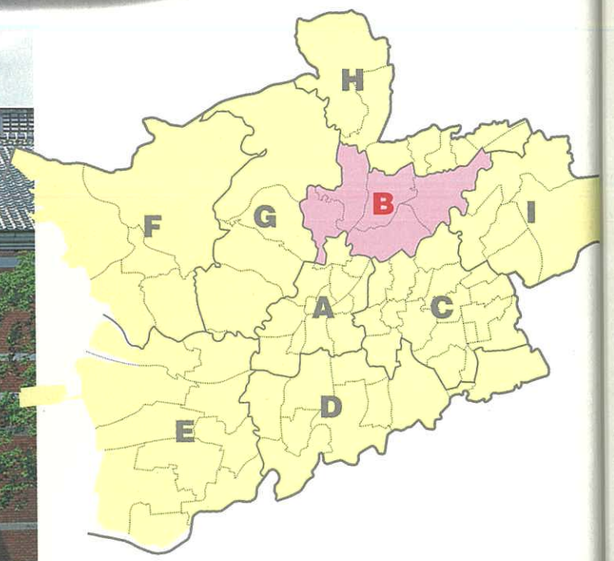
B地域

地域の位置・対象校区

池田、高平台、清水、黒髪、龍田



●旧五高本館



環境づくりの基本的方向

身近に自然とふれあえる緑あふれる環境づくり

○古くからの住宅地として趣やたたずまいなどを生かした街づくり

○立田山や京町台地、白川や坪井川・井芹川などの多様な自然を生かし、身近に自然とふれあえる街づくり

○公共交通の利便性向上と利用による環境にやさしい魅力ある街づくり

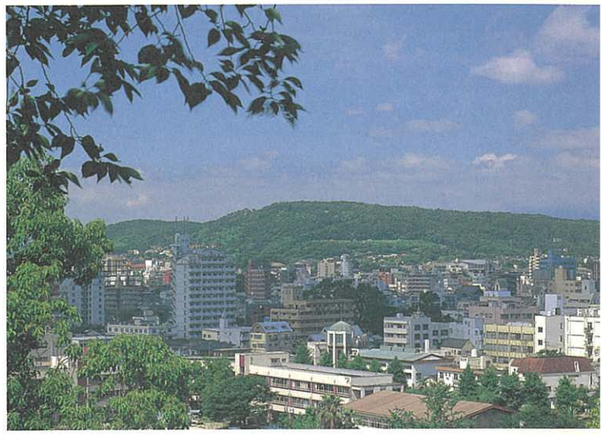
1 地域の概況

地勢・沿革

●中央に坪井川が流れ、西に京町台地、東に立田山があり、南は中心市街地に隣接し利便性が高く、古くから住宅地として開けてきた地域です。

●地域の西側は、台地とこれを南北に開さくする坪井川や井芹川の谷底平野、東側は、独立した丘の立田山と南東部を蛇行して流れる白川や白川の段丘など、市域でも最も地形変化に富んだ地域となっています。

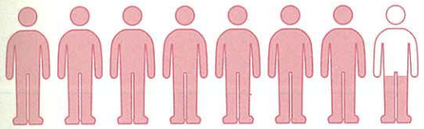
●また、立田山南麓部の黒髪地区は、細川家廟所があり、熊本大学を中心とした学生街となっています。



人口・世帯数

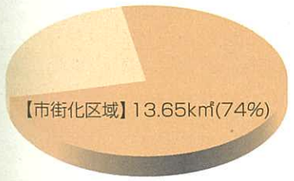
平成12年10月時点

【地域人口】 73,403人



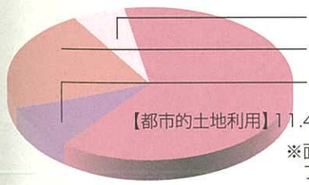
【地域世帯数】 32,575世帯

面　積



【地域面積】18.34㎢

土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】宅地化が進み、立田山を除きほぼ全域宅地化が進み、地域の約6割は都市的土地利用となっています。自然的土地利用は、立田山や京町台地縁辺に残る山林が主で、農地は台地面や低地部に点在しています。

交　通

●鉄　道：地域の西側にはJR鹿児島本線、東側にはJR豊肥本線、中央部に熊本電鉄が南北に縦断しているほか、熊本電鉄が中央部から南西部に横断し、上熊本駅でJR鹿児島本線や市電と連絡するなど利便性の高い地域となっています。

●道　路：国道3号線が中央を縦断し、立田山東側に熊本北バイパスが整備されてきているほか、県道の熊本鈴麦線、日生野隈府線、熊本菊鹿線が縦断し、白川沿いに熊本菊陽線が通過するなど交通の要衝となっており、慢性的な交通渋滞等の問題を抱えています。

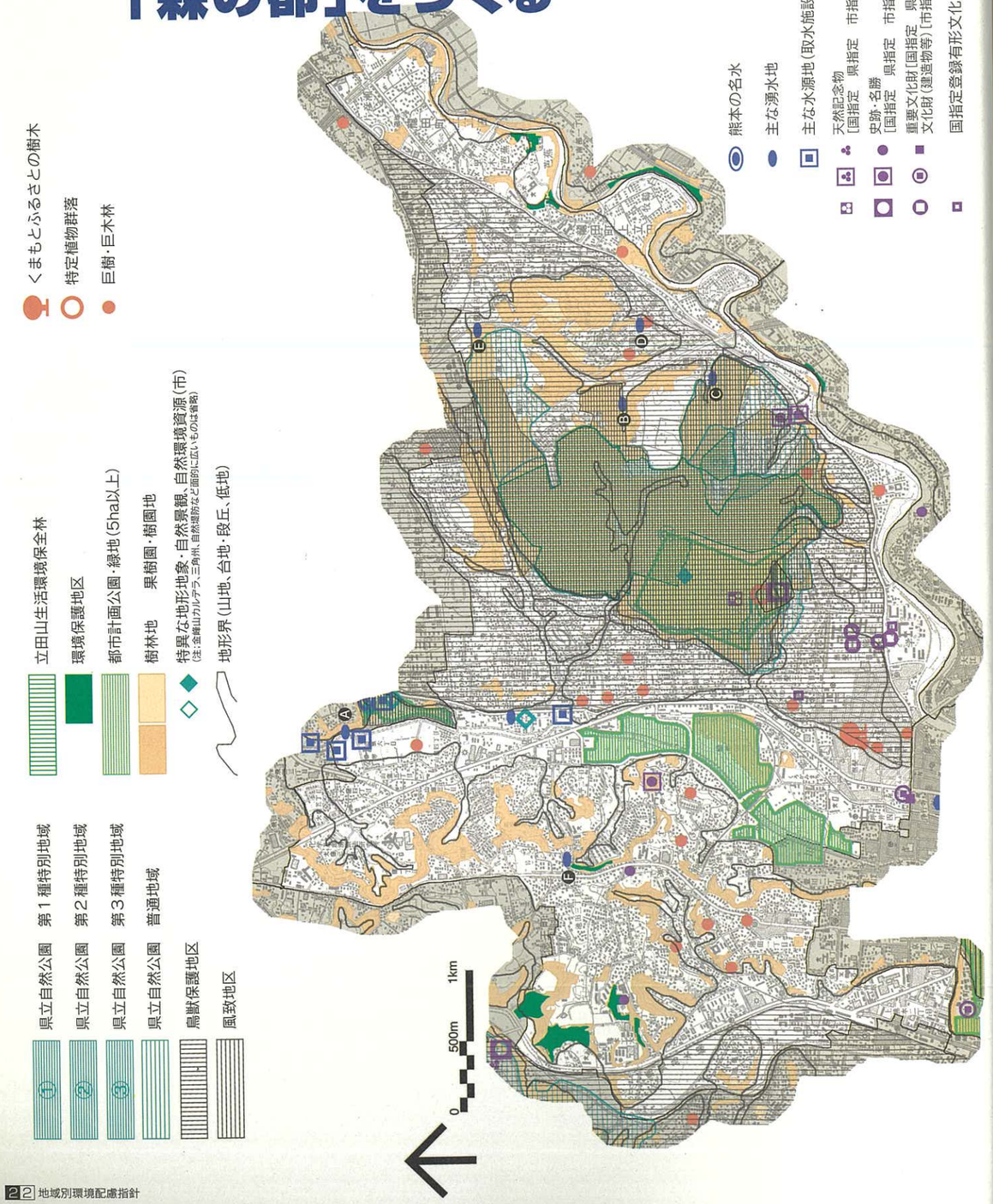
主な開発計画

【交　通】九州新幹線、都市計画道路(野口清水線、清水町万石麻生田線、他)

【その他】陳内土地区画整理事業(整備中)

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●地域内には、南東部を蛇行して流れる白川をはじめ、坪井川や井芹川などの河川、立田山憩いの森内の池や湿性植物園、京町台地の谷戸のため池、八景水谷などの湧水地など、多様な水辺があります。

●中心市街地の上流部に位置する坪井川は、氾濫し浸水被害をもたらしてきたため、緑地帯としての機能をもった坪井川遊水地として整備されています。

●熊本市の代表的な湧水地のひとつである「八景水谷湧水」に隣接し、また地域内の各地には湧水が見られるなど、市域の水循環の保全に重要な地域となっています。

●立田山は、火山性岩石の安山岩質凝灰角礫岩からなり水理基盤を形成していますが、立田山周辺に広がる標高30～40mの台地面は透水性の高い安定した地盤で、地下水のかん養上重要な地域となっています。

●八景水谷は豊富な湧水地であり、市の重要な水源として早くから利用されてきましたが、近年湧水量の低下が心配されています。

●有機塩素化合物による地下水汚染地区があり、高平台や清水地区では浄化対策を継続しています。

●河川水質の環境基準点が井芹川の山王橋に設定されているほか、補助点として白川の小磧橋、坪井川の打越橋が設定されています。井芹川は下水道整備とあわせて改善の傾向にありますが、坪井川は環境基準を達成していません。

●下水道は、大半が北部処理区に含まれますが、一部、中部と西部処理区となっています。下水道整備が進められてきていますが、白川沿いの龍田地区をはじめとした一部地区が未整備となっています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

井芹川(山王橋)→平成12年度は環境基準(A類型)を達成

坪井川(打越橋)→平成5年度を除き、環境基準(C類型)は未達成

白川(小磧橋)→平成6,7年度を除き、環境基準(B類型)を達成

●地下水質

有機塩素系化合物による地下水汚染地区：高平台、清水、黒髪の各地区

【環境資源一覧】

河川等

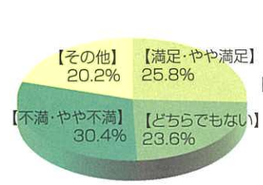
白川、坪井川・坪井川遊水地、井芹川、立田山憩いの森や京町台地内の池

湧　水

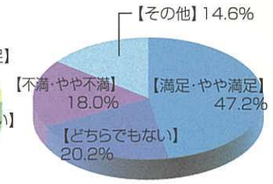
八景水谷Ⓐ、狐のタンタンⒷ、妙見さんⒸ、ジンゴさんⒹ、迫の水Ⓔ、年神神社Ⓕ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの不満の原因は、ゴミの散乱をあげている人が多く、次いで家庭排水となっています。また、地下水については、約半数の人が湧水地の水量の減少を原因としてあげています。

【環境づくりの課題】

●地下水かん養地域としての農林地等の保全や適正な土地利用によるかん養機能の保全や向上など地下水の保全

●八景水谷湧水群など湧水地の保全と活用

●下水道整備など適切な生活排水処理対策による坪井川や井芹川の水質浄化

●多様な水辺空間を生かした親水空間の創出と水辺の環境保全対策

●循環型の水利用、雨水の有効利用

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止、汚染地の環境改善など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●立田山は、金峰山県立自然公園と指定されているほか、生活環境保全林や鳥獣保護区、風致地区の指定がなされています。また、八景水谷公園は風致地区に指定されています。

●立田山は、ヤエクチナシ自生地（国指定天然記念物）をはじめ、ヤブツバキクラス域の植生からなる自然豊かな緑地であり、野鳥をはじめとした身近な生物の重要な生息地となっています。

●また、立田山は地域のシンボル的な存在であるだけではなく、全市民の憩いの場所として親しまれており、生活環境保全林としての整備も進められてきています。

●京町台地縁辺の斜面地にも比較的まとまった樹林地が一部環境保護地区に指定され残されていますが、近年、宅地開発や道路整備などにより分断されてきています。

●立田山山麓部や京町台地縁辺部などには、屋敷林や庭木を有する緑被率の高い古くからの住宅地が形成され、立田山などの樹林地と一体となって緑豊かな居住環境をつくっています。

●立田山の他にまとまりある公園緑地としては、坪井川緑地があり、中心市街地に隣接し、市民の自然とのふれあいの場となっています。坪井川緑地は、中心市街地での水害防止のための遊水機能を有した緑地として、ビオトープや水辺とのふれあいの場として整備がなされています。

【環境資源一覧】

天然記念物

立田山ヤエクチナシ自生地(国)

特定植物群落

立田山のコジイ林

巨樹・巨木林

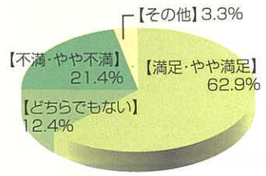
20地点

特異な地形・地質・自然現象

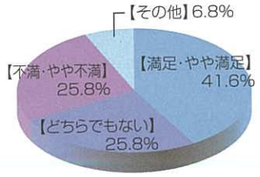
八景水谷、亀井の湧泉、白川河岸段丘

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●近くに緑が比較的多く、身近に緑とふれあえる反面、野鳥や昆虫が少ない、あるいは生息できる場所が少ないとなっています。

【環境づくりの課題】

●立田山を中心とした自然環境の保全と多様な生物生息環境の保全と創出

●残されてきた樹林地や水辺空間を生かした自然環境のネットワークづくり、生態系を尊重した公園整備

●生活環境保全林をはじめとした、自然とのふれあえる機会の充実

●緑豊かな居住環境の保全や新興住宅地での緑化など

歴史遺産等

【現　　状】

●地域には、つつじが丘横穴群、浦山横穴群、稲荷山古墳、熊本藩主細川家墓所などの史跡が数多くあり、歴史的文化的環境を形成しています。

●立田山山麓部は、古くから住宅地が形成され緑豊かな趣のある街並みが形成されているほか、黒髪地区は、旧制第五高等学校の歴史的建造物などが残され、熊本大学を中心とした歴史的文化的環境の場となっています。

●利便性と緑地環境が豊かなことから高層マンション等の建設がなされ、景観をはじめ、古くからの住宅地との調和などが課題となってきました。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

熊本藩主細川家墓所(国)、つつじヶ丘横穴群(県)、浦山横穴群(県)、稲荷山古墳(県)、富ノ尾古墳(市)、山伏塚(市)

文化財(建造物)

旧第五高等中学校本館・化学実験場・表門(国)、熊本大学工学部〔旧熊本高等工業学校〕旧機械実験工場等(国)

登録有形文化財(国)

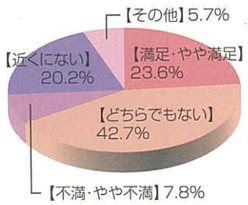
ルーテル学院高等学校本館、熊本大学本部〔旧熊本高等工業学校本館〕

歴史的自然環境

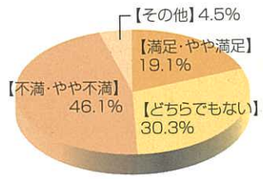
立田自然公園周辺・泰勝寺跡

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気の満足度は、身近にふれあえる歴史資源がないなど低い傾向となっています。街並みの風景の美しさへの満足度も低く不満の割合が市内で最も高くなっています。その原因として、「看板や電柱が目立つ」、「建築物が不ぞろい」、「散乱ゴミが目立つ」などがあげられています。

【環境づくりの課題】

●指定文化財を中心とした文化財の適正保全と活用

●緑豊かな趣のある居住環境や歴史的文化的環境との調和に配慮した街づくりなど

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●地下水かん養上の重要な地域であるため、かん養源としての樹林地や農地の適切な保全などかん養機能の保全と向上、地下水質の保全

●八景水谷湧水群など湧水地や自然性の高い水辺環境の保全

●樹林地など緑地が有する雨水の保水や水源かん養機能、地下水や伏流水などの流路、湧水などの一体的な保全や創造による健全な水循環の形成

●建物周辺の緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透升の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の保全や向上

●下水道整備や適切な生活排水処理対策、自然水質浄化機能の向上など、坪井川や井芹川の水質浄化や水辺におけるゴミ散乱等の防止、上流域におけるまちづくりとの連携

●下水道計画区域における未整備地区での整備促進、整備計画に留意した適切な生活排水対策の実施や住宅開発など

●坪井川や井芹川等における親水空間の保全と創出

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善

●地下水汚染物質の使用自粛や適正な管理による地下水汚染等の未然防止、汚染地区の浄化対策

自然豊かな「森の都」を育てる

●国指定天然記念物ヤエクチナシ自生地や特定植物群落立田山のコジイ林、巨樹・巨木林などの保全

●立田山の自然環境の保全と適正な整備や利用による野鳥や昆虫等の生息環境の保全

●地域に残されてきた多様な自然環境の保全と適切な活用

●地域の落葉広葉樹林地などにおける良好な土壌形成の保全、水辺の自然環境及び水辺と樹林地の自然の連続性確保など、多様な生物生息環境の保全や創造

●立田山及び周辺地域、水辺周辺での開発に伴う生態系への影響の未然防止及び生物生息環境の分断防止

●井芹川、坪井川及び白川における生物の生息環境や水辺生態系の保全、多自然型工法等による生息環境の確保

●立田山や京町台地、白川や坪井川・井芹川沿岸など多様な自然景観の保全と調和に配慮したまちづくり

●地域のシンボルとしての立田山への眺望の保全

●立田山など市街地に面した斜面緑地の保全、古くからの住宅地における屋敷林などの保全・活用による緑豊かな居住環境づくり

●各地に点在して残されている農地等の保全と自然とのふれあいの場としての活用

●区画整理事業等の大型団地における緑地協定の締結

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●周辺の自然環境と一体となった史跡や埋蔵文化財の保全、身近な歴史的自然環境資源としての活用

●地域に引き継がれてきた歴史的文化的資源の適正な保全と活用

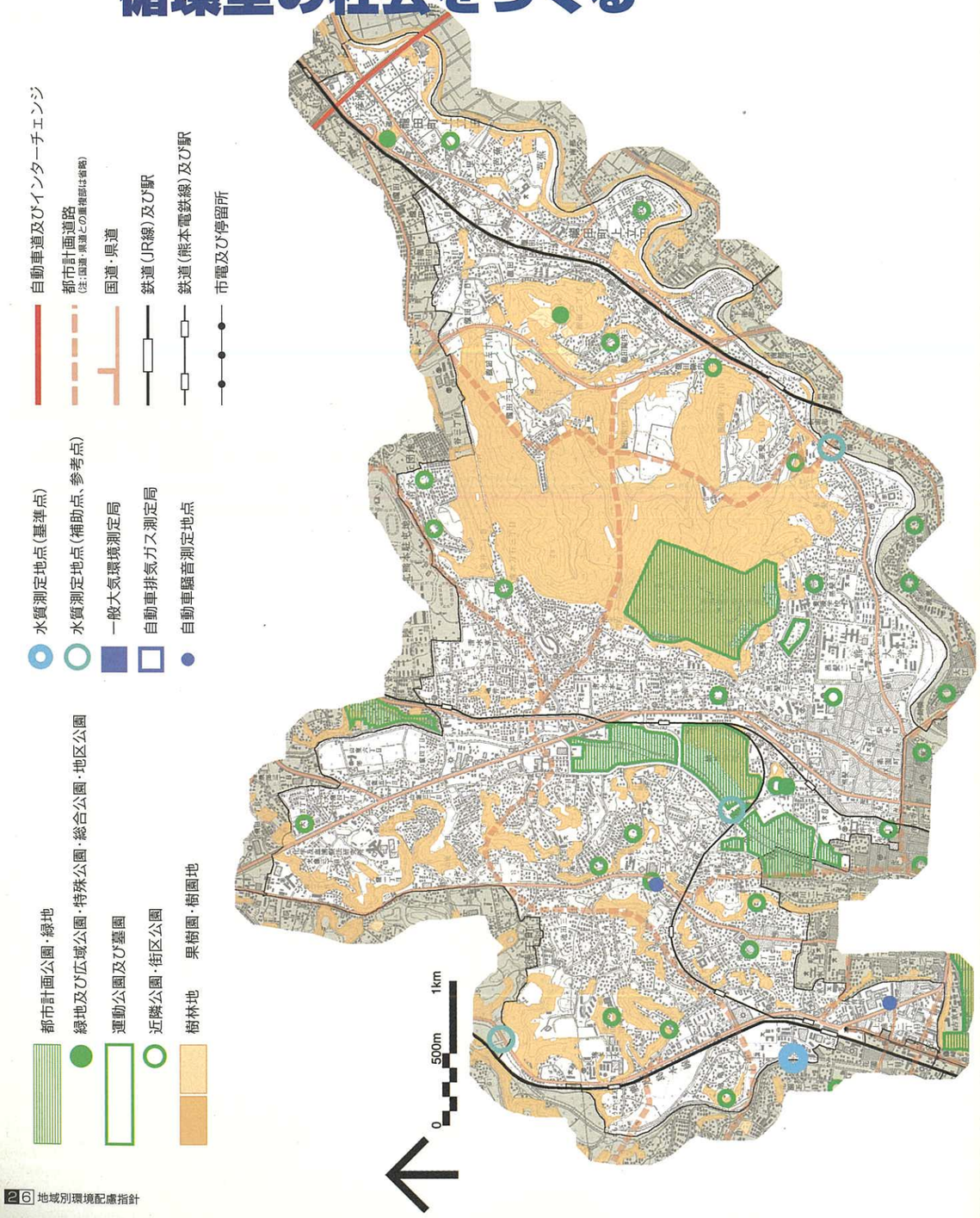
●立田山や台地縁辺の斜面地緑地の保全と街並み背景として緑地の積極的な活用など

●黒髪地区など、立田山周辺地域における緑豊かな街並みや趣のある街並みの保全と活用

●古くから居住する住民との連携による趣のある緑豊かなまちづくりの推進

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局がありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成していると考えられます。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

●自動車交通が集中し交通量も多く渋滞しやすい地域であり、通過交通等による二酸化炭素等の排出量が多い地域といえます。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定は、国道3号線、四方寄熊本線、熊本玉名線で実施されています。

●国道3号線、四方寄熊本線沿線の測定地点では、夜の時間帯で環境基準を達成していません。

●熊本玉名線の上熊本交番前では、全時間帯で環境基準を達成していませんでしたが、騒音規制法による要請限度は達成しています。

有害物質

●池田小における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。

交　通

●地域内にＪＲ線や熊本電鉄線が通過しており、交通利便性が比較的高い地域です。

●交通量の多い国道3号線と県道熊本菊陽線などの主要道路が通過し、歪曲した狭い道路が多くあることから、慢性的な交通渋滞が発生しています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会53団体、町内会4団体、ＰＴＡ6団体、老人会7団体、婦人会3団体、その他2団体の計75団体が登録され、活動を行っています。

●住宅地の庭や周辺に緑も多く、家庭での生ゴミの堆肥化による家庭菜園などへの活用も可能な地域です。

自然災害

●台地縁辺部には崖や急な斜面地が形成されている地区も多くあり、豪雨時等に斜面崩壊が発生しやすい地盤条件となっています。

●坪井川・井芹川の谷底平野は、平野への出口部が地盤の低い地域となっているため、豪雨時に浸水しやすく、かつてはたびたび浸水が発生していました。

●白川沿いの段丘面は低く、白川の増水による浸水被害も発生しています。

【環境質の状況】

自動車交通騒音

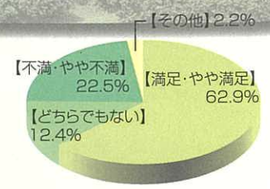
北部郵便局前・上熊本交番前では、昼・夜の環境基準を未達成、池田出張所前では夜の環境基準を未達成

ダイオキシン

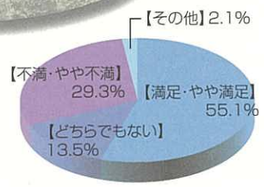
測定地点で大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい

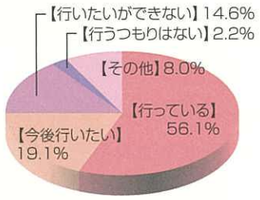


●静けさ

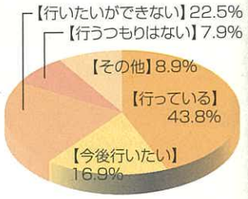


●空気のきれいさやにおい、静けさへの満足度は、高い地域となっています。それぞれ不満の原因としては、「自動車の排気ガス」、「自動車やバイクの騒音」など自動車交通公害が主因となっています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●公共交通など利便性がやや高い地域でもあり、「マイカー利用を控える」も高い傾向にあります。「自転車を利用する」は、中心市街地や東部の健軍地域に比べ低い傾向にあります。

【環境づくりの課題】

●慢性的な交通渋滞の解消、自動車排気ガス対策や騒音対策など、自動車公害の改善
●環境保全に向けた緑地の適正な維持管理、道路沿線の緑化や緑地帯の確保、自転車利用の促進に向けた適正な整備
●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など
●斜面地周辺での土砂災害や河川周辺等での水害などの自然災害の未然防止など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる
ごみを減らし、資源循環のまちをつくる
地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上や自転車利用施設の充実など
●交通渋滞の緩和をはじめ、自動車交通環境の改善など、緑地の保全と創造等に留意した道路整備
●緑地の環境保全機能の維持・向上のための適切な樹林地等の育成や緑地の維持管理
●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止
●工場等事業所と住宅の混在地区における環境保全対策
●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など
●地域における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区の改善対策

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用
●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化
●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

自然災害防止

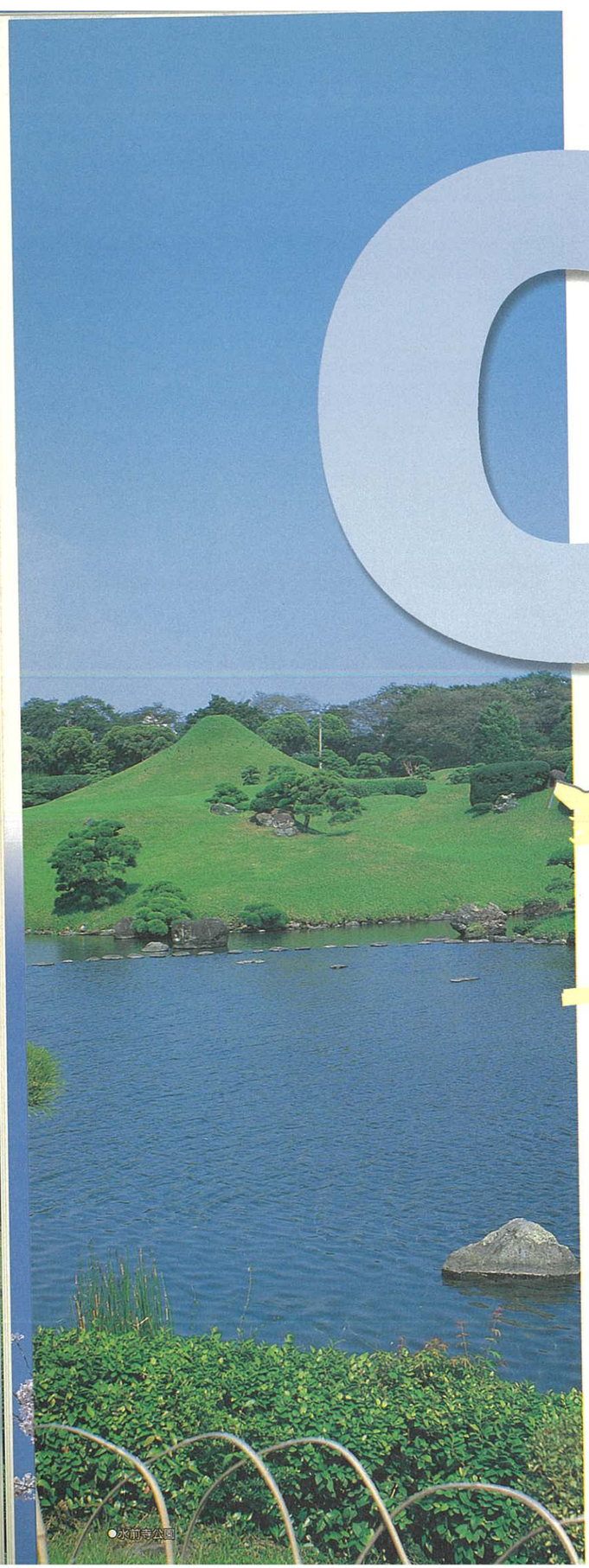
●坪井川や井芹川等における水害の防止、後背流域での雨水保水機能の向上
●立田山周辺や台地縁辺斜面地などでの崖くずれなど土砂災害への配慮、地盤保持機能の高い植生の育成

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

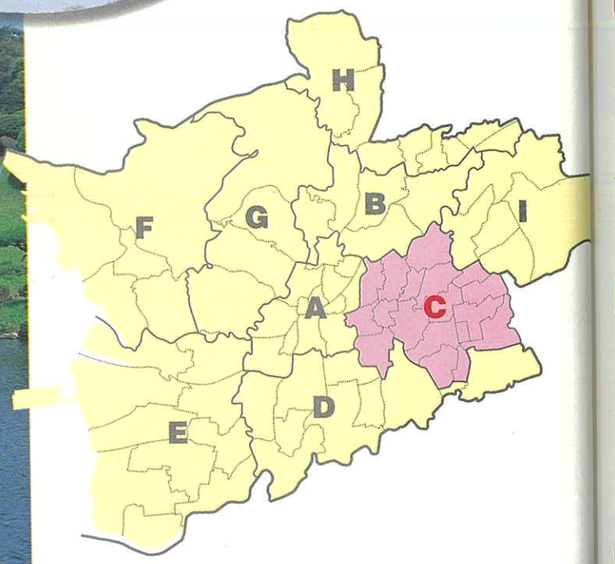
C地域

地域の位置・対象校区

西原、託麻原、帯山、帯山西、出水、出水南、砂取、月出、山ノ内、東町、桜木、桜木東、健軍東、尾ノ上、健軍、泉ヶ丘、白山、大江



●水前寺公園



環境づくりの基本的方向

やすらぎと潤いのある文教の香り漂う環境づくり

○地域のさまざまな文化施設等を活用した質の高い街づくり

○地下水かん養機能の保全や江津湖の自然環境の保全と一体となった緑地の整備など、やすらぎと潤いのある街づくり

○公共交通網の利便性の向上と利用促進による環境にやさしい魅力ある街づくり

1 地域の概況

地勢・沿革

●全域的に安定した平坦な託麻台地が広がり、南西部に市の自然環境や湧水を代表する江津湖をはじめ水前寺公園があります。

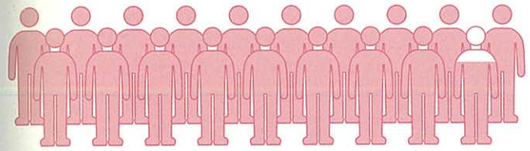
●道路網の整備とあわさって昭和30年代以降急速に市街化されてきた地域で、県庁をはじめ、体育館、図書館、劇場、大学や高校などの文化教育施設も集積され、今後の発展が期待されています。

●急激な都市化による地下水かん養機能の減少、雨水流出の増大に伴う内水氾濫や交通渋滞など、今後改善していくべき問題も多くあります。

人口・世帯数

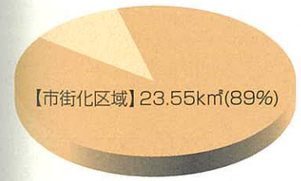
平成12年10月時点

【地域人口】 187,107人



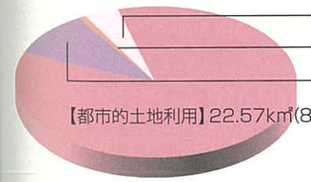
【地域世帯数】 78,724世帯

面　積



【地域面積】26.36㎢

土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】 昭和30年代以降急速に市街化した地域で、都市的土地利用が9割近く広がっています。自然的土地利用は、南西部の江津湖周辺の水辺や林地をはじめ、白川沿岸の水田や東部の畑地など地域周辺部に分布しています。

交　通

●鉄　道：北西側にJR豊肥本線が位置し、南部の県道熊本高森線に中心市街地や熊本駅、上熊本駅を結ぶ市電が走っています。

●道　路：国道3号線や57号線による中心市街地への交通集中を避けるために整備された熊本東バイパス（国道57号線）が南北に縦断し、東西に県道熊本高森線、熊本空港とを結ぶ熊本益城大津線が通過しています。

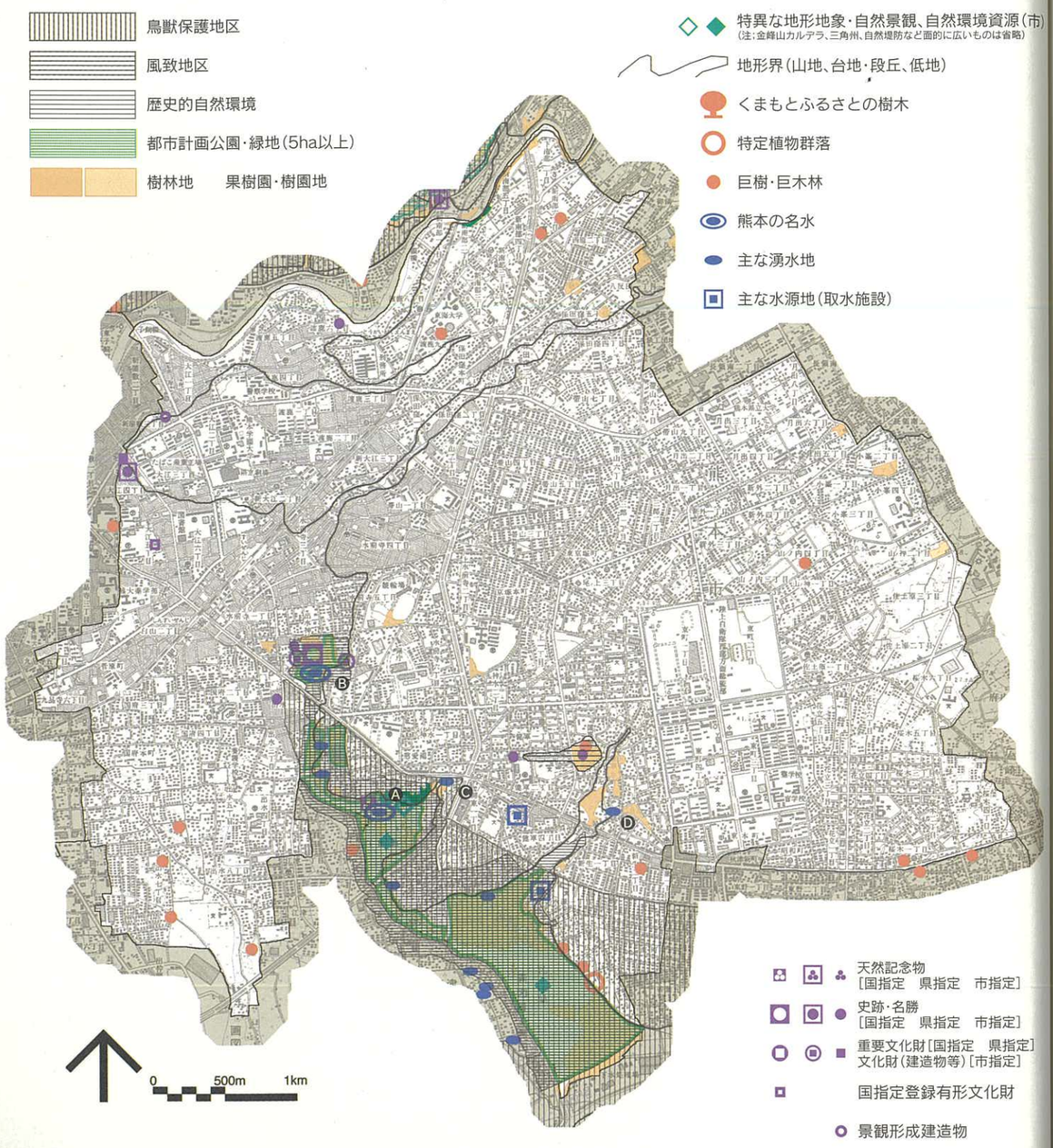
主な開発計画

【交　通】 都市計画道路(熊本駅新外線、船場神水線、出水町国府東水前寺線、他)

【その他】 水前寺江津湖周辺の景観整備など

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●阿蘇火砕流堆積物を基盤に形成された標高10～40mの平坦な託麻台地からなる地域で、東部から南西部の江津湖にかけて緩やかに標高を下げています。台地面は、白川沿いで低いほか、低地は、江津湖に流入する健軍川や藻器堀川沿いの浅い谷底平野からなっています。

●託麻台地は、段丘堆積物や阿蘇火砕流堆積物からなり、透水性が高く地下水かん養機能が高い地盤条件となっています。近年、急速に市街地が形成されてきたため、地下水かん養機能が著しく低下しているほか、地域の雨水保水機能も低下してきています。

●北部には蛇行する白川、南西部に江津湖が分布し、それぞれ個性豊かな水辺空間を形成しています。

●江津湖周辺や水前寺公園は、豊富な湧水に恵まれ、本市を代表する良好な水辺環境として、広く市民や観光客に親しまれています。

●有機塩素化合物による地下水汚染地区があり、汚染機構解明調査が行われ、健軍地区では浄化対策が終了しています。その他の地区では水質監視を継続しています。

●加勢川の支流で江津湖に流入する健軍川や藻器堀川が、地区の中央部を東から西に流下していますが、地表水が地下浸透しやすい地盤条件からなるため、普段は自流水が少ない河川となっています。

●地域内に河川水質の環境基準点は設定されていませんが、補助点が、白川で小磧橋に、加勢川で砂取橋(市道)、江津斉藤橋、秋津橋に設定されています。

●その他に補助点として健軍川(第三湖東橋)や藻器堀川(九州記念病院前)に設定されています。これらの河川は、かつて急激な都市化に伴う水質汚濁が著しかったのですが、下水道整備に伴い良好な水質が保たれています。

●下水道は、ほぼ全域が東部処理区で、一部を除き大半が整備されています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

白川(小磧橋)→平成6,7年度を除き、環境基準(B類型)を達成

加勢川(砂取橋)→平成7,10年度を除き、環境基準(A類型)を達成

加勢川(江津斉藤橋)→平成8,10年度を除き、環境基準(A類型)を達成

加勢川(秋津橋)→環境基準(A類型)は未達成

●地下水質

有機塩素系化合物による地下水汚染地区：西原、健軍、新南部、尾ノ上

【環境資源一覧】

河川等

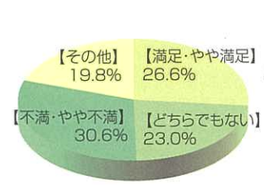
白川、江津湖及び江津湖に流入する健軍川や藻器堀川(加勢川水系)

湧　水

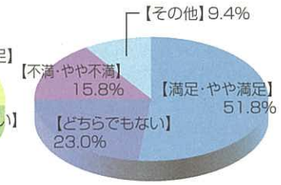
上江津湖湧水群Ⓐ、水前寺公園Ⓑ、元神水苑Ⓒ、除野務家Ⓓ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさや地下水の豊富さに対する満足度は、それぞれ市域で最も高くなっています。きれいさについては不満が満足をやや上まわっており、原因として「ゴミの散乱」等が特に多く、次いで「家庭排水」となっています。

●地域南西端に江津湖が広がり、地下水の豊かさが実感しやすい地域であることが考えられます。また、不満の主な原因として約6割の人が「湧水地の水量の減少」をあげています。

【環境づくりの課題】

●地下水かん養上重要な地域であり、かん養機能の回復などに配慮した緑地空間の創出等、総合的な地下水保全対策

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止、汚染地の環境改善

●江津湖水質の保全、健軍川、藻器堀川等の水質浄化や水辺のゴミ散乱防止、身近に自然とふれあえる親水空間の形成

●循環型の水利用、雨水の有効利用など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●まとまった自然や緑地は、江津湖周辺以外にはほとんど残っていません。急速な市街地のスプロール化に伴って形成された市街地が広がるため、計画的な公園整備が遅れており、全体的に公園緑地等が少ない地域となっています。

●熊本の豊かな湧水により形成された江津湖や水前寺公園は、水生生物をはじめ野鳥などの生物相が豊かです。特に、江津湖は、国天然記念物のスイゼンジノリ発生地をはじめ、野鳥や水生生物の宝庫で、学術的に貴重な種も多く見られます。一帯は江津鳥獣保護区に指定されています。

●水前寺や江津湖周辺の地域は、水前寺成趣園(国)をはじめとした歴史的文化的環境資源が多くあり、一帯は風致地区となっているほか、広域公園に指定されており、水辺や自然とふれあえる身近な憩いの場となっています。

●住宅が密集する大江校区付近は、緑が多い住宅地を形成していますが、最近ではマンションの建設が目立ちます。

●水前寺や江津湖周辺を除く地域には、まとまった樹林地等の緑地がなく、北東部や出水南校区などに農地が点在しているだけとなっています。

【環境資源一覧】

天然記念物

スイゼンジノリ発生地(国)

特定植物群落

江津湖のキタミソウ自生地

巨樹・巨木林

13箇所

特異な地形・地質・自然現象

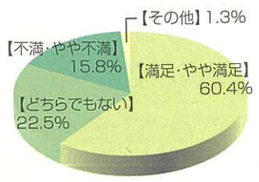
水前寺湧水、自然堤防、複合三角州、江津湖湧水

自然景観資源

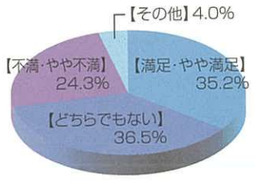
江津湖、水前寺

【市民意識】　平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいについては、やや満足が高い傾向となっていますが、生き物とのふれあいの満足度は、中心市街地に次いで低く、不満の原因として「野鳥や昆虫が少ない」、「生息できる場所が少ない」となっています。

【環境づくりの課題】

●江津湖や水前寺周辺に残されている貴重な自然環境の保全

●市街地におけるまとまりや連続した緑地の整備や都市緑化の推進

●健軍川、藻器堀川の水辺環境の改善など、身近な生物生息環境の復元や創造など

歴史遺産等

【現　　状】

●国指定史跡・名勝として水前寺成趣園、市・県指定文化財の洋学校教師館等があり、水前寺周辺に歴史的文化的資源が集中しています。水前寺周辺は、熊本城周辺につぐ観光の名所となっています。

●東町には明治期に建設された軍施設があり、現在は、北半分が陸上自衛隊の施設として、南半分が集合住宅や教育施設として利用されています。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

水前寺成趣園(国)、大江義塾跡(県)、渡鹿菅原神社境内(市)、水前寺廃寺跡(市)、肥後出水国分寺塔心礎・礎石(市)、健軍神社杉馬場(市)、健軍神社境内(市)

文化財(建造物)

古今伝授の間(県)、洋学校教師館(県)、徳富旧邸(市)

登録有形文化財

九州学院高等学校講堂兼礼拝堂

景観形成建造物

古閑邸

埋蔵文化財

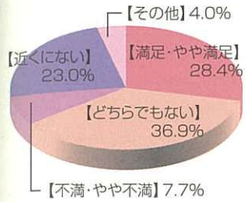
国府推定地、国分寺跡の他、弥生時代から古代に至る大集落が、水前寺・江津湖周辺と健軍神社周辺にまとまって分布

主な街並み

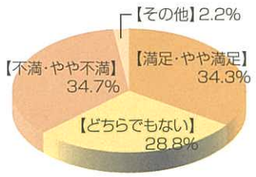
健軍神社参道の杉並木、東町の桜並木

【市民意識】　平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



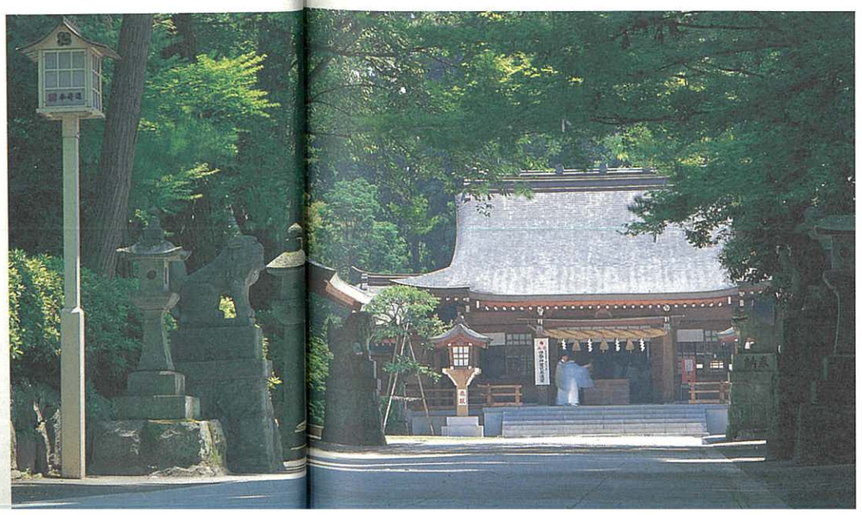
●歴史的雰囲気の満足度はやや高い傾向にありますが、歴史的資源が近くにないと感じている意見も多い傾向にあります。また、街並みの風景の美しさへの満足度は、市域でも高い傾向にありますが、不満の割合もほぼ同じポイントとなっています。不満の原因としては、「看板や電柱が目立つ」、「街並みが雑然としている」、「建築物が不ぞろい」があげられています。

【環境づくりの課題】

●地域に継承されてきた歴史的文化的資源の保全と活用

●水前寺・江津湖周辺での水との関わり、自然と文化を生かしたまちづくり

●ゆとりと安らぎのある教育、文化活動の場の整備など



1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●江津湖や水前寺などの湧水地や周辺の緑地環境の保全

●地質的に透水性が高い地域であり、地下水かん養機能の向上に配慮した緑地空間の創出等

●建物周辺の緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透桝の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の向上

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善

●地下水汚染物質の使用自粛や適正な管理による地下水汚染等の未然防止、汚染地区の浄化対策

●健軍川、藻器堀川の水辺環境の改善など、身近な水辺環境の活用と創造

●江津湖に流入する健軍川、藻器堀川や水路等の水質浄化

自然豊かな「森の都」を育てる

●江津湖や水前寺周辺に残されている貴重な自然環境の保全、生物生息拠点としての適切な保全

●水前寺及び江津湖周辺の屋敷林等、地域の風土的景観の適正な保全

●学校など公共施設でのオープンスペースの確保と公園緑地の整備、住まいや事業所周辺緑化など都市緑化によるまとまりや連続した緑地環境の創造

●健軍川や藻器堀川などの水質浄化、多自然型川づくりや沿川地域の緑化など水辺環境の改善と生物生息環境の復元や創造など

●身近な生物の生息環境の確保に留意した公園や緑道の整備、建物周辺緑化等

●屋上緑化等の緑地空間を考慮したマンションの建設

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

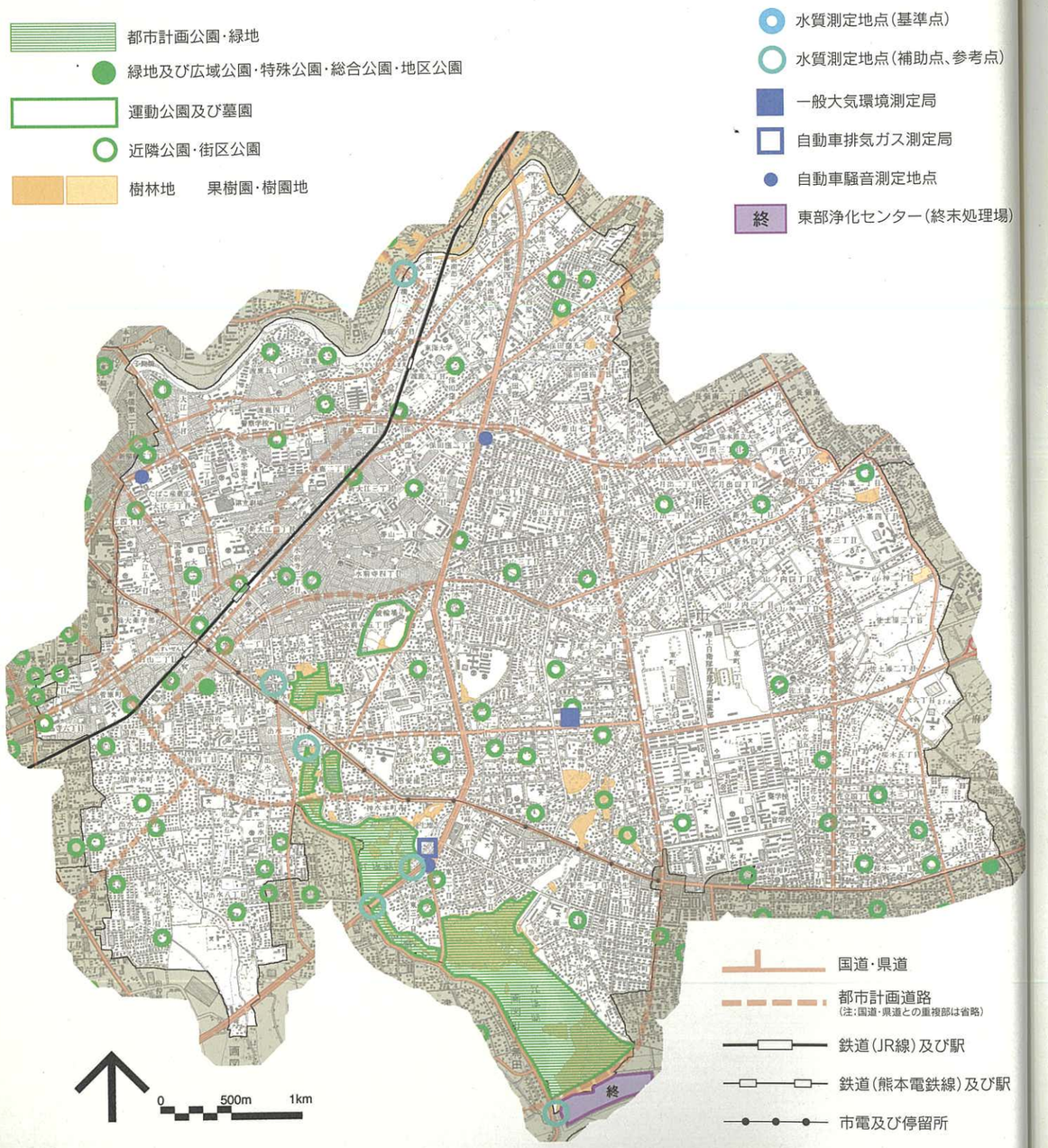
●水前寺成趣園、健軍神社、夏目漱石大江旧居、ジェーンズ邸など、地域における歴史的文化遺産の保全と活用によるまちづくり、街並景観の形成

●水前寺、江津湖周辺の埋蔵文化財が多く出土する地域での文化財の特性に応じた適正な保全と活用

●健軍神社など地域の歴史的文化的環境の場となっている社寺や社寺林の適切な保全と活用

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　　状】

大　気

●地域には、錦ヶ丘に一般環境大気測定局、神水本町に自動車排気ガス測定局があります。
●各測定局の測定結果では、二酸化硫黄、二酸化窒素についてはここ数年は環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは、環境基準を達成していません。
●自動車が主な発生源となっている窒素酸化物や浮遊粒子状物質は、一般環境測定局では横ばいの傾向にありますが、自動車排気ガス測定局では高い傾向になっています。
●高層住宅やマンションをはじめ、戸建住宅など多様な住宅地が形成されているほか、急速な都市化のため道路整備が遅れている地区も多く見られます。
●自動車交通が集中し交通量も多く、温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出量も高い地域ですが、二酸化炭素の吸収や都市気候の緩和機能などを果たす緑地がほとんどない地域です。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定は、国道57号線及び産業道路で実施されています。
●全ての測定地点で、昼と夜の時間帯で環境基準を達成していません。

有害物質

●大江市民センターにおける有害大気汚染物質の測定結果では、環境基準が定められているベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタンについて基準を達成しています。
●神水本町局、錦ヶ丘局、西原小、東稜高校における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。

交　通

●JR豊肥本線、県道熊本高森線に市電が走るなど交通利便性の高い地域ですが、熊本東バイパス（国道57号線）、県道熊本高森線、熊本益城大津線、産業道路など、交通量の多い幹線道路が集中し、平日の朝夕に慢性的な交通渋滞を起こしています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会107団体、町内会20団体、ＰＴＡ4団体、老人会6団体、婦人会12団体、その他1団体の計150団体が登録され、活動を行っています。

環境美化協定

●健軍校区美化協定、美化をすすめる西原４町内美化協定、泉ヶ丘３町内クリーン愛護会美化協定、泉ヶ丘校区第八町内自治会美化協定、泉ヶ丘二町内美化協定、美化・環境意識の高揚を図る美化協定

自然災害

●都市河川となった健軍川や藻器堀川沿線は、周囲より地盤がやや低く、豪雨時等に地表水が集中し浸水しやすい地区となっています。
●また、流域の農地山林が減少し、都市化にともなって豪雨時等に排水路や側溝などに水が集中しあふれ出すなど、都市型水害が発生しています。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

各測定局とも環境基準を達成

浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

各測定局とも環境基準を未達成

自動車交通騒音

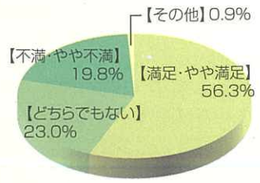
各測定地点で全時間帯において環境基準を未達成

ダイオキシン

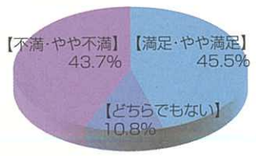
各測定地点で大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



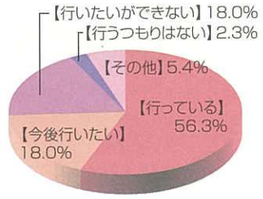
●静けさ



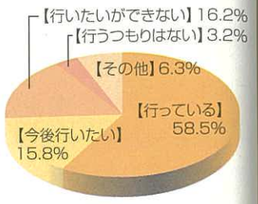
●空気のきれいさやにおいへの満足は、やや高い傾向にありますが、不満の原因として「自動車の排気ガス」が最も多くあげられています。

●静けさについては、満足と不満がほぼ同じ値となっていますが、不満が全市内で最も高く、「自動車やバイクの騒音」が不満の主因としてあげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動を行っている割合が、市内で最も多くなっています。平坦地が広がり、昭和30年代以降に開発された住宅地を主体とした地域であり、公共交通など利便性も比較的高く、土地区画整理がなされた地域も広がっていることなどが理由と考えられます。

【環境づくりの課題】

●慢性的な交通渋滞の緩和、自動車排気ガス対策や騒音対策など、自動車公害の改善

●渋滞の緩和や利用者に配慮した公共交通機関の相互連携や利便性向上など、公共交通網の体系的整備

●乗り継ぎ駅などでの駐輪場の確保、自転車道の整備など自転車利用しやすいまちづくり

●二酸化炭素等の吸収や都市気候の緩和に配慮した都市緑化や緑地の確保

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など

●廃棄物収集の効率化とごみ集積場所での鳥獣被害等の未然防止

●雨水の各戸貯留や地下浸透など、都市型水害の未然防止など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の結節強化など、利便性の向上や交通渋滞の緩和等に留意した道路整備

●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止、都市気候の緩和など

●省エネルギーや都市気候の緩和などに配慮した公共施設や学校、事業所周辺の緑化、太陽光発電パネルの導入など

●駅等乗り換え施設での適切な駐輪場の確保やレンタサイクルの充実、狭隘な路地等での交通安全対策、自転車道の確保など、自動車優先型都市構造から歩行者優先型まちづくり

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染や地下水汚染の未然防止など

●地域における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区での浄化対策

自然災害防止

●雨水の保水機能や地下浸透機能の向上、排水機能の向上などによる都市河川での水害の防止

●まとまりや連続するオープンスペースの確保や建物やインフラの防災対策など、自然災害や二次災害防止に配慮した安全なまちづくり

ごみ対策

●家庭や飲食店等事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化、ごみ集積場所での鳥獣被害等の未然防止、生ゴミによる堆肥の活用空間の確保と提供など

●市街地や住宅地における積極的な環境美化や狭小路地の多い地域におけるごみ収集の効率化への協力

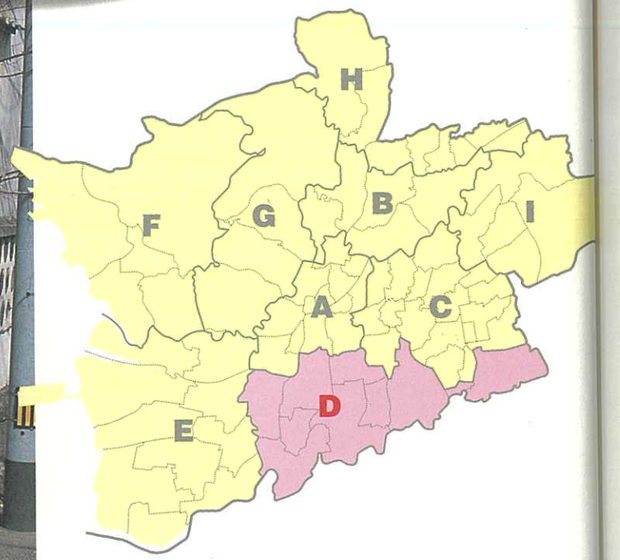
●フリーマーケットやガレージセール等ができる施設や空間づくりと提供

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

D地域

地域の位置・対象校区

画図、田迎、田迎南、日吉、日吉東、城南、力合、御幸、川尻、秋津、若葉



●川尻の街並

環境づくりの基本的方向

田園や水辺環境と調和した流通機能の高い環境づくり

○環境に配慮した効率的な流通業務や伝統的産業が営まれる街づくり

○都市隣接の田園環境のもつ特性や自然豊かな水辺環境を活かした自然とのふれあいづくり

○公共交通の利便性向上による環境にやさしい魅力ある街づくり

1 地域の概況

地勢・沿革

●地域は、起伏のない標高5m以下の平坦な氾濫平野からなり、南北に延びる帯状の自然堤防上に古くからの集落が形成された田園地帯となってきました。

●かつては、大半が水田地帯でしたが、北部や県道・国道沿いから市街地が広がり、南部第一土地区画整理事業や流通業務団地造成事業などが次々と実施され、業務地区や住宅地として変貌してきています。

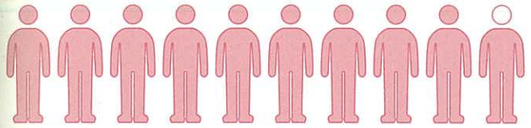
●熊本新港から熊本空港や九州自動車道を結ぶ東バイパスが横断するなど、流通業務の核としての発展が期待されています。

●また、南部には田園地帯が広がるなど都市農業として展開が期待され、業務機能の拡充と田園環境の調和を図っていくことが求められています。

人口・世帯数

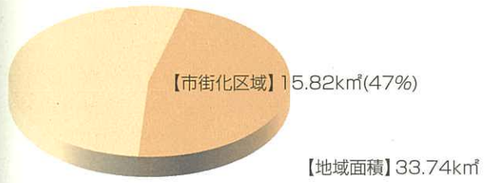
平成12年10月時点

【地域人口】 98,374人

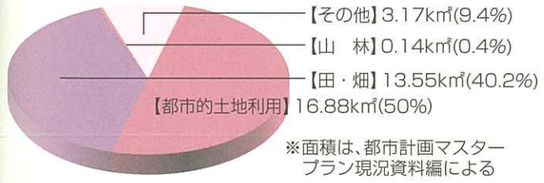


【地域世帯数】 35,012世帯

面　積

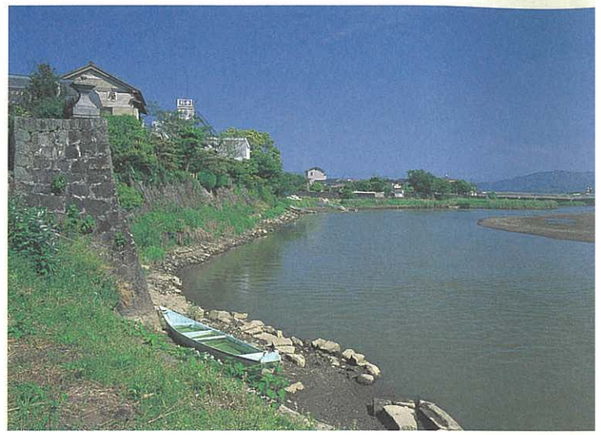


土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】地域の北部から市街化が進展し、ほぼ半分が都市的土地利用となっています。自然的土地利用は南部に広がる水田を主体とした農地と水面やその他となっています。



交　通

●鉄　道：西側にJR鹿児島本線が縦断しているほか、北部の一部はJR豊肥本線に接していますが、駅は南西部の川尻駅のみで、全体的には鉄道利便性は低いといえます。

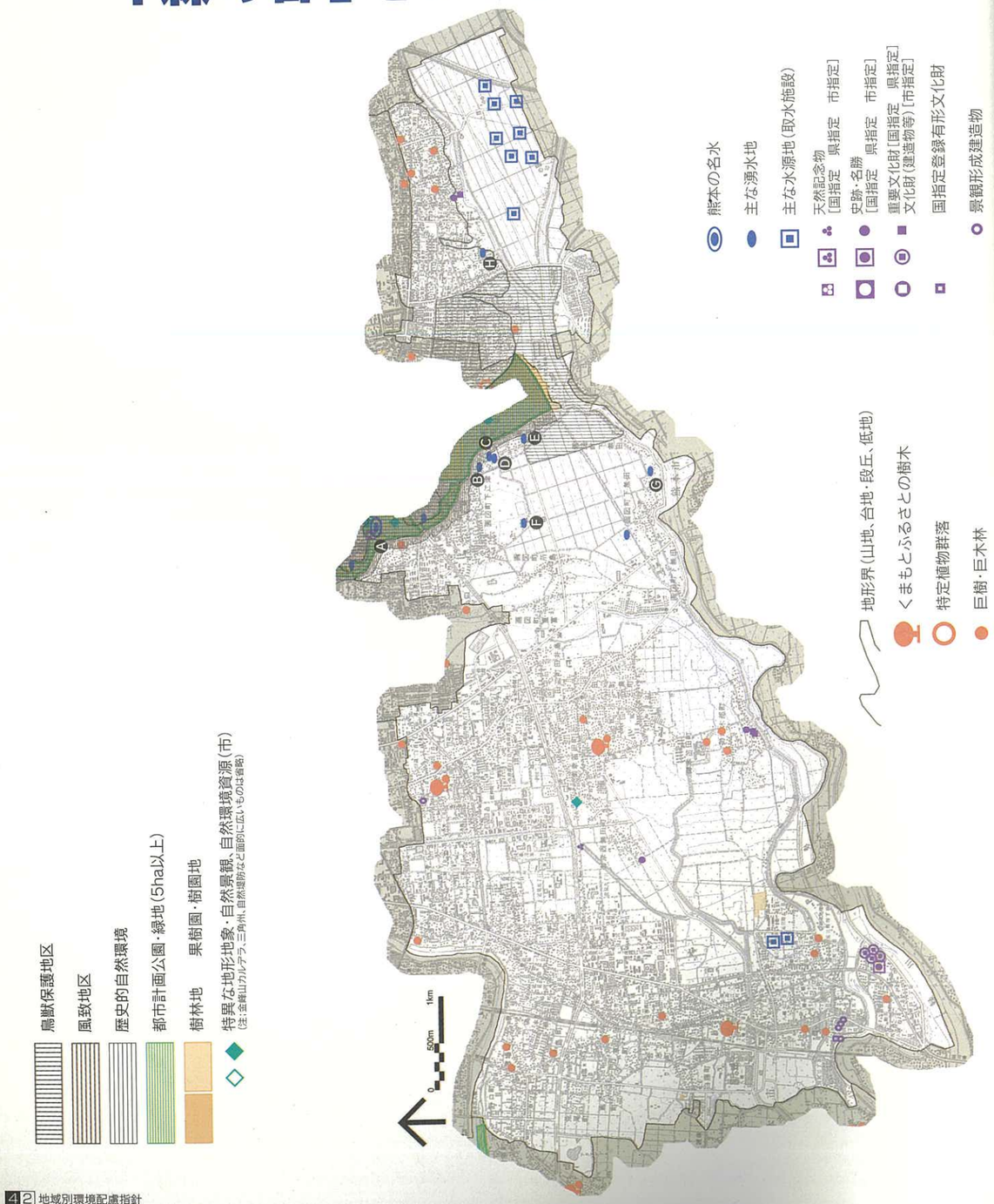
●道　路：南北に国道3号線、266号線が縦断し、国道57号（東バイパス）が東西に横断するほか、これらの国道に挟まれた中央部に流通団地を中心とした平成大通りと平成けやき通りが整備されています。

主な開発計画

【交　通】都市計画道路（本荘犬渕線、新土河原出水線、下南部画図線、他）

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●白川や加勢川、木山川などの河川の氾濫によって形成された低地で、北西部に白川、東部や南部には加勢川と江津湖が接しているほか、秋津地区には加勢川支流の木山川が流れています。

●また、平野内には、天明新川と木部川を中心とした河川や水路が網状に分布しています。

●秋津地区を除く全てが湿潤な低地からなり、水田地帯として利用されてきました。南北に舌状に延びる自然堤防は、広大で湿潤な低地にあって、比較的排水性がよく浸水しにくい土地のため、早くから農村集落や街道などが形成され、緑の多い住宅地が形成されています。

●東側は、湧水群が形成した江津湖と接し、また、画図周辺には湧水地が多く見られるなど、地下水が地表に湧出する地帯となっています。

●市民の憩いの場として利用されている江津湖は、上流域の市街化などにより、湧水量の減少や水質汚濁などが見られます。

●有機塩素化合物による地下水汚染が見られる地区もあります。

●河川水質の環境基準点が加勢川の大六橋、天明新川の六双橋に設定されています。補助点として、白川の十禅寺、加勢川の秋津橋、天明新川の三俣橋に設定されているほか、旧天明新川(小原橋)や木部川(坂場橋)があります。

●天明新川は、流通団地北部に始まり、白川からの農業用水路や田園地帯を流れる旧天明新川を合流して流れ、上流域の都市化に伴う生活排水の流入などにより水質汚濁が見られます。

●下水道は、南部処理区が大半ですが、東部は東部処理区に含まれます。下水道整備が進められていますが、未整備地区も広がっています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

白川(十禅寺)→平成7年度を除き、環境基準(B類型)を達成

加勢川(秋津橋)→環境基準(A類型)は未達成

加勢川(大六橋)→平成8年度を除き、環境基準(A類型)は未達成

天明新川(三俣橋)→平成8年度測定以来、環境基準(B類型)は未達成

天明新川(六双橋)→環境基準(B類型)は未達成

●地下水質

有機塩素系化合物による地下水汚染地区：若葉

【環境資源一覧】

河川等

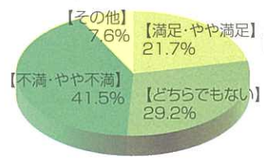
白川、加勢川、木山川、天明新川、木部川、他（用水路等）

湧　水

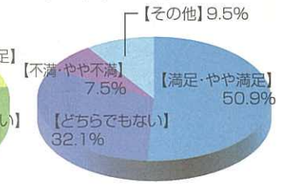
江津湖Ⓐ、菅原神社Ⓑ、松尾神社Ⓒ、鈴木義親家Ⓓ、大川健一家の湧水Ⓔ、画図小学校Ⓕ、武藤養魚場Ⓖ、中無田神社Ⓗ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの不満の原因は、家庭からの排水をあげている割合が多く、次いでゴミの散乱となっており、市街地地域とは逆転しています。

●また、地下水の豊富さについての満足度は、高い傾向にあります。不満の割合が低いものの、不満の原因として「地下水かん養地域での開発」や「家庭での水のむだづかい」があげられています。

【環境づくりの課題】

●生活排水処理対策による天明新川などの水質浄化

●農地への混住化に伴う農業用水の汚染防止

●河川や水路等を活用した身近に自然とふれあえる水辺環境の形成

●地下水汚染の防止、汚染地の環境改善

●循環型の水利用、雨水の有効利用など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●加勢川沿岸までの南部は、水田と水辺環境からなる田園地帯が広がり、豊かな田園景観となっています。

●森林などの緑地はありませんが、江津湖周辺や木山川の低地に面した段丘面、自然堤防上に古くから形成された住宅地には、屋敷林や庭木など、緑被率の高い住宅地が多く、良好な街並みを形成しています。

●東部に接する江津湖は、都市の中に残る貴重な自然であり、市民の憩いの場となっているほか、野鳥や水生生物をはじめとした良好な生物生息環境となっています。そのため、江津鳥獣保護区や風致地区に指定されています。

●南部の加勢川、木山川とその周辺も、自然性の高い水辺環境を形成し、野鳥やホタル等の昆虫、淡水魚類などの良好な生息環境の場となっています。

●南部の田園地帯は、貴重な生産緑地や遊水地として重要な役割も持っています。

●地域の東側に接する江津湖は、熊本を代表する湧水地で、野鳥や水生生物などが生息する豊かな自然環境となっています。

【環境資源一覧】

天然記念物

西無田〔御幸〕の一本榎(市)

ふるさとの樹木

お宮の大銀杏、田迎神社の楠、河尻神宮の御神木

巨樹・巨木林

25地区

特異な地形・地質・自然現象

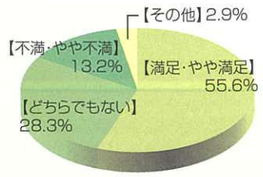
江津湖湧泉、自然堤防、複合三角州

自然景観資源

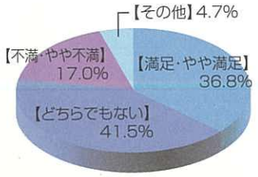
江津湖

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいは、やや満足の傾向にありますが、市全体と比べてやや低くなっています。生き物とのふれあいの満足度は、市全体と比べてやや低く、不満の割合は市街地地域に比べて低く、「身近に野鳥や昆虫が少ない」、「生息できる場所が少ない」などがあげられています。

【環境づくりの課題】

●江津湖をはじめとした良好な水辺の自然環境の保全と活用

●地域を流れる河川や水路を生かした連続した水辺や緑地の創造など

歴史遺産等

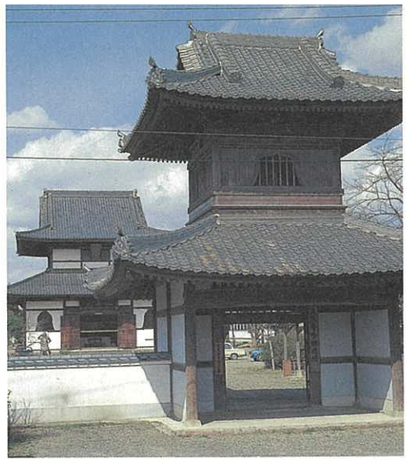
【現　　状】

●地域における歴史的文化的資源は、主に川尻地区と江津湖周辺に集中しています。隣接地である江津湖左岸の台地等には埋蔵文化財が多く見られます。

●江津湖左岸の台地部は、古代、海辺に近接した地域であり、縄文時代から生活の場として開けてきました。

●舟運の港として栄えた川尻地区は、古くから伝統工芸や水辺環境を中心とした特色ある街並を形成し繁栄してきました。これらの歴史と伝統、歴史的建造物や街並などを生かした特色ある街づくりが進められてきています。

●南北に舌状に延びる自然堤防は、排水性がよく浸水しにくいため、早くから農村集落が形成され街道が通過するなど、今の街の骨格を形成しています。



【環境資源一覧】

史跡・名勝

大慈寺境内(県)、四時軒跡(市)、明治天皇御幸御野立所(市)、木部地蔵堂敷地〔道伝寺跡〕(市)

文化財(建造物)

大慈寺の層塔〔永仁五年銘〕(県)、大慈寺の層塔〔無銘〕(県)、大慈寺の宝篋印塔(県)、大慈寺の宝塔(県)、林田左京亮逆修板碑(市)、六地蔵塔(市)、四時軒(市)

登録有形文化財(国)

今村家住宅

景観形成建造物

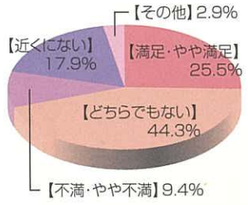
今村邸〔旧薩軍本営跡〕、瑞鷹酒造、吉村邸、瑞鷹酒造〔旧吉村醤油店〕、木村家〔小出邸〕

主な街並み

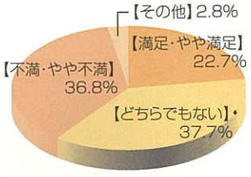
川尻かいわい、造り酒屋、川尻船着き場、江津湖周辺

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気の満足度はやや低い傾向にあります。街並みの風景の美しさへの満足も低く、不満が上回っています。不満の原因として、「看板や電柱が目立つ」、「街並みが雑然としている」、「建築物が不ぞろい」となっています。

【環境づくりの課題】

●歴史的文化的資源の保全、伝統工芸の振興

●川尻地区における歴史と伝統を生かした街づくりや景観形成

●南部の田園景観の保全に配慮した道路や市街地の整備など

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●江津湖をはじめとした湧水地の保全と活用

●下水道整備など、生活排水処理対策による天明新川などの水質浄化や水辺や水路等でのゴミ散乱防止

●計画的な土地利用の推進など、農地への混住化の防止と農業用水の保全

●加勢川や天明新川などの河川や水路の活用した身近に自然とふれあえる場の形成、水辺周辺の緑地の保全や創造

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止、汚染地区の浄化対策など

自然豊かな「森の都」を育てる

●江津湖や加勢川などの自然性の高い水辺環境や生物生息環境の保全、周辺農地の保全などによる、良好な水辺の生態系の保全

●地域を流れる河川や水路を生かした親水空間の創出、多様な水生生物や野鳥等の生息環境の創造、水辺周辺の農地等緑地の保全や緑化などによる、連続した水辺や緑地による生物生息環境のネットワークづくり

●水辺の安全性や親水性の向上、水辺景観の創造による潤いと安らぎのある街並みの形成

●農業生産機能や景観保全機能、遊水地としての水害防止機能、生物生息環境の保全など、田園地帯が有する多面的機能の発揮と向上

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

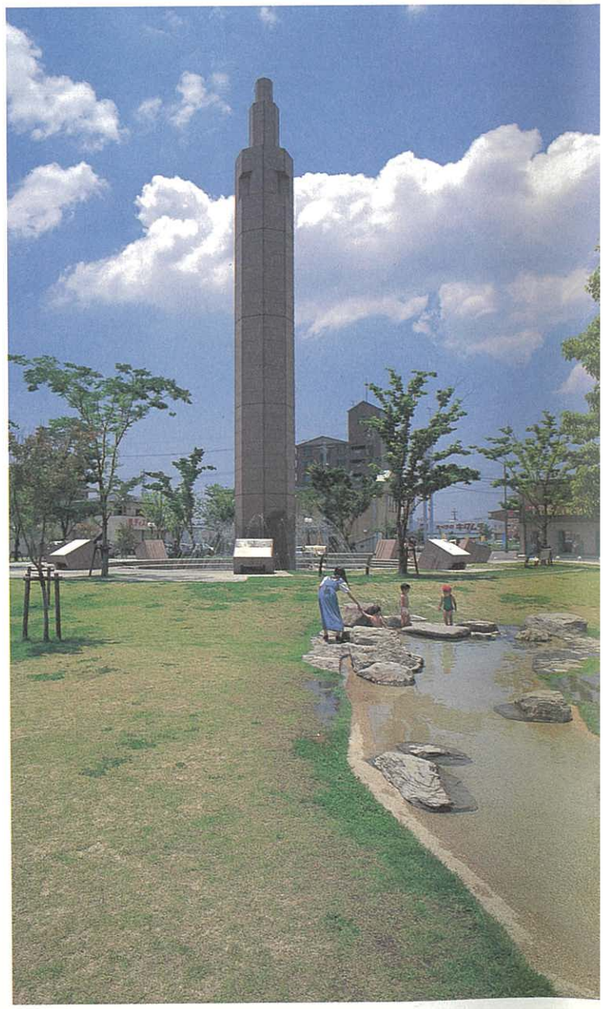
●地域に継承されてきた歴史的文化的資源の保全、伝統工芸の振興、伝承者の保護・育成、工芸品の販路拡大、文化学習素材としての活用

●川尻地区における船着場としての歴史、桶屋・刃物屋などの伝統産業や歴史的建造物を生かした風格ある街並みの形成

●大慈禅寺をはじめとする地域を代表する社寺や社寺林などの保全と活用

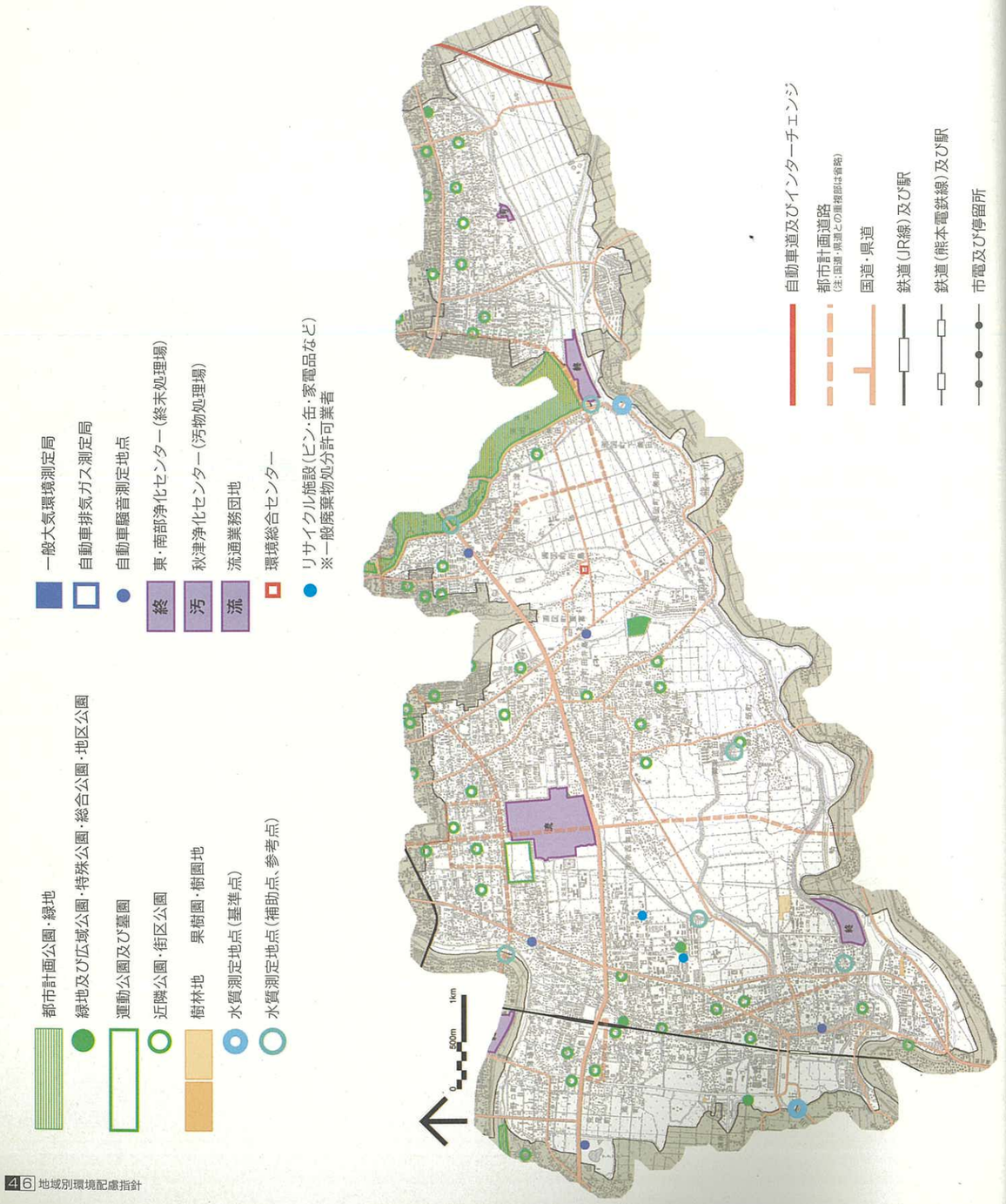
●南部田園地域における残された緑豊かな田園景観の保全と調和

●区画整理が進んだ新市街地での魅力ある街づくり、国道3号線沿いの工業地等における周辺緑化など、良好な地域景観の創造など



2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　　状】

大 気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局がありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成していると考えられます。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

●自動車交通が集中し交通量も多く、温暖化の原因となる二酸化炭素等の排出量も高くなる要素をもった地域ですが、農地を除く二酸化炭素の吸収や都市気候の緩和機能などを果たす緑地がほとんどない地域です。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定は、国道3号線、国道57号線、県道川尻宇土線で実施されています。

●国道3号線の測定地点では、昼と夜の時間帯で環境基準を達成していませんが、国道57号線、県道川尻宇土線の測定地点では達成されています。なお、各地点とも騒音規制法による要請限度を達成しています。

●今後、流通業務の拡大に伴い、自動車交通に伴う大気汚染や騒音・振動などが悪化する恐れもあります。

有害物質

●熊本市総合屋内プール前における大気中のダイオキシン類の測定結果では環境基準を達成しています。

交 通

●JR鹿児島本線が縦断していますが、川尻駅周辺地域以外では、鉄道利便性が低いといえます。

●国道3号線、57号線(東バイパス)、266号線など交通量の多い道路が通過しており、交通渋滞や騒音等が発生しています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会84団体、町内会6団体、ＰＴＡ11団体、老人会8団体、その他2団体の計111団体が登録され、活動を行っています。

●国道3号線沿線には早くから工場地が形成されてきたほか、流通団地や幹線道路の整備に伴い、今後、流通業務が拡大する傾向にあり、一般廃棄物量や事業系廃棄物の排出量は増える傾向といえます。

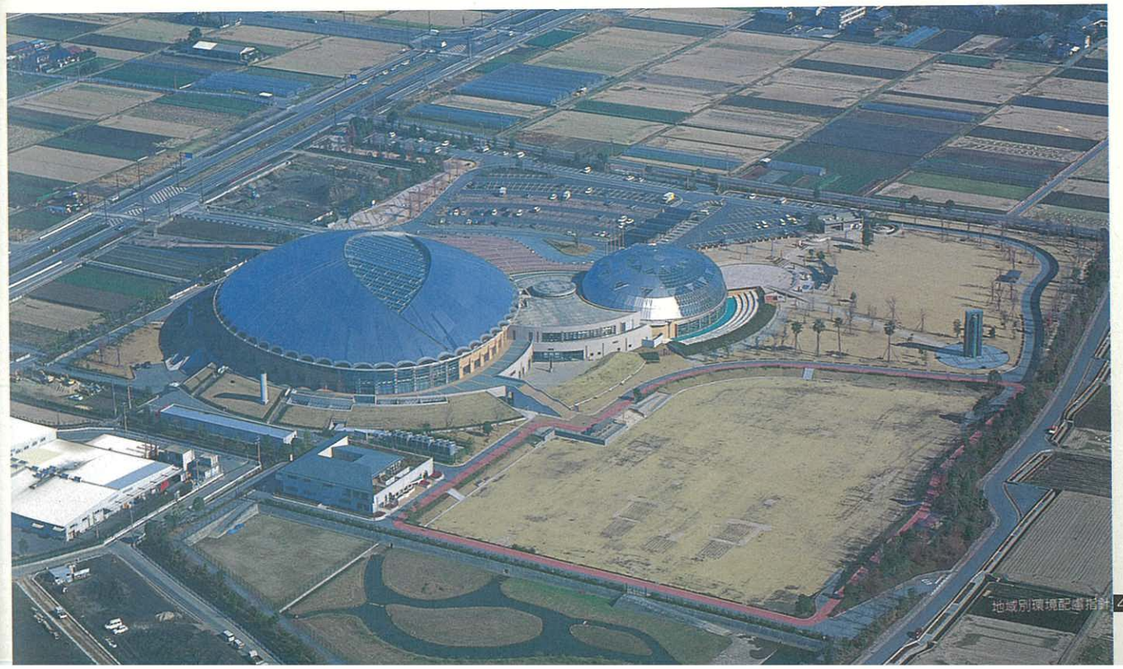
環境美化協定

●日吉６町内自治会美化協定、きれいな浜線バイパス美化協定、力合校区町おこし美化協定、白壁美化協定

自然災害

●白川、加勢川、木山川などの河川の氾濫によって形成された砂泥質系の軟弱な地盤からなり、地盤沈下などの発生しやすい条件となっています。

●自然条件的にも浸水の可能性が高く、浸水常習地帯ともなっています。そのため、地域に広がる水田は遊水機能の役割ももっています。



【環境質の状況】

自動車交通騒音

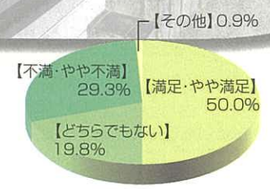
国道3号線の測定地点では全時間帯の環境基準が未達成、国道57号線、県道川尻宇土線の測定地点では環境基準を達成

ダイオキシン

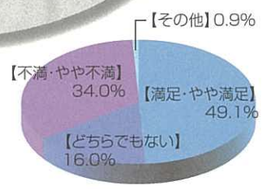
測定地点で、大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



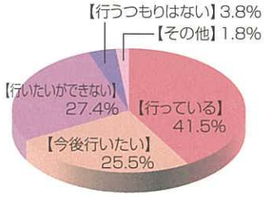
●静けさ



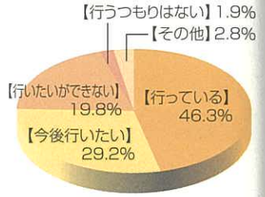
●空気のきれいさやにおい、静けさへの満足度は、それぞれ約半数が満足の傾向にありますが、不満も約3割前後となっています。

●不満の原因としては、空気のきれいさやにおいでは、「工場などからの煙やにおい」、「鶏・畜舎からのにおい」の割合が多くなっています。静けさについては、「自動車やバイクの騒音」があげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動は、市街地地域に比べ低い傾向にあります。マイカーの利用自粛については、「今後行いたい」と「行いたいができない」とがほぼ同じ割合となっています。自転車の利用は、「今後行いたい」が約3割と多い傾向が見られます。

【環境づくりの課題】

●総合的な自動車公害の改善、公共交通網の整備など、日常生活の利便性の向上

●自動車交通に対する環境保全に向けた緑地の適正な維持管理、道路沿線の緑化や緑地帯の確保

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など

●下水道整備やまちづくりと一体となった総合的な治水対策の推進など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上や交通渋滞の緩和に留意した道路整備

●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止、都市気候の緩和など

●工場や流通施設等の周辺緑化や緩衝緑地帯の創造など、生活環境の保全

●省エネルギーや都市気候の緩和などに配慮した公共施設や学校、事業所周辺の緑化、太陽光発電パネル等の導入など

●適切な駐輪場の確保、自転車道の確保、歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、土地利用履歴情報の提供による跡地利用における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区の浄化対策など

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用

●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ごみのリサイクルによる減量化

●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

●農業系廃棄物の減量化

自然災害防止

●地盤が軟弱な地域における地盤沈下や不等沈下などの防止

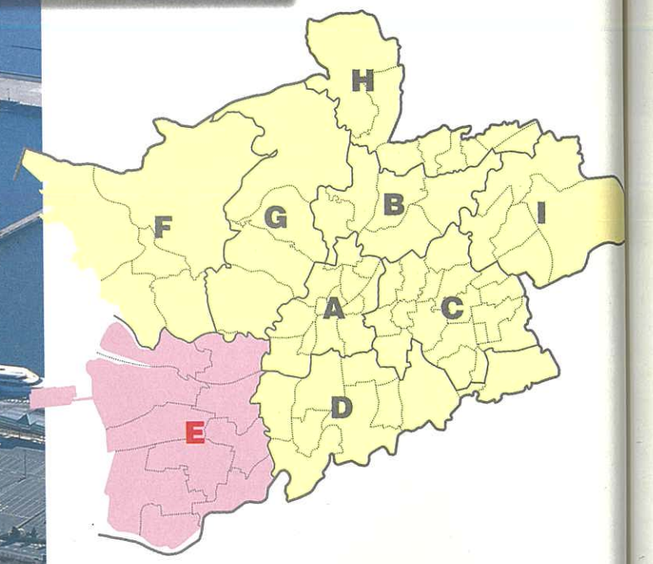
●浸水被害が生じやすい地域における水害防止など

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

E地域

地域の位置・対象校区

城山、中島、小島、飽田東、飽田西、飽田南、中緑、川口、銭塘、奥古閑



環境づくりの基本的方向

自然豊かな有明の海と田園が広がる安らぎのある環境づくり

○都市に隣接する田園地帯として、農業と都市活動とが調和した街づくり

○自然豊かな有明海の干潟と田園環境を活かした自然とのふれあいづくり

○公共交通の利便性向上による環境にやさしい魅力ある街づくり

●熊本新港

1 地域の概況

地勢・沿革

●有明海に面した標高0～5mの平野地域で、西部地域には江戸時代からの干拓地が形成されるなど田園地帯となっています。

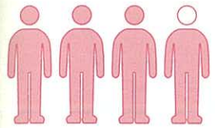
●農業は、水田を基幹として、施設農業が展開されてきており、市の重要な穀倉地帯となっています。

●熊本新港の建設とそれに伴うアクセス道路の整備等が進むなど、港後背地として、将来的には流通やレクリエーション基地などとしての新たな役割も期待されています。

人口・世帯数

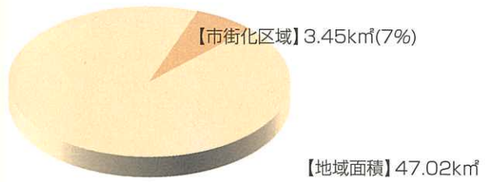
平成12年10月時点

【地域人口】 38,157人

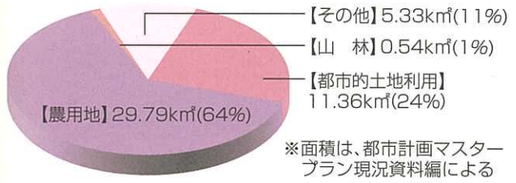


【地域世帯数】 11,264世帯

面　積



土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】農用地が約6割以上を占めています。また、水面等その他の自然地が約1割と市内で最も多く、干拓地や低地に広がる田園地帯となっています。山林は北部の千金甲遺跡周辺の金峰山麓のみとなっています。

交　通

●鉄　道：鉄道はありません。

●道　路：国道501号線が南北に縦貫しているほか、東西に県道の熊本港線、畠口川尻停車場線、熊本嘉島線が北側から横断し、東側は国道3号線などに繋がっています。
有明海に熊本新港の建設がすすめられており、現在は島原や本渡を結ぶフェリーが就航しています。新港と熊本空港を結ぶ熊本港線と東熊本バイパスが整備されてきています。

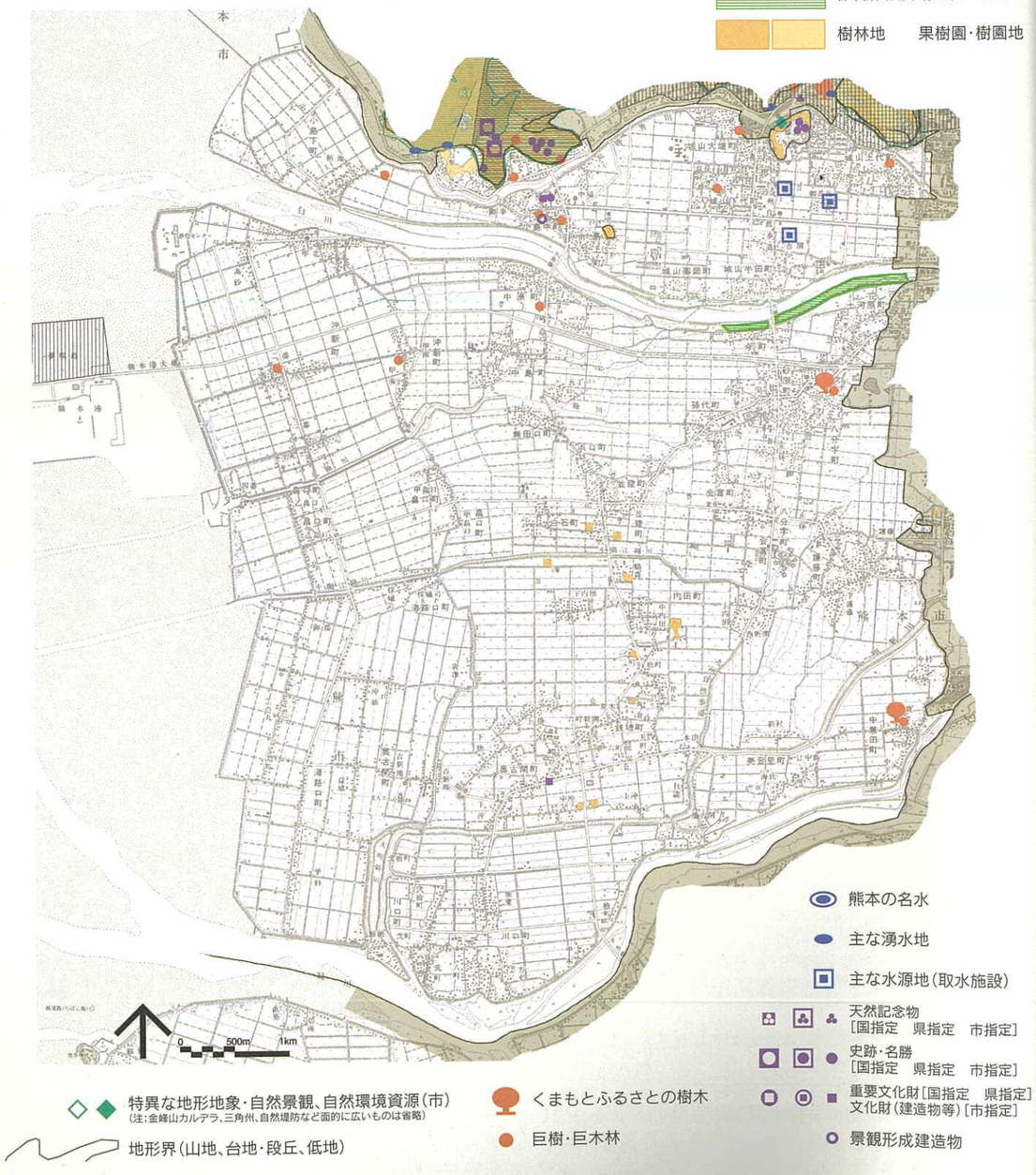
主な開発計画

【交　通】有明沿岸道路、熊本天草幹線道路、都計道路は近見沖新線やそれと繋がる熊本西環状線が地域内では整備済みとなっています。

【その他】熊本港整備

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●有明海沿岸をはじめ、地域の北部を横断する白川をはじめ、北側は坪井川、南側は緑川の河川が流下しています。

●これらの河川や海に囲まれた田園地帯を流れる天明新川をはじめ、千間江湖川や除川などの小河川や数多くの用水路が流れています。

●これらの河川や水路、有明海は、それぞれ特徴ある水辺環境を形成しています。特に白川や緑川の河口部をはじめ、沿岸には干潟が広がり、シギ・チドリ・カモ・ガンの渡来地となっているほか、多様な生物の生息環境となっています。

●河川水質の環境基準点が、白川の小島橋、坪井川の上代橋や千金甲橋、天明新川の六双橋に設定されています。天明新川の裏橋は参考点となっています。

●下水道は、南東部の南部処理区を除く大半が西部処理区に含まれ、計画がされていますが、北部の城山地区を除くほとんどが未整備となっています。

●地盤的に軟弱な地盤が厚く堆積する本地域は、地盤が弱く、地下水の揚水などに伴う地盤沈下や不等沈下が発生しやすい地域ともなっています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

白川(小島橋)→平成8年度を除き、環境基準(B類型)を達成

坪井川(上代橋)→平成5年度を除き、環境基準(C類型)は未達成

坪井川(千金甲橋)→環境基準(D類型)を達成

天明新川(六双橋)→環境基準(B類型)は未達成

天明新川(裏橋)→平成5年度測定以来、環境基準(B類型)は未達成

●海域水質(COD)

平成9年度まで、全ての水域で環境基準を達成

平成10年度以降、測定法の変更により環境基準を未達成

平成12年度は緑川河口で環境基準を達成

●地下水質

有機塩素系化合物による地下水汚染地区：なし

【環境資源一覧】

河川等

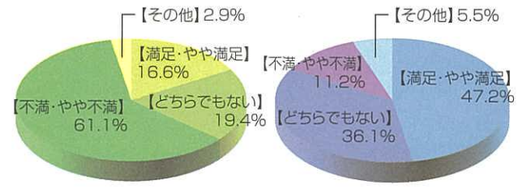
坪井川、白川、除川、千間江湖川、天明新川、緑川、数多くの用水路等

海　域

有明海

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ　　●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの不満の割合は、市内で最も多くなっています。不満の原因としては、「家庭排水」と「ゴミの散乱」の割合が多く、次いで「工場や事業所からの排水」や「鶏・畜舎からの排水」となっています。

●また、地下水の豊富さについては、満足度がやや低い傾向となっています。

【環境づくりの課題】

●農地への混住化に伴う農業用水の汚染防止

●下水道整備など、生活排水処理対策による河川や水路の水質浄化

●河川や水路等を活用した身近に自然とふれあえる水辺環境の形成

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止

●地下水揚水の適正化、水資源の循環利用

●有明海の水質保全、干潟の保全など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●地域は、平野部と干拓地が広がる地域で、樹林地からなる自然緑地はほとんどありませんが、有明海の干潟は豊かな生態系を持っています。

●日本でも有数の潮の干満差を有する有明海沿岸には、広大で、きわめて自然生産性の高い干潟が形成されており、水生生物や渡り鳥などの重要な生息環境となっています。そのため、生態学的にも重要な地域です。

●北部の小島地区の権現山山麓、千金甲古墳の上部に樹林地があり、金峰山麓へと繋がっています。また、白川や緑川には広い河川敷が形成され、水辺の自然環境を形成し、サギをはじめとした野鳥の生息環境を形成しています。

【環境資源一覧】

ふるさとの樹木

鹿宮の森、十三塘の大榎

巨樹・巨木林

14地区

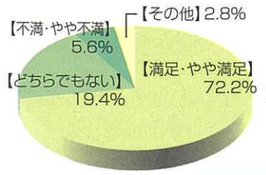
特異な地形・地質・自然現象

自然堤防、複合三角州

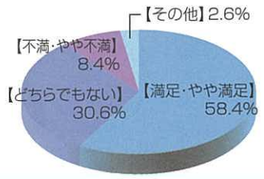
九州自然遊歩道

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいや生き物とのふれあいについての満足度は、田園地帯の特徴を反映して、市内で最も高い割合となっています。

【環境づくりの課題】

●有明海や河川河口部に形成された干潟の生態系の保全
●河川などの自然性の高い水辺環境の保全
●田園地帯の特性を生かした公園緑地や水辺環境の創造など

歴史遺産等

【現　　状】

●北部の権現山南麓部に国指定史跡の千金甲古墳があります。また、埋蔵遺跡が数多くみられます。このほか、高橋稲荷神社や、飽田東地区の自然堤防上には埋蔵文化財包蔵地が分布しています。
●自然堤防上に県道が走り、県道沿いに集落が存在しています。
●大半が市街化調整区域で、千金甲古墳周辺は風致地区に指定されています。
●田園地帯からなる本地域では、自然堤防上に古くから集落が形成され、屋敷林などの樹林地に囲まれ、広大な田園風景と調和した良好な街並みを形成しています。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

千金甲古墳〔甲号〕(国)、千金甲古墳〔乙号〕(国)、千金甲丙号古墳群(市)、楢崎山古墳群(市)、城山古墳群〔一の塚・二の塚・三の塚〕(市)、明治天皇小島行在所跡(市)

文化財(建造物)

奥古閑六地蔵(市)、明治天皇小島行在所(市)

埋蔵文化財

千金甲古墳群等の埋蔵文化財、飽田東地区の埋蔵遺跡

景観形成建造物

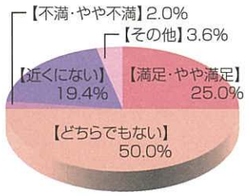
浜田醤油

主な街並み

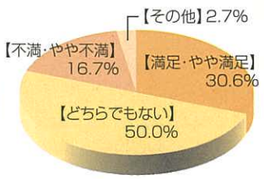
九州自然歩道に連なる街並みやハウスなど施設栽培が連なる田園風景

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気や街並みの風景の美しさへの満足度については、やや満足の傾向にありますが、それぞれ「どちらでもない」が約半分を占め、歴史的雰囲気や風景の美しさについて、判断する目安としての地域の明確な特徴がないことが考えられます。

【環境づくりの課題】

●千金甲古墳及び埋蔵文化財周辺の地形や自然環境の保全
●良好な田園景観を形成する屋敷林や街道、水路等の保全と活用
●田園景観と都市的施設との調和など

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●有明海の干潟の保全、海域の水質保全
●緑川、白川、坪井川をはじめとした河川や用水路などの水質浄化や農業生産機能の保全と活用
●計画的な土地利用の推進など、農地への混住化の防止と農業用水の保全
●水田の遊水機能の維持、保全
●下水道整備など、生活排水処理対策による河川や水路等の水質浄化、水辺や水路等でのゴミ散乱防止
●地盤沈下の防止や地下水の塩水化防止などに配慮した適切な地下水利用、水資源の有効利用
●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止

自然豊かな「森の都」を育てる

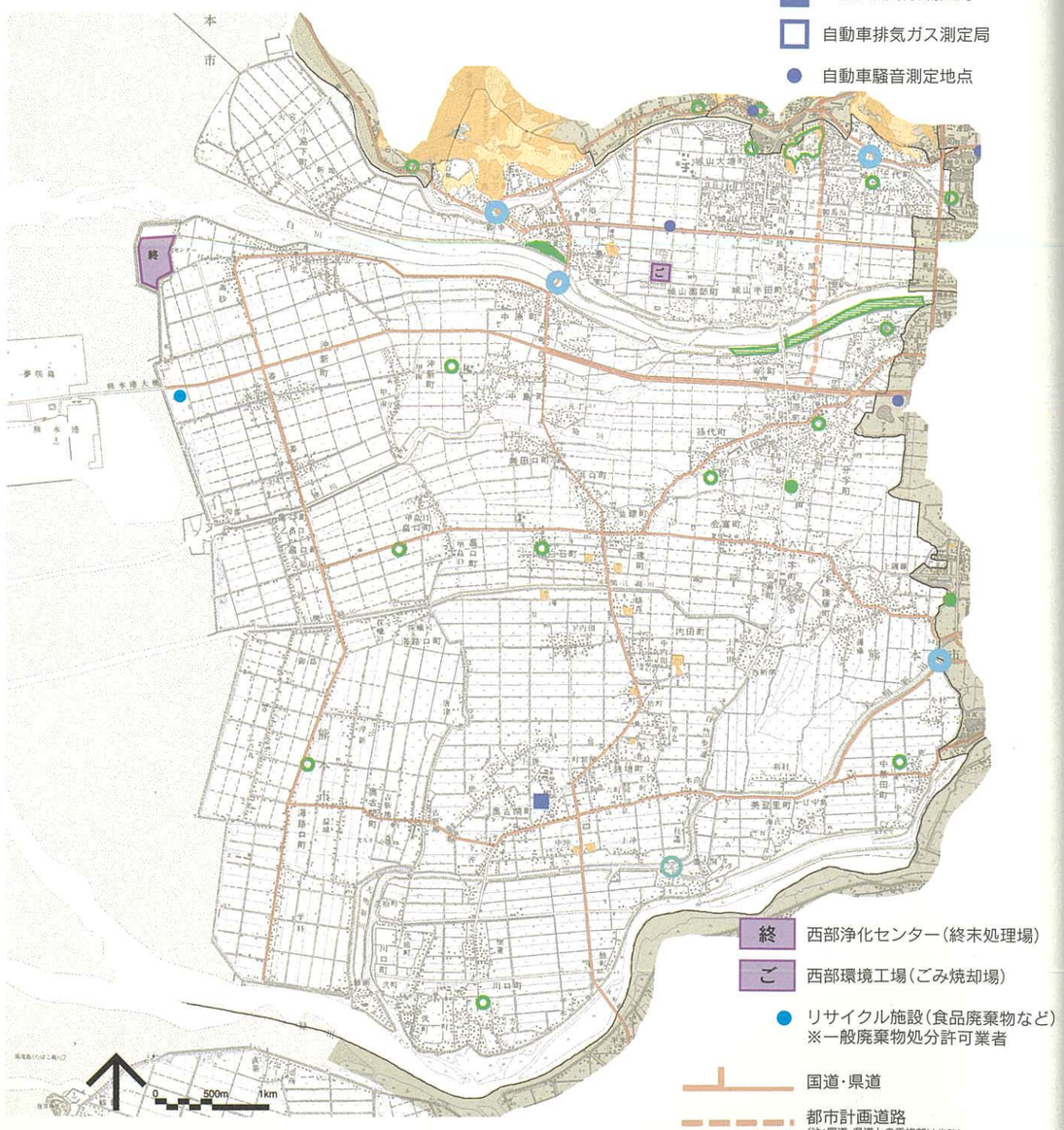
●沿岸域の干潟や田園風景と一体となった水辺の自然景観の保全による安らぎのある街並みの形成
●有明海の干潟や河川敷など良好な生物生息環境や生態系の保全
●水辺の生物生息環境の保全と河川や水路を活用した身近に自然とふれあえる場の形成、水辺周辺の緑地の保全や創造
●権現山やその山麓、御坊山、城山などの緑地景観の保全とランドマークとしての活用
●集落周辺の屋敷林や生け垣などの緑の保全、公共施設や事業所周辺、道路沿線の緑化など、緑豊かな田園景観の保全と創造

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●権現山南麓の千金甲古墳を代表とする貴重な古墳群や埋蔵文化財包蔵地の適正な保全と活用
●干拓や農業の歴史、干潟との関わりなど、地域の歴史的文化的環境を形成してきた水辺や歴史的文化的空間などの一体的な保全
●古くからの農村集落の街並みや景観の保全

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局として天明局があります。
●他地域の測定局と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素は環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していません。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定は、西部市民センター前で実施されています。
●測定地点では、夜の時間帯で環境基準を達成していませんが、騒音規制法による要請限度を達成しています。
●今後、熊本港の流通業務の拡大や沿岸部の道路整備などに伴い、自動車交通に伴う大気汚染や騒音・振動などが悪化することも考えられます。

有害物質

●城山小、中島小における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。

交　通

●国道501号線をはじめ、県道が通過していますが、北部地域を除くと、東西方向の県道は有明海で止まるため、交通量は少ないといえますが、熊本港の流通業務の拡大等により交通量は増加すると考えられます。なお、北部では交通騒音等が発生しています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会18団体、町内会2団体、ＰＴＡ11団体、老人会3団体、婦人会1団体、その他3団体の計38団体が登録され、活動を行っています。
●地域では施設型農業も広く行われているため、農業系廃棄物の処理が課題となっています。
●一般廃棄物の焼却施設である西部環境工場が稼働し、西部環境工場では、発電や温水供給などの余熱利用を積極的に行っています。

自然災害

●西を有明海に面した平野部では、地盤高が0～5mときわめて低く、泥質や砂泥質の干拓地及び海岸平野・氾濫平野からなり、排水状態の悪い地域で、たびたび浸水被害が起きています。
●地盤高が特に低いため、高潮などにより浸水する可能性が高い。
●地盤が全体的に軟弱で、地盤沈下が見られます。沿岸部では津波や高潮等による災害の可能性があります。
●北端部の金峰山から連なる権現山の南麓地は急傾斜地も分布し、斜面崩壊の可能性が高い地域も見られます。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

環境基準を達成

浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

環境基準を未達成

自動車交通騒音

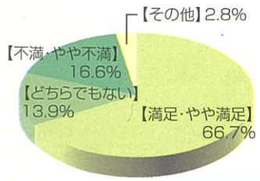
測定地点で夜の時間帯の環境基準は未達成

ダイオキシン

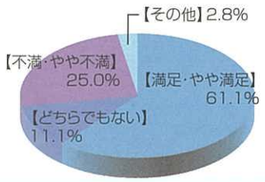
各測定地点で大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい

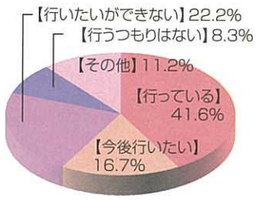


●静けさ

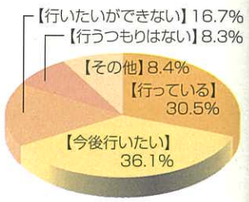


●空気のきれいさやにおい、静けさについての満足度は、それぞれ6割以上と満足の傾向にあります。空気のきれいさやにおいは市内で最も高い割合となっています。静けさについての不満の原因として、「自動車やバイクの騒音」が主因としてあげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動は、全般的にやや低い行動となっています。自転車利用については、「今後行いたい」の割合が、市内で最も多くなっています。

【環境づくりの課題】

●自動車交通に対する環境保全に向けた緑地の適正な維持管理、道路沿線の緑化や緑地帯の確保、自転車利用の促進に向けた適切な施設の整備

●下水道整備やまちづくりと一体となった総合的な治水対策の推進など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上、自転車道や自転車利用施設の整備など

●熊本西環状線の整備に伴う交通量の増大などが考えられるため、幹線道路沿線の緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止など、生活環境の保全

●省エネルギーに配慮した公共施設や学校、事業所周辺の緑化、太陽光発電パネルの導入など

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌や地下水汚染状況の把握など

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用

●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化

●農業系廃棄物の減量化

●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

自然災害防止

●適正な地下水利用など、地下水位の保全、地盤沈下や不等沈下の防止、地下水塩水化の防止

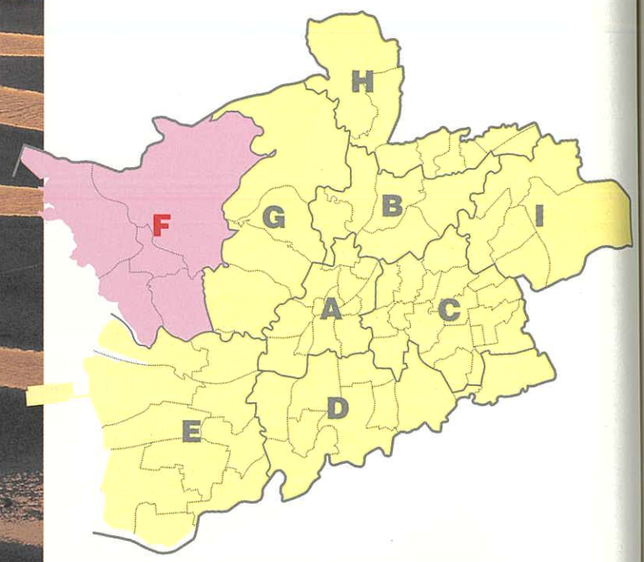
●浸水被害が生じやすい地域における水害対策、沿岸部での津波・高潮等水害の防止、沿岸域における農地の塩害防止など

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

F 地域

地域の位置・対象校区

芳野、河内、松尾西、松尾北、松尾東



●有明海

環境づくりの基本的方向

金峰山と有明海の豊かな自然と共生する環境づくり

○都市に隣接する豊かな自然環境を生かした観光・レクリエーション機能ももった街づくり

○自然豊かで風光明媚な有明海や金峰山を生かした多彩な自然とのふれあいづくり

○公共交通による観光レクリエーション利用の利便性確保など、自然にやさしい交通体系づくり

1 地域の概況

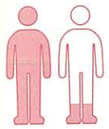
地勢・沿革

●金峰山及びそのカルデラ地形からなり、斜面地が有明海沿岸まで広がる山地主体の地域で、カルデラ内の水を集めた河内川が有明海に注いでいます。
●河内川下流の船津を中心に、沿岸の小規模な低地や沿岸を走る国道501号線沿いに町や集落が形成されています。
●地域の産業は農漁業が中心で、特に河内ミカンは全国的なブランドとして名高く、斜面は果樹園を中心に山林が分布しています。
●温泉や山と渓谷、有明海と漁港といった風光明媚で多彩な自然に恵まれ、これらの自然を生かした観光レクリエーション地としての発展が期待されています。

人口・世帯数

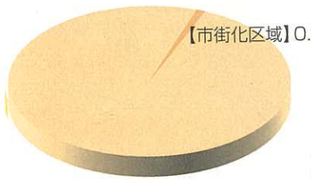
平成12年10月時点

【地域人口】 11,720人

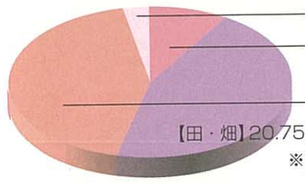


【地域世帯数】 3,170世帯

面　積



土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】果樹園を主体とした農用地と山林がほぼ同じ割合からなる自然的土地利用が大半を占めています。都市的土地利用は有明海沿岸と河内川下流にまとまって分布しています。

交　通

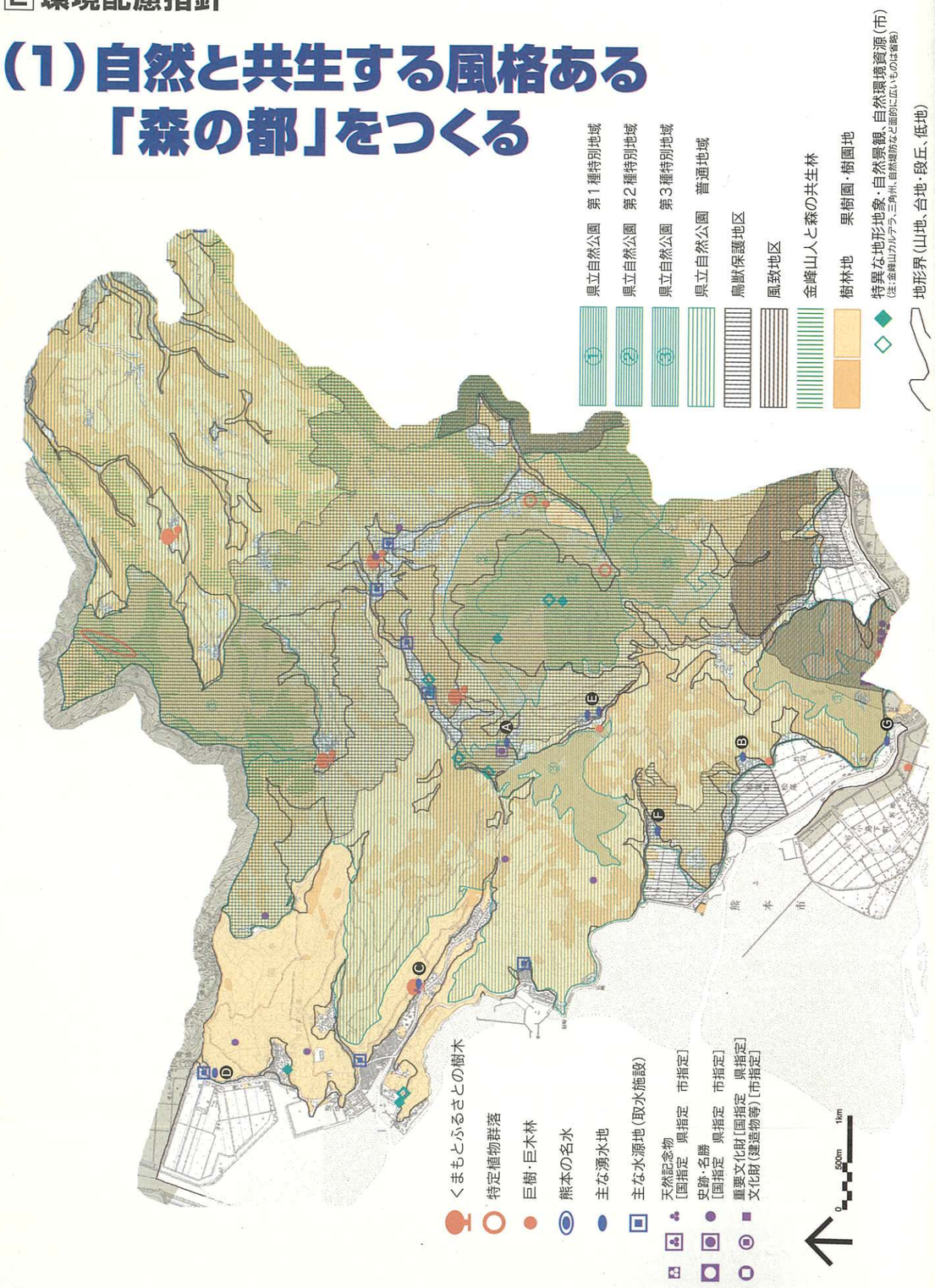
●鉄　道：なし
●道　路：有明海沿岸を走る国道501号線、上熊本からカルデラ内を通って玉名市街とを結ぶ県道熊本玉名線を中心に、県道植木河内線や小天下硯川線が地域の主要道路となっています。

主な開発計画

【交　通】有明沿岸道路構想
【その他】九州自然歩道利用拠点(金峰山トレイルセンター)整備、水産センター(仮称)の整備、漁港施設の整備拡充など

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●有明海の豊かな自然と変化に富んだ海岸線をはじめ、カルデラ内の水を集めて有明海に注ぐ河内川やその渓谷、外輪山東麓を流下し井芹川に流入する立福寺川などの清流がつくる多彩で自然豊かな水辺環境を有しています。

●火山性の山地からなるため湧水も多く、金峰カルデラ内の雲巌禅寺、金峰山西麓の犬の川、鐘水、天水湖などの湧水地が各所に分布しています。

●河川水質測定地点はありません。水質は全般に良好な状態といえます。集落地内を流れる河川や水路では生活様式の都市化に伴う汚濁が考えられます。

●下水道整備は着手しておらず、今後、集落単位での生活排水処理対策や合併浄化槽による整備など、生活基盤の整備が望まれています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)
測定地点なし

●地下水質
有機塩素系化合物による地下水汚染地区：なし

【環境資源一覧】

海　域

有明海、坪井川や唐人川の河口

河川等

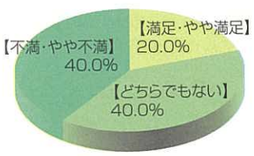
河内川、金峰山山麓を流下する立福寺川などの河川

湧　水

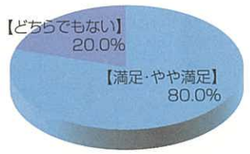
雲巌禅寺Ⓐ、犬の川Ⓑ、鐘水Ⓒ、天水湖Ⓓ、平山北の泉・南の泉Ⓔ、下津貞幸家Ⓕ、元野口英示家の湧水Ⓖ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●アンケートの回答数は少ないですが、海や川のきれいさについては、やや不満の傾向となっています。不満の原因については、「ゴミの散乱」があげられています。また、地下水の豊富さについては、全般的にやや満足の割合が多くなっています。

【環境づくりの課題】

●有明海の水質保全と干潟や自然海岸の保全
●湧水地の保全と活用、かん養域の保全
●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止
●良好な自然環境からなる河川等の水辺環境の保全
●自然環境の保全に対応した適切な生活排水処理対策など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●金峰山及びその外輪山からなる変化に富んだカルデラ地形や有明海がつくる良好な自然環境の地域となっています。

●ほぼ全域、金峰山県立自然公園に指定されており、金峰山上部及び熊ノ岳（二ノ岳）、三ノ岳などの外輪山の山頂付近は第2種及び第3種特別地域となっています。

●また、一帯は金峰山鳥獣保護区に、有明海沿岸の要江周辺の山地は松尾西小学校鳥獣保護区に指定され、南部は千金甲風致地区に指定されています。

●有明海に面した山腹は比較的緩傾斜の斜面が広がりミカンなどの果樹栽培が行われています。山麓部は、断崖などの自然海岸などにより有明海沿岸に臨んでいます。果樹園以外の斜面地は、植林やヤブツバキクラス域代償植生などの森林となっています。

●有明海沿岸の自然海岸や干潟をはじめ、まとまりある多彩な自然環境からなり、野生生物の良好な生息環境となっています。

●海岸線は、屈曲に富み変化に富んだ風光明媚な海岸景観を形成しています。

●金峰山(665m)、外輪山二ノ岳(685m)、三ノ岳(681m) は、市域で最も標高が高い地域で、熊本平野と有明海に独立してそびえる山地で、良好な眺望をもっています。

【環境資源一覧】

天然記念物

河内晩柑原木(市)

特定植物群落

金峰山三ノ岳のスダジイ林、金峰山のテンダイウヤク群生地

ふるさとの樹木

面木の金木犀、出羽のモッコク、嶽麓寺跡の銀杏、江月院の蘇鉄、春日神社の森

巨樹・巨木林

7地区

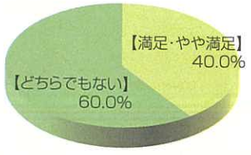
特異な地形・地質・自然現象

金峰カルデラ、金峰山溶岩ドーム〔鐘状火山〕、肥後耶馬渓〔溶岩浸食山地〕、河内温泉、鼓ヶ滝、川床自然堤防、複合三角州

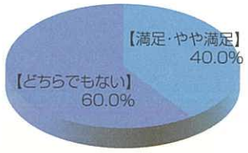
九州自然歩道

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●アンケートの回答数は少ないですが、緑とのふれあいや生き物とのふれあいの満足度は、やや高い傾向となっています。不満はない反面、「どちらでもない」もそれぞれ6割を占めています。

【環境づくりの課題】

●豊かな自然環境の積極的な保全と適正な活用
●有明海生態系と金峰山生態系の一体となった適正な保全
●恵まれた自然環境の積極的な保全と適正な活用の推進
●市産業の中心でもある観光産業の重要な資源としての適切な保全と観光ルートの整備など

歴史遺産等

【現　　状】

●地域は、江戸時代の剣豪宮本武蔵をはじめ、明治の文豪夏目漱石らの“ゆかりの地”として名高い場所で、関連した歴史的文化的資源も残されています。
●夏目漱石の小説「草枕」にちなんだ「草枕ハイキングコース」なども整備されています。
●指定文化財は、集落が形成されている山裾に多く分布しています。また、有明海に面した山麓地に多くの埋蔵文化財が出土し、山中には古代から中世にかけての山岳信仰を物語る寺院跡などが多く残っていますが、まだ十分な文化財調査が行われていません。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

雲巌禅寺境内(県)、差茂塚古墳(市)、加藤家墓地(市)、畳ヶ石(市)、砂鉄水路跡（2箇所）(市)、塩屋北ノ崎古墳(市)、嶽麓寺跡の中世石造物群(市)、道家之山の墓(市)

埋蔵文化財

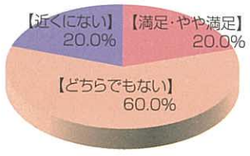
金峰山山麓の埋蔵文化財

その他文化財

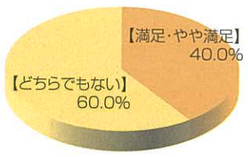
燈台、津波碑、清田放牛石仏（63体）、溺死墓など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●アンケートの回答数は少ないですが、歴史的雰囲気や街並みの美しさについての満足度は、やや高い傾向になっています。不満はない反面、「どちらでもない」もそれぞれ6割を占めています。

【環境づくりの課題】

●歴史的文化的環境や資源の適切な保全と活用
●歴史的文化的環境や資源を結ぶ自然環境を生かした観光レクリエーションルートの整備など

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●有明海の水質保全と干潟や自然海岸の保全による良好な水辺環境の保全
●かん養域の保全と一体となった湧水地の保全と活用
●河川等の源流域の保全と良好な自然環境からなる水辺環境の保全
●地域の自然環境の保全等に対応した適切な生活排水処理対策、自然の浄化機能を生かした河川水質の向上
●下水道整備計画の策定、農業集落排水処理施設の整備や合併浄化槽の普及

自然豊かな「森の都」を育てる

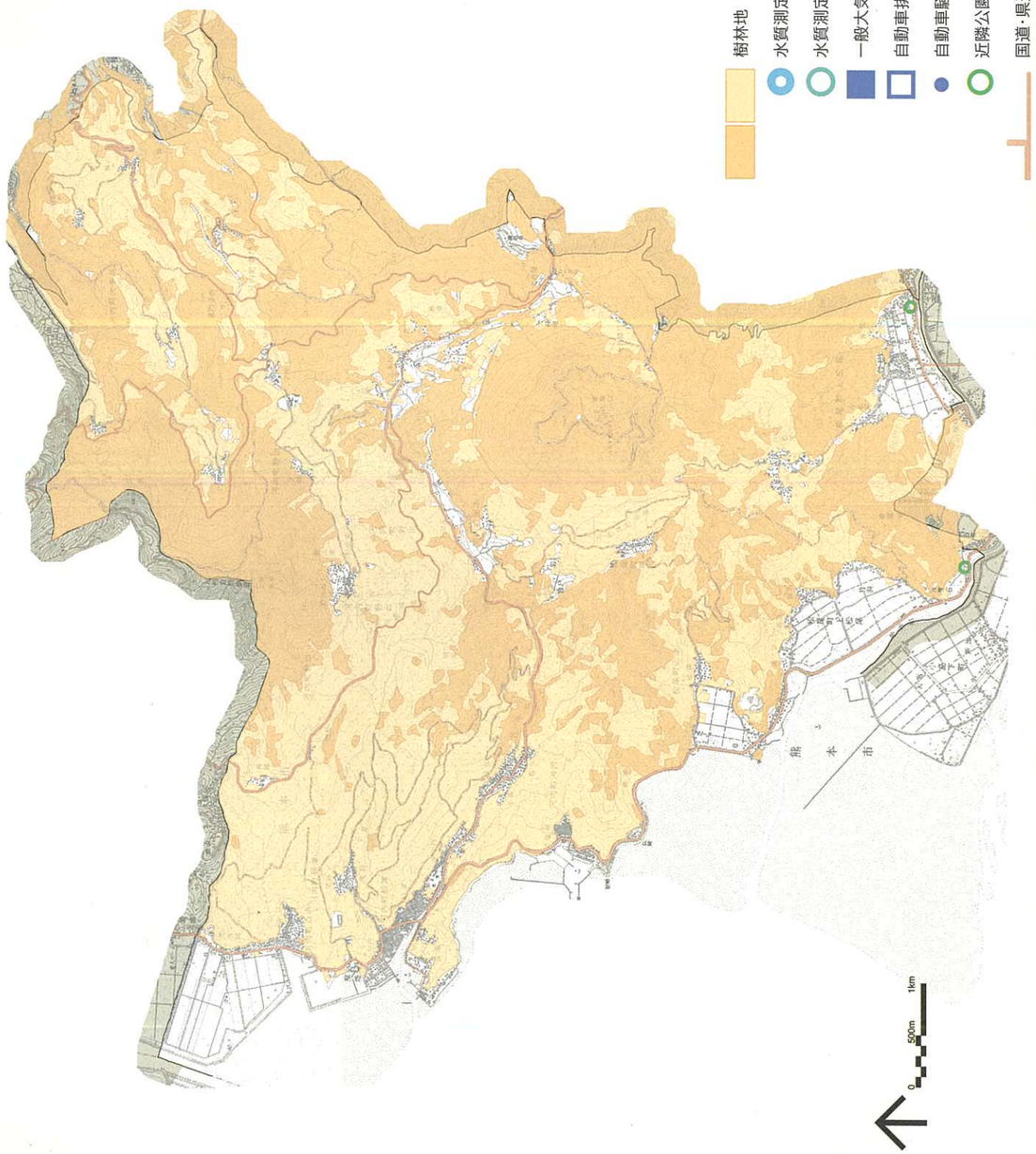
●有明海をはじめ、金峰山や金峰カルデラなど、学術的に貴重な自然環境の保全と活用
●自然生態系の保全、貴重な生物等の生息生育条件など、生息環境に係る環境条件の保全と育成
●良好な生物生息環境の場としての自然植生や水辺の自然環境、自然海岸や干潟の保全
●金峰山周辺に広く分布する果樹園や樹林地における土壌の保全と育成
●金峰山周辺と一体となった自然景観の維持、増進
●市産業の中心でもある観光産業の重要な資源としての適切な保全と観光ルートの整備など
●道路や河川整備等による生物生息環境の分断防止（ルートの変更などを含む代替案の検討など適切な対策の実施）

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●歴史的文化的環境資源の保全
●埋蔵遺跡包蔵地の文化資源の特性に応じた積極的な保全と環境教育等への活用
●宮本武蔵や夏目漱石らの“ゆかりの地”など、周辺地域の歴史的文化的自然環境と一体となった保全と活用
●自然環境資源や歴史的文化的環境資源を結ぶ観光レクリエーションルートなどの整備

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局はありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成しています。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

騒音・振動

●今後、沿岸部の道路整備などが進むにつれて自動車交通も増加し、それに伴い大気汚染や騒音・振動なども悪化することも考えられます。
●金峰山周辺は、熊本空港への着陸等の飛行機の旋回ルート等となっていますので、航空機による騒音なども考えられます。

有害物質

●有害大気汚染物質の測定地点は設置されていません。

交　通

●地域の交通は主として有明海沿岸を走る国道501号線と県道熊本玉名線となっています。公共交通としては、バスが中心となっています。
●山地地域であり、町や集落が分散しているほか、交通利便性の低い地域でもあり、自動車が生活の足となっています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会3団体、町内会1団体、ＰＴＡ7団体、婦人会2団体の計13団体が登録され、活動を行っています。
●地域で広く展開されているミカン栽培をはじめとした農業系廃棄物の適正な処理が課題となっています。

自然災害

●沿岸部は、急傾斜地も多く主要道路や集落等が分布しているため、斜面崩壊などに伴う土砂災害の危険性が高くなっています。また、山間部では、急傾斜地崩壊危険箇所や地すべり危険箇所も分布しています。
●海岸部では、高潮や津波などによる災害の危険性もあり、かつての津波被害の記録もあります。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

環境基準を達成

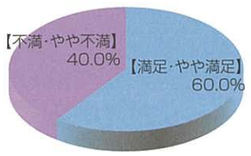
浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

環境基準を未達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい

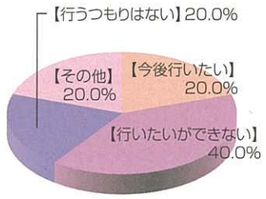
●静けさ



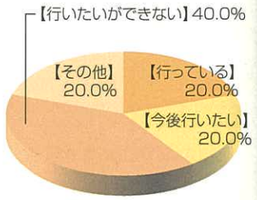
●アンケートの回答数が少なく明瞭ではありませんが、空気のきれいさやにおい、静けさへの満足度は高い傾向にあります。

●静けさについては、不満の割合も多く、不満の原因として、「自動車やバイクの騒音」があげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動は、少ない傾向にあります。また、「行いたいができない」も多く見られます。

●利便性が低く、金峰山の斜面地からなるため、自転車利用の制約も多い傾向にあります。

【環境づくりの課題】

●自動車交通による良好な生物生息環境への影響の防止

●斜面樹林地の有する防災機能の育成

●日常生活における公共交通の利便性の確保

●公共交通を利用した観光レクリエーションの展開と利便性の向上

●廃棄物不法投棄の防止、観光レクリエーション地などでのごみ散乱の防止

●自然災害危険箇所における適切な土地利用計画の立案、まちづくりと一体となった総合的な防災対策の推進など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通利用による観光レクリエーション機能の充実など、自然とふれあえ自然にやさしい観光レクリエーション地づくり

●沿岸域での自動車道路の整備に伴う交通量の増大などが考えられるため、道路沿線の緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止など生活環境の保全

●太陽光発電など省エネルギー対策に配慮した観光レクリエーション施設の整備

●町や集落内における歩行者空間の確保とバリアフリー化、交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌や地下水汚染状況の把握など

ごみ対策

●家庭や観光レクリエーション施設等における生ゴミの堆肥化などによるゴミの減量化と堆肥の活用

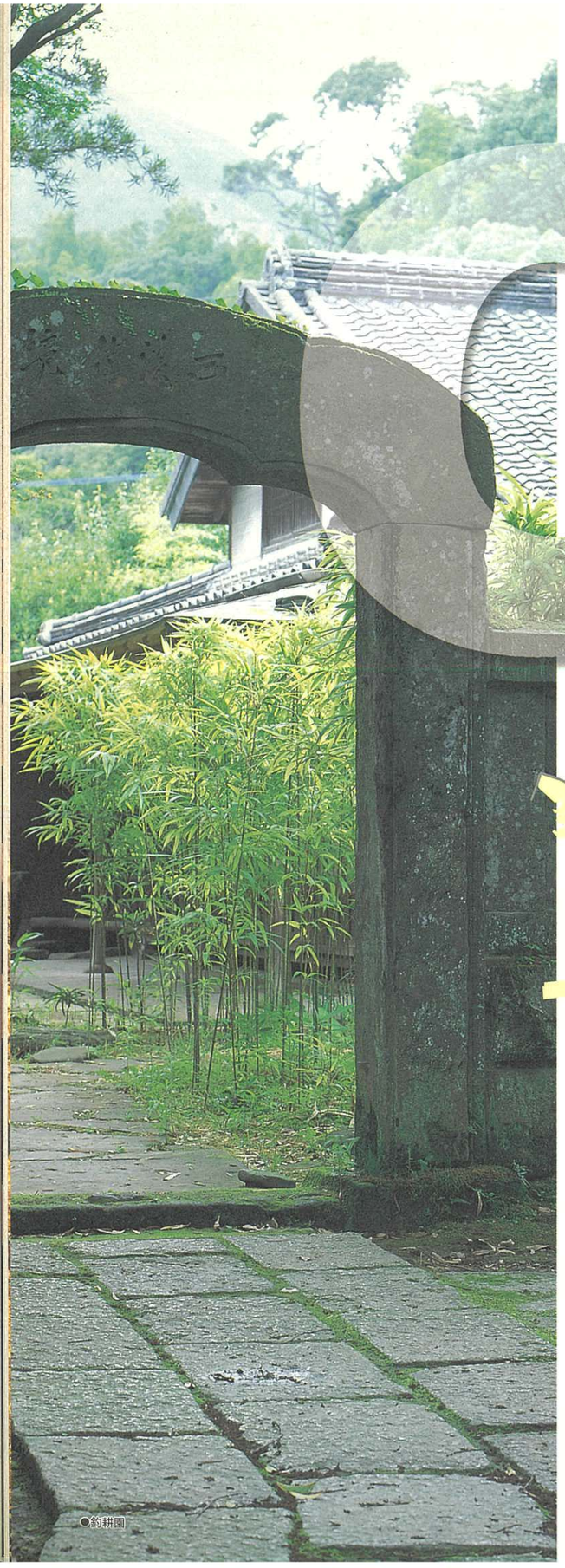
●水辺や観光レクリエーション地でのゴミ散乱の防止、環境美化など

●農業系廃棄物の減量化

自然災害防止

●低地部での浸水や高潮・津波、斜面地における地すべりや斜面地崩壊、土石流等の災害防止に配慮した災害に強いまちづくり

●森林の有する防災機能の保全と育成管理



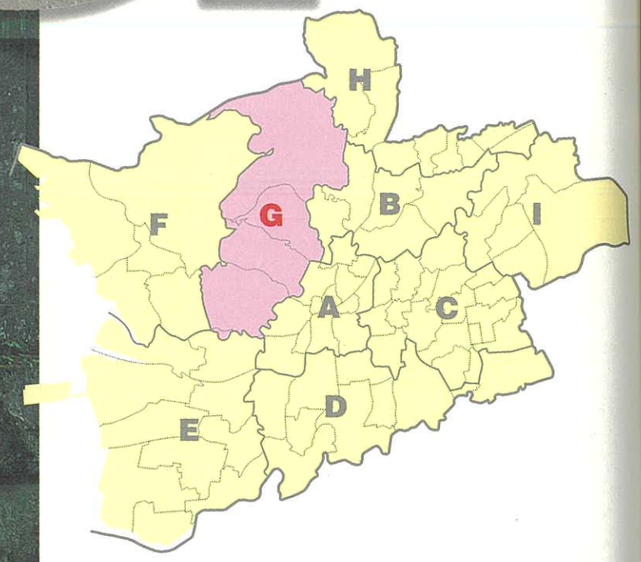
●釣耕園

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

G地域

地域の位置・対象校区

西里、花園、城西、池上、高橋



環境づくりの基本的方向

歴史と自然が調和する緑豊かな環境づくり

○趣のある歴史的雰囲気と眺望を生かした特色ある街づくり

○金峰山麓の豊かな自然と調和し、自然とふれあえる緑豊かな街づくり

○公共交通の利便性向上と利用による環境にやさしい魅力ある街づくり

1 地域の概況

地勢・沿革

●金峰山カルデラ外輪山の東麓に位置し、山麓に広がる台地や外輪山に源を発する井芹川の谷底平野からなる地域です。

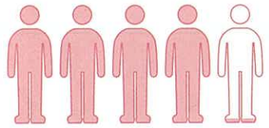
●地域中央に加藤清正を祭る本妙寺が位置し、江戸時代から別荘地等としての利用がなされるなど歴史的文化的資源が多く、周辺地域は緑豊かで閑静な住宅地が形成されてきています。これらの歴史的文化的環境を生かした歴史公園整備や街づくりが進められてきています。

●また、北部の和泉町、貢町に製・販・遊が一体となった食品工業団地フードパル熊本が整備されたのをはじめ、熊本西環状線の整備が計画されるなど、地域の新たな役割が期待されています。

人口・世帯数

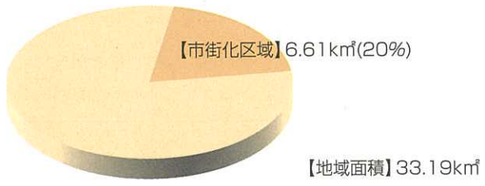
平成12年10月時点

【地域人口】 40,436人

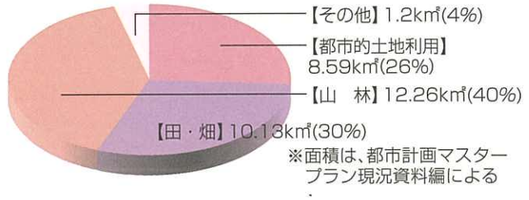


【地域世帯数】 15,161世帯

面　積

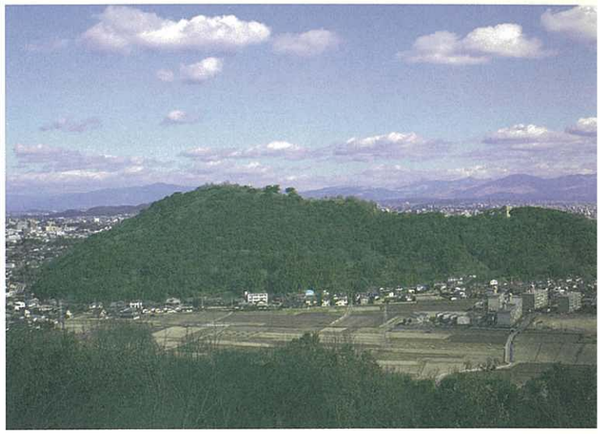


土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】農用地等を含めた自然的土地利用が約７割を占める地域です。山林が4割、農用地が3割（水田18%、樹園地等畑12%）、都市的土地利用地・その他が3割と、偏りが少なく、全体的にバランスがとれた土地利用となっています。



交　通

●鉄　道：東側の井芹川沿いにJR鹿児島本線が縦断し、隣接する上熊本駅で市電や熊本電鉄に連絡するなど、比較的鉄道の便の良い地域となっています。

●道　路：地域の主要道路としては、JR鹿児島本線と平行して縦断する県道熊本鈴麦線を中心に、上熊本から金峰山に向けて延びる県道熊本玉名線があります。このほか、北部の県道植木河内港線や南部の小島新町線があります。

主な開発計画

【交　通】九州新幹線
西熊本環状線、花園インター線、四方寄鹿子木線、野口清水線などの都市計画道路の整備

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●標高450～50m前後の金峰山外輪山に源を発し、放射状に流下する河川や沢は、全て井芹川に流入しています。山麓地内を流下する河川や沢は樹林地に囲まれ自然豊かな清流を形成しています。

●また、外輪山山麓部やその下の台地には、お手水、成道寺、白糸の瀧、長命水、晒し場、釣耕園などの湧水が数多く湧出し、古くから利用されさまざまな言い伝えをもった水資源となっています。

●金峰山全体は、熊本の水道水源としての地下水の水理基盤を形成していますが、これらの湧水は金峰山がかん養域となっています。台地部は、地質的には溶結質凝灰岩などからなり、地下水かん養上重要な地域となっています。

●地域を流下する井芹川では、河川水質の環境基準点が山王橋と尾崎橋に、また、補助点は上流部の北迫橋、釜尾橋に設定されています。

●下水道は、北部が中部処理区に、南部が西部処理区に含まれます。整備が進められてきていますが、山麓部や北部を中心に未整備地区も多くあります。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)
井芹川(山王橋)→平成12年度は環境基準(A類型)を達成
井芹川(尾崎橋)→環境基準(E類型)を達成
井芹川(北迫橋、釜尾橋)→環境基準(A類型)は未達成

●地下水質
有機塩素系化合物による地下水汚染地区：なし

【環境資源一覧】

河川等

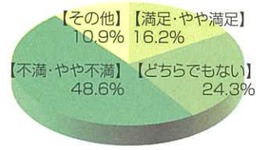
井芹川及びその支流（立福寺川、西浦川、麹川、谷尾崎川、荒谷川など）

湧　水

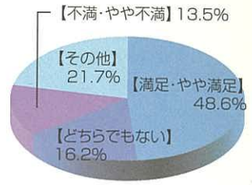
お手水Ⓐ、成道寺Ⓑ、天福寺Ⓒ、鳴岩Ⓓ、前川の井川Ⓔ、熊本市少年自然の家跡Ⓕ、三賢堂Ⓖ、晒し場Ⓗ、釣耕園Ⓘ、長命水Ⓙ、白糸の瀧Ⓚ、平井の泉Ⓛ、旧片倉製糸用水井跡Ⓜ、瑞巌寺Ⓝ、太郎迫神社Ⓞ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの満足の割合は、市内で最も低く不満も約5割と多くなっています。不満の原因として、「ゴミの散乱」等が多く、次いで「家庭排水」があげられています。

●また、地下水の豊富さについては、満足が全市平均よりやや少ない傾向にあります。不満の原因としては、「湧水地の水量の減少」と「家庭での水のむだづかい」があげられています。

【環境づくりの課題】

●地下水かん養地域としての緑地の保全と適正な土地利用によるかん養機能の保全・向上
●地下水の保全や地下水汚染物質の適正管理など、地下水汚染の防止
●多様な湧水地の保全と活用、かん養域の保全
●湧水や河川などの水辺環境を生かした親水空間の創出や水辺の環境保全
●自然環境の保全に対応した適切な生活排水処理対策
●循環型の水利用、雨水の有効利用など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●地域の地形は、金峰山カルデラの外輪山東側の山腹や山麓地、山麓下に広がる平坦な台地、井芹川が形成する谷底平野などからなっています。

●なお、台地面は、北部で広い平坦面を形成していますが、南部に行くに従い面は狭くなっています。

●井芹川沿いの低地は水田利用がなされ、台地部は北部で水田や畑など農地が広がっています。また北部の山麓緩傾斜地には果樹園が点在しています。

●地域の金峰山山麓は、北部の平地を除く一帯が金峰山県立自然公園及び鳥獣保護区となっています。また、荒尾山南麓は第1種特別地域、山地上部は第3種特別地域となっています。

●斜面地は、自然豊かな植生をはじめ、植林やヤブツバキクラス域代償植生からなる樹林地が広がり、野鳥など多様な動植物の生息生育環境の場となっています。

●住宅地は、山地の緑や屋敷林を背景とした緑豊かな街並みが形成されているほか、市街地から眺望されやすく、市街地の背景としての重要な緑地景観を構成しています。

【環境資源一覧】

天然記念物

寂心さんの樟(県)、釜尾天神のイチイガシ(市)、天社宮の大クスノキ(市)、徳王の桜(市)

ふるさとの樹木

赤水白山比咩神社の森、椋の木さん

巨樹・巨木林

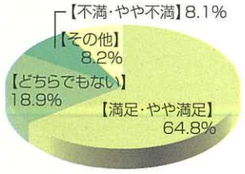
10地点

特異な地形・地質・自然現象

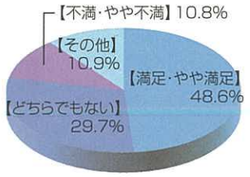
金峰火山、西浦川の西浦・瑞巌寺公園、谷尾崎

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいは、満足の割合が市内でも多い傾向にあり、不満の割合は市内で最も低くなっています。生き物とのふれあいも同様の傾向となっています。

【環境づくりの課題】

●金峰山を中心とした自然環境の保全と多様な生物生息環境の保全と創出
●井芹川と金峰山の自然を結ぶエコ・コリドーの形成と自然とのふれあいの場の確保
●緑豊かな居住環境の保全や新興住宅地等での緑化など

歴史遺産等

【現　　状】

●地域は、緑豊かな自然環境と閑静な住宅地とが調和した趣のあるまちであり、歴史的文化的環境資源も数多く分布しています。
●地域の中央部に加藤清正を祭る加藤家の菩提寺である本妙寺が位置し、島崎地区には、江戸時代の茶室、別荘、美術館など歴史的文化的資源が多く伝えられてきています。
●北部地区には、釜尾古墳をはじめとした埋蔵文化財やクスノキ等の記念物などがあります。
●本妙寺公園などからは、熊本城をはじめ熊本市街が眺望されるなど、地域の歴史的文化的環境とあいまって歴史的雰囲気を醸し出しています。
●台地や山麓部の住宅地は、大部分が第1種低層住宅専用地域からなっています。この上部は市街化調整区域で、本妙寺山風致地区や千金風致地区となっています。

【環境資源一覧】

史跡・名勝

釜尾古墳(国)、池辺寺跡(国)、瑞巌寺跡(市)、天福寺裏山古墳群、釣耕園(市)、叢桂園(市)、百梅園跡(市)

文化財(建造物)

金子塔(市)、池辺寺関係石造物(市)、成道寺六地蔵塔二基(市)、成道寺五輪塔一基(市)、成道寺板碑群四基(市)

歴史的自然環境

本妙寺

埋蔵遺跡

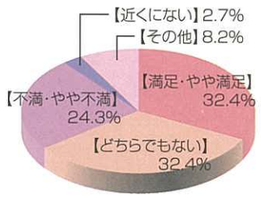
釜尾古墳周辺地域など、山麓地や台地地域

主な街並み

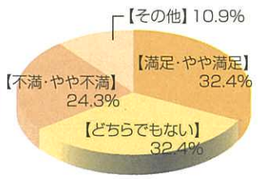
島崎界わい

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気についての満足度は、市内で最も高い地域となっている反面、不満の割合も市内で最も多く占めています。また、歴史的資源が近くにないとの回答も最も少ない地域です。
●街並みの風景の美しさへの満足度は、やや満足の傾向にありますが、偏りの少ない地域となっています。不満の原因には、「看板や電柱が目立つ」、「街並みが雑然としている」があげられています。

【環境づくりの課題】

●指定文化財を中心とした歴史文化資源や周辺の自然環境の保全と活用
●緑豊かで歴史的趣のある街づくり
●熊本城への眺望の保全と活用など

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●地下水かん養上の重要な地域におけるかん養源としての樹林地や農地の適切な保全など、かん養機能の保全と向上、地下水質の保全
●建物周辺の緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透桝の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の保全や向上
●歴史的文化的環境と一体となったお手水、成道寺、白糸の瀧、長命水、釣耕園などの湧水の保全、かん養源の保全
●河川や沢、源流域や湧水など、多様な水辺環境の保全と水とのふれあい空間の確保
●金峰山山麓などの樹林地が有する雨水の保水や水源かん養機能、地下水や伏流水などの流路、湧水などの一体的な保全や創造による健全な水循環の保全
●下水道未整備地区における適切な生活排水処理対策、自然水質浄化機能の向上など、河川水質の保全と改善
●下水道計画地区における未整備地区での整備促進、整備計画に留意した適切な生活排水対策の実施や住宅開発など
●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善
●地下水汚染物質の使用自粛や適正な管理による地下水汚染等の未然防止

自然豊かな「森の都」を育てる

●天然記念物やふるさとの樹木、巨樹・巨木林などの保全と活用
●地域に残されてきた多様な自然環境の保全と適切な活用、多様な生物生息環境の確保
●道路等の整備に伴う生物生息環境の分断防止
●井芹川の水辺と金峰山の自然を結ぶ水辺空間を生かしたエコ・コリドーの保全や創造による自然環境のネットワークづくり
●水辺の水循環機能の保全と向上など、井芹川水系の生物生息環境の保全、適切な場所でのホタルの里づくり
●都市部における井芹川の水辺環境の創出、多自然型工法等によるビオトープの保全と整備
●地域の生態系を尊重した公園整備、水辺空間整備、緑化の展開など
●地域の落葉広葉樹林地などにおける良好な土壌の保全、水辺の自然環境の保全・創造、水辺と樹林地の自然の連続性確保など、多様な生物生息環境の保全や創造
●特色ある街並みを形成する自然環境や緑地景観の保全と住宅地からの眺望の保全、市街地の背景緑地としての斜面緑地の積極的な保全
●島崎地区などの斜面住宅地における眺望の確保、島崎地区などの屋敷林における緑豊かな街並みの保全

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●池辺寺跡、釜尾古墳群をはじめ、地域に引き継がれてきた歴史的文化的環境資源の適正な保全と活用
●周辺の自然環境と一体となった史跡や埋蔵文化財の保全、身近な歴史的自然環境資源としての活用
●湧水や巨樹・巨木林、文化財、街並みなど、歴史的いわれのある資源の一体的な保全と活用
●古くから居住する住民との連携による趣のある緑豊かなまちづくりの推進

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

2-1 生活環境特性

生活環境

【現　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局がありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成していると考えられます。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定地点は、熊本鈴麦線に設定されています。
●測定地点では、朝・昼・夕・夜の全時間帯で環境基準を達成しています。また、全ての時間帯で騒音規制法による要請限度を達成しています。

有害物質

●小萩園森林学習館における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。

交　通

●熊本西環状線や九州新幹線の計画があり、現在は静かなたたずまいを形成していますが、今後、騒音や振動、自動車交通量の増大に伴う排気ガス等の増大が考えられます。建設に当たっては自然環境の保全とあわせて生活環境への影響の軽減に努めていく必要があります。
●住宅地内には、狭く歪曲した生活道路が多いことなどから、適切な交通安全対策を図っていく必要があります。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会15団体、町内会6団体、ＰＴＡ4団体、老人会1団体、婦人会1団体の計27団体が登録され、活動を行っています。
●住宅地の庭や周辺に緑も多く、家庭での生ゴミの堆肥化による家庭菜園などへの活用も可能な地域です。
●入組んだ山麓地形からなり、廃棄物の不法投棄がみられる地区もあります。

自然災害

●尾根沿いの山麓部は比較的緩傾斜地からなりますが、河川沿いの斜面地は急傾斜地が多く、斜面崩壊や土石流発生の危険性が高い地域がみられます。金峰山山麓に、急傾斜地危険箇所や山腹崩壊危険箇所が点在しています。
●井芹川が開析して形成した比較的湿潤な低地では、豪雨時等に山地からの地表水が集中しやすいため、井芹川沿いの低地には水害の常習地帯を抱えています。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

環境基準を達成

浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

環境基準を未達成

自動車交通騒音

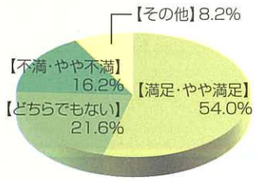
全時間帯の環境基準を達成

ダイオキシン

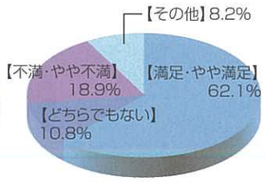
測定地点で大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



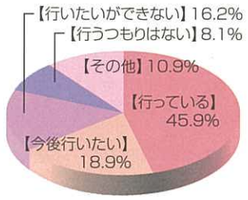
●静けさ



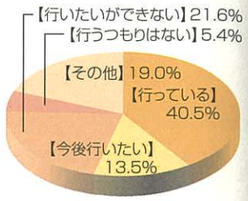
●空気のきれいさやにおいへの満足は、全市平均と同じ割合となっています。不満の割合は低く、不満の原因として「自動車の排気ガス」が多く、次いで「工場などからの煙やにおい」があげられています。

●静けさの満足度は、市内で最も高い割合となっています。「自動車やバイクの騒音」が不満の主因となっていますが、「鉄道・飛行機などの騒音」もあげられています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動は、それぞれ全市平均より下まわっています。JR鹿児島本線が地域東縁を通過していますが、金峰山麓の斜面地を有するなど、地域内での特性に較差があることが原因と考えられます。

【環境づくりの課題】

●道路整備等に伴う交通量の増大などが考えられるため、事前の交通渋滞の防止や自動車排気ガス対策、騒音対策などによる生活環境への軽減

●熊本西環状線等の整備に向けた、周辺環境の保全と地域住民の理解

●自転車利用の促進に向けた坂道などでの自転車専用道の確保

●有害化学物質の使用抑制や適正管理など

●地形条件などから水害や土砂災害の可能性も高いため、適切な防災対策の推進など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●生態系の分断防止や道路環境の改善など、緑地の保全と創造等に留意した道路整備

●緑地の環境保全機能の維持・向上のための適切な樹林地等の育成や緑地の維持管理

●工場等事業所と住宅の混在地区における環境保全対策

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、跡地利用における土壌汚染対策など

●地域における土壌や地下水汚染状況の把握

●工場等と住宅との混在地域における大気汚染、騒音、振動などの防止

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用

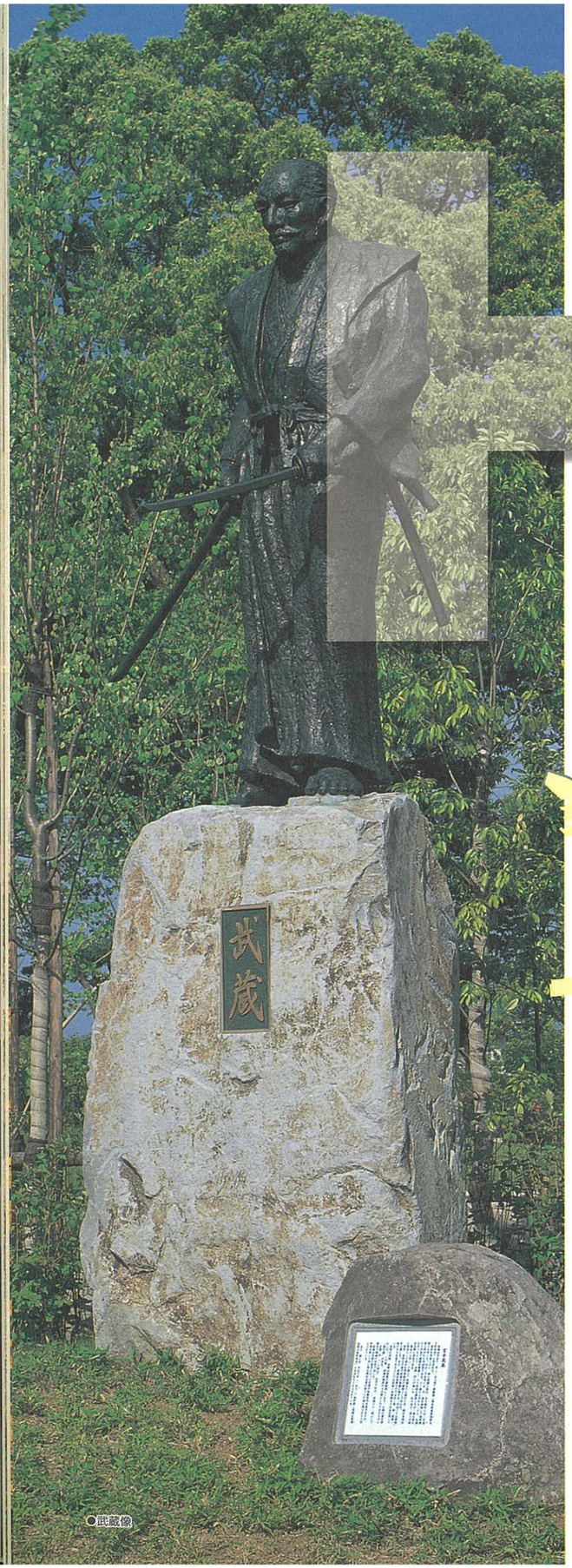
●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化

●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

自然災害防止

●井芹川等における水害の防止、後背流域での雨水保水機能の向上と井芹川の低地部での遊水機能の向上

●斜面地などでの崖くずれなど土砂災害への配慮、地盤保持機能の高い植生の育成



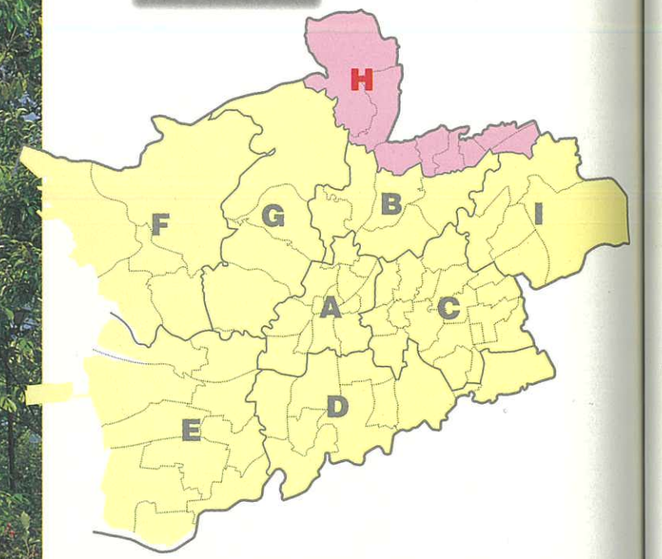
●武蔵像

良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

H地域

地域の位置・対象校区

川上、北部東、城北、麻生田、楡木、楠、武蔵、弓削



環境づくりの基本的方向

計画的な住環境整備と農村との連携による快適な環境づくり

○八景水谷・坪井川上流域としての良好な水循環の形成と計画的な住環境整備による快適な街づくり

○緑豊かな田園と住宅地との連携を生かした自然とのふれあい豊かな街づくり

○公共交通利用による環境にやさしい魅力ある街づくり

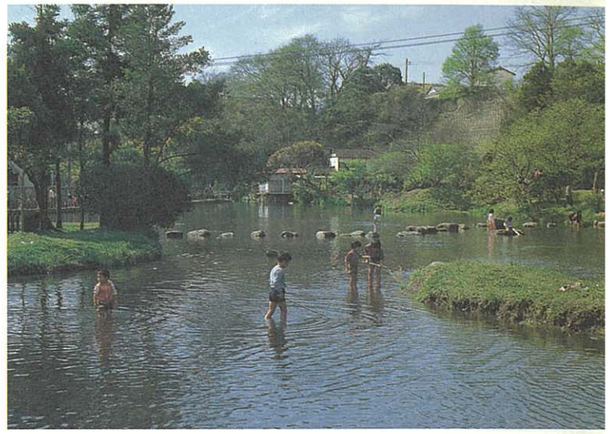
1 地域の概況

地勢・沿革

●地域は、坪井川の上流域に位置し、平坦で安定した台地段丘面やその斜面緑地からなり、阿蘇外輪山や白川から導水された堀川が合流しています。

●北部は、坪井川が台地を開析して形成した谷底平野が樹枝状に分布する緑豊かな田園地域、東部は宅地化が急速に進み、楠・武蔵ヶ丘・弓削などの団地群が規則正しく並んだ特徴ある住環境を形成しています。

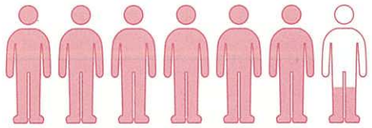
●北西部の川上地区の大半が市街化調整区域となっています。中央部には国道3号線の熊本北バイパス（新南部四方寄線）の整備などが進められており、今後、農林地の宅地化が急速に進んでいくことが考えられます。



人口・世帯数

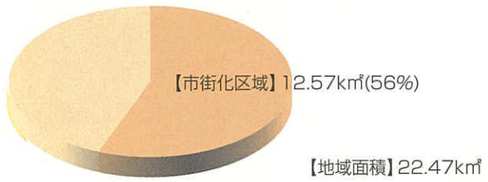
平成12年10月時点

【地域人口】 63,041人

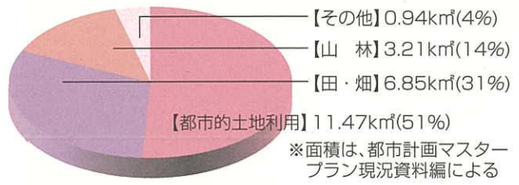


【地域世帯数】 22,036世帯

面　積



土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】都市的土地利用が東部を中心に広がり、ほぼ半分を占めています。自然的土地利用としては、川上地区の台地や谷地に広がる水田や畑、台地縁辺斜面の山林が主体となっています。

交　通

●鉄　道：東部にJR豊肥本線の武蔵塚駅、中央部に熊本電鉄線の堀川駅や八景水谷駅が位置し、西側にJR鹿児島本線が通過するなど、比較的鉄道の便にも恵まれています。

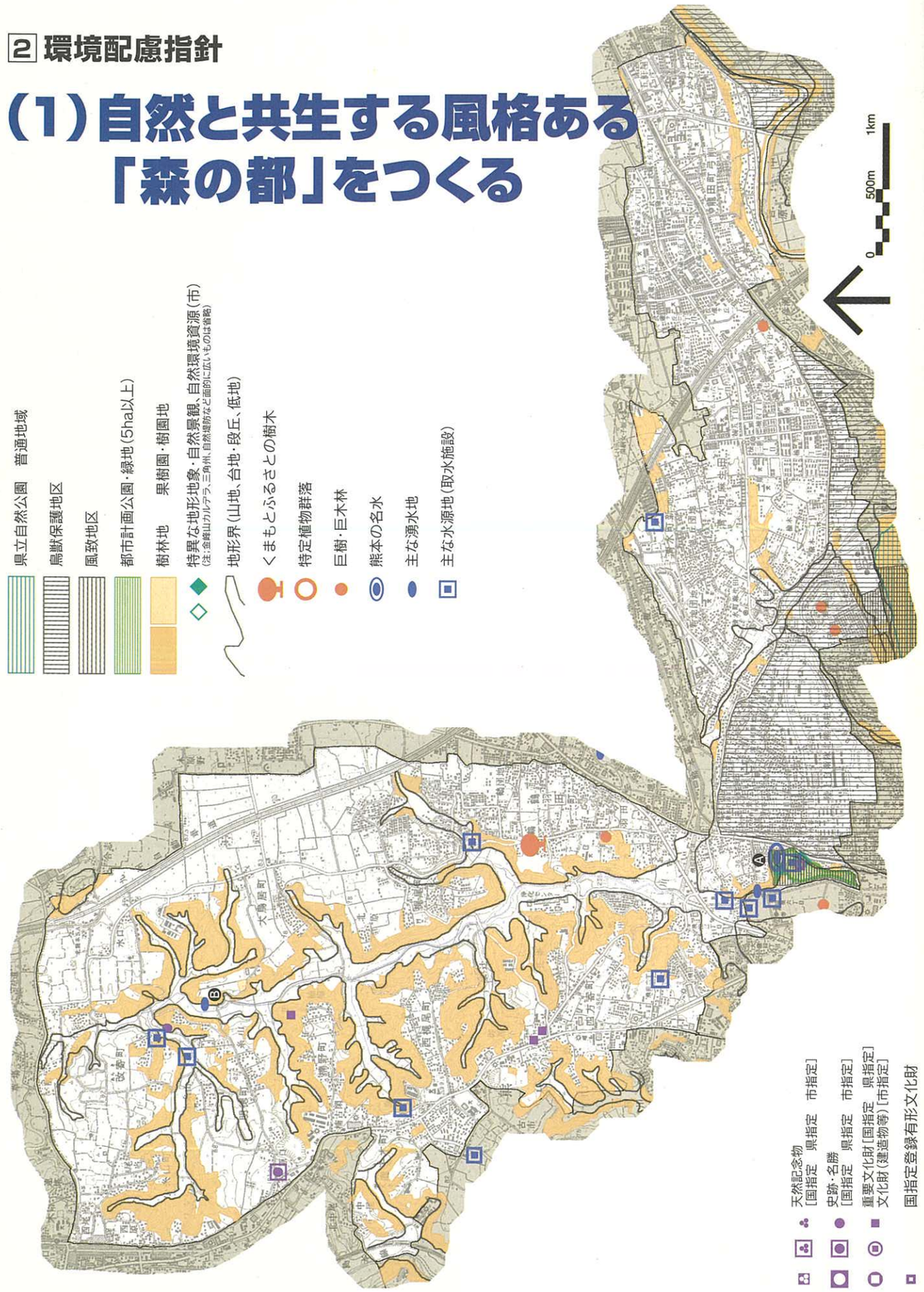
●道　路：北西部から中央部にかけて国道3号線が縦断し、菊池市と結ぶ国道387号線が中央で合流しています。東部には国道57号線が走っています。
また、北東部に九州自動車道が通過するほか、国道3号線四方寄を基点に、中心市街地への交通等緩和に向けた熊本北バイパス線や熊本西環状線など環状道路の整備や計画が進められています。

主な開発計画

【交　通】中九州横断道路
都市計画道路（新南部四方寄線〔北バイパス〕、四方寄鹿子木線）整備

2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　　状】

●平坦で安定した台地段丘面とその縁辺斜面、坪井川が開析して形成した樹枝状の谷底平野からなります。

●地域は、大半が坪井川上流域に位置し、北部地域の中央部には坪井川が北から南に流下しています。この坪井川に阿蘇外輪山や白川の水を導水した堀川が飛田地区で合流しています。また、東部の弓削地区の南側は白川に接し、北部の川上地区西側は井芹川流域となっています。

●地域の中央部に位置する清水町には、豊かな湧水からなる八景水谷があり坪井川に注いでいます。八景水谷は、古くから熊本市の重要な水源地として利用され、市民に親しまれてきた貴重な水辺環境となっています。この他、小清水など坪井川沿いに湧水が見られます。

●台地段丘は、阿蘇火砕流堆積物やその上部に堆積した段丘堆積物からなり、ともに透水性が高く、地下水かん養上重要な地域となっています。

●南西部には八景水谷の湧水群を生かした八景水谷公園があり、水の科学館や水道記念館など水に係る施設が立地しています。

●有機塩素化合物による地下水汚染地区があります。南部に隣接する清水や高平台地区では汚染地区の浄化対策が進められており、同様の環境条件からなる本地域でも都市的土地利用の進展により地下水汚染の可能性も高いため、十分注意していく必要があります。

●河川水質の環境基準点が、坪井川の堀川合流前、堀川の坪井川合流前、白川の吉原橋に設定されています。

●下水道は全域が北部処理区に含まれ、整備が進められてきています。認可区域内の大半は整備が進められ、未整備区域は弓削地区や坪井川流域などに点在しています。

●また、坪井川に流入する堀川は、大津町、菊陽町、合志町、西合志町をまたがって流下しているため、上流域の各町と一体となった水質浄化対策を進めていく必要があります。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

坪井川(堀川合流前)→平成12年度は環境基準(A類型)を達成

堀川(坪井川合流前)→平成5,8年度を除き、環境基準(D類型)は未達成

白川(吉原橋)→平成11,12年度は環境基準(A類型)を達成

●地下水質

有機塩素系化合物による地下水汚染地区：弓削地区

【環境資源一覧】

河川等

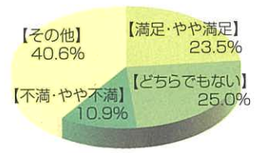
白川、坪井川、堀川、八景水谷緑地内の池、など

湧　水

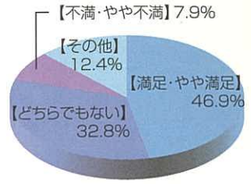
八景水谷Ⓐ、小清水Ⓑ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ



●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさへの満足度は全市平均と同じですが、不満の割合が最も少ない地域となっています。また、地下水については、満足度が他地域に比べやや低く、不満も低い傾向となっています。

●とくに、海や川などが近くにないと感じている人が約3割と市内で最も多くなっています。また、地下水を感じる湧水地なども近くに少ないことが考えられます。水のきれいさへの不満の原因は、「ゴミの散乱」等が最も多く占め、次いで「家庭排水」となっています。

【環境づくりの課題】

●地下水かん養地域・河川上流域としての良好な水循環の形成や地下水の保全

●地域の水循環を踏まえた水辺とのふれあいの確保など、水環境保全への理解の向上と取組みの推進

●八景水谷湧水群など湧水地の保全と活用

●坪井川などの河川水質の浄化に向けた計画的な居住環境の整備

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止及び汚染地の環境改善

●循環型の水利用、雨水の有効利用など

自然豊かな「森の都」

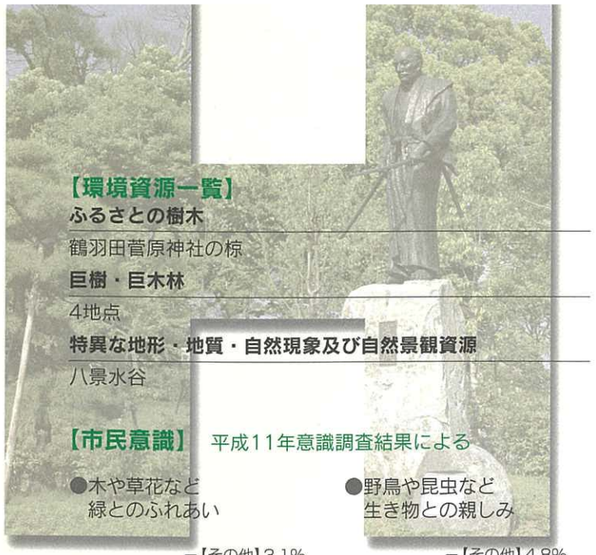
【現　　状】

●標高80～90m前後の比較的平坦な台地地域で、低地との境界部には比較的急な台地斜面からなる樹林地が連続した形で残されています。とくに東端には白川が流れ、白川沿いの低位段丘と急崖によって分けられています。

●東部の台地面や白川沿いの低位段丘部は市街化が進み、農地が点在していますが、北部の台地面は水田や畑が、また、坪井川沿いの低地は水田が主体となった緑豊かな田園環境となっています。

●北部の台地縁辺斜面地の樹林地は、ヤブツバキクラス域の植生からなる緑地が連続し、谷田と一体となって地域の原風景を今に伝えるなど良好な緑地景観を形成しています。また、斜面下の湧水や水辺と一体となって比較的良好な生物生息環境の場ともなっており、ホタルの生息も見られます。

●南西部の八景水谷公園は風致地区に指定され、清水町一帯は立田山鳥獣保護区に指定されています。八景水谷公園のほかは、まとまりある公園緑地はなく東部の住宅地に住区基幹公園が点在しています。



【環境資源一覧】

ふるさとの樹木

鶴羽田菅原神社の椋

巨樹・巨木林

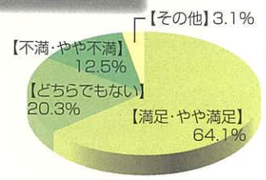
4地点

特異な地形・地質・自然現象及び自然景観資源

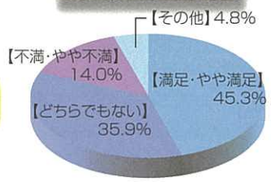
八景水谷

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいや生き物との親しみについての満足度は、特徴的な傾向が見られなく、やや満足の割合が多く市平均よりもやや上まわっています。

【環境づくりの課題】

●計画的な市街地整備など、農林地の保全と活用による快適な居住環境の形成

●住宅地内における身近な自然とのふれあい空間の創造とネットワークづくり

●北部の緑豊かな田園環境や自然環境の保全と多様な生物生息環境の保全など

歴史遺産等

【現　　状】

●歴史的文化的資源として、明徳官軍墓地(県史跡)をはじめ、参勤交代時の休憩所として名高い御馬下の角小屋などの指定文化財があります。

●確認された集落跡などの埋蔵文化財は台地部に点在していますが、台地部に広く埋蔵文化財包蔵地が広がっています。

●東部地区は、郊外のベッドタウンとして計画的な開発が進められ急速に市街化された地区で、高層の集合住宅などの新しい街並を形成しています。

●北部の川上地区や北部東は古くからの農村集落を中心に宅地化が進展してきており、一部に農村の伝統や街並も残してきています。

【環境資源一覧】

文化財(建造物)

御馬下の角小屋(市)、四方寄六地蔵(市)、平井宮庚申塔(市)

登録有形文化財(国)

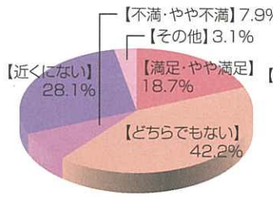
熊本市水道記念会館〔旧八景水谷貯水池ポンプ場〕

史跡・名勝

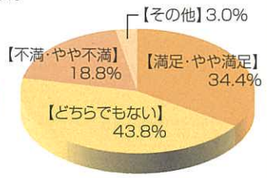
明徳官軍墓地(県)、井上横穴群(市)

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気への満足度は、市内でも低い地域となっています。「歴史的資源が近くにない」、「どちらでもない」との回答も高くなっています。

●街並みの風景の美しさへの満足度は、市平均よりも高い傾向にありますが、「どちらでもない」も多く、美しさを代表する地域特性が定まっていないと考えられます。不満の原因には、「看板や電柱が目立つ」があげられています。

【環境づくりの課題】

●地域の自然や歴史的文化的資源の一体的な保全と活用による街づくり

●埋蔵文化財の精密調査など、文化財の適切な保全と活用

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●地下水かん養上の重要な地域であるため、かん養源としての樹林地や農地の適切な保全などかん養機能の保全と向上、地下水質の保全

●八景水谷湧水群や小清水湧水など坪井川沿いの湧水の保全と身近な自然とのふれあい空間としての整備・活用

●坪井川の水源地域としての湧水と一体となった源流域の保全、樹林に覆われた谷頭等の自然環境の保全

●農林地など緑地が有する雨水の保水や水源かん養機能、地下水や伏流水などの流路、湧水などの一体的な保全や創造による良好な水循環の形成

●建物周辺の緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透升の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の保全や向上

●地下水汚染物質の使用自粛と適正な管理、生活排水や産業排水等による地下水汚染の未然防止と河川水質の汚濁防止、地下水汚染地区の浄化対策など

●身近な湧水の発見や湧水地の整備、親水空間の保全と創造、水辺とのふれあいの確保など、地下水かん養や水資源への理解の向上

●下水道未整備地域での合併浄化槽などを活用した適切な排水処理対策など、坪井川や堀川等の水質浄化

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいづくり

自然豊かな「森の都」を育てる

●地域に残されている多様な自然環境の保全と適切な活用

●落葉広葉樹林地などの良好な土壌環境の保全、水辺の自然環境や水循環機能の保全、水辺と樹林地の連続性確保など多様な生物生息環境の保全や創造

●台地縁辺の斜面緑地の保全と活用による谷田景観と一体となった親水空間の創造、街並みの背景として緑地の保全

●身近な自然とのふれあい空間の創造とネットワークづくりなど、計画的な市街地整備における快適な居住環境の形成

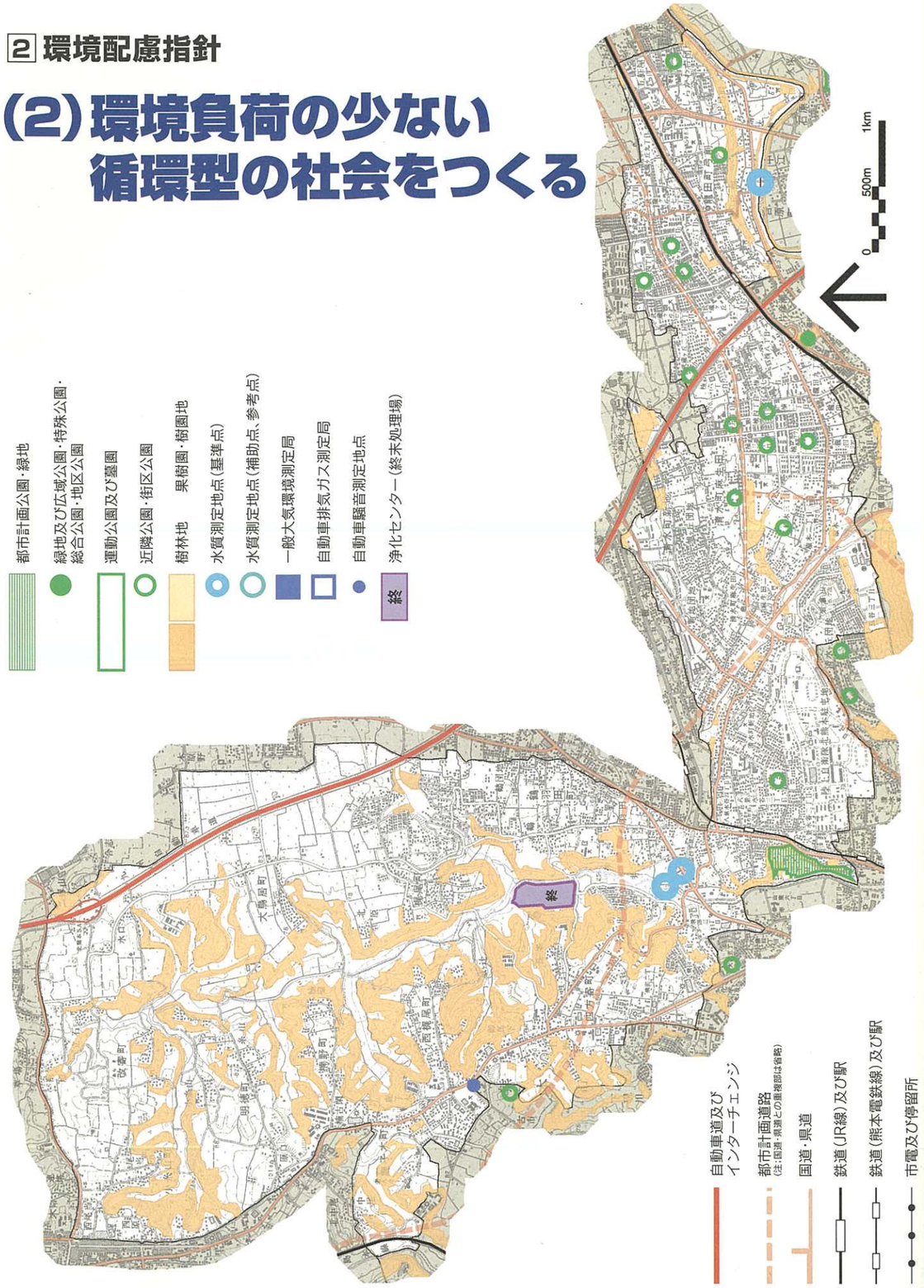
歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●御馬下の角小屋、明徳官軍墓地、埋蔵文化財など、また鶴羽田菅原神社の椋、巨樹巨木林などを生かした歴史的文化的環境の適正な保全と周辺の整備

●埋蔵文化財の精密調査など、周辺の地形や植生と一体となった文化財の適切な保全と身近な歴史公園等としての活用などによる街づくり

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる



2-1 生活環境特性

生活環境

【現　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局がありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成していると考えられます。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

騒音・振動

●自動車騒音測定地点は、国道3号線(北部郵便局)で実施されています。
●国道3号線の測定地点では、平成11年度は昼と夜の時間帯で環境基準を達成していません。また、騒音規制法による要請限度は達成しています。

有害物質

●有害大気汚染物質の測定地点は設置されていません。
●地下水かん養域であるため地下水汚染の未然防止が重要になっています。

交　通

●交通量の多い国道3号線、387号線が西部地区を通過しているほか、国道57号線が東部地区を通過し、慢性的な交通渋滞が発生しています。
●交通混雑の解消などに向けた環状線として、東バイパスに直結する北バイパス線の整備が進められているほか、西環状線が計画されています。

ごみ・資源

●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会48団体、町内会5団体、ＰＴＡ5団体、老人会5団体の計63団体が登録され、活動を行っています。

環境美化協定

●熊本市楠校区第四町内自治会美化協定、楠５町内を美しくする美化協定、楠６町内を美しくする美化協定、楠３町内を美しくする美化協定、楡木４町内を美しくする美化協定、楡木校区第３町内自治会美化協定、楠２町内を美しくする美化協定

自然災害

●急傾斜地からなる台地斜面地では斜面地崩壊の可能性もあります。
●坪井川沿いの谷底平野は周囲に比べ地盤が低く、周辺台地部の地表水が集中しやすく、下流地区は浸水等の可能性が高い地域となっています。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

ここ数年は環境基準を達成

浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

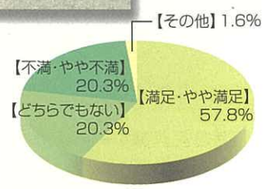
環境基準を未達成

自動車交通騒音

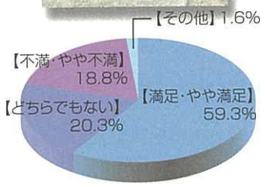
国道3号線で環境基準未達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



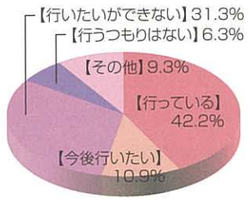
●静けさ



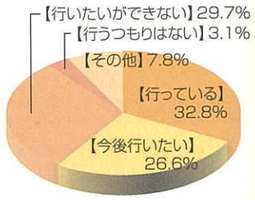
●空気のきれいさやにおいへの満足度は、市平均とほぼ同じ状況となっています。不満の原因として、「鶏・畜舎からのにおい」が多く、次いで「自動車の排気ガス」となっています。

●静けさへの満足度は、高い傾向にあります。不満の原因としては、他地区と同様に、「自動車やバイクの騒音」が主因となっています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動について、行いたいができないとの意見が多い傾向にあります。公共交通など利便性がやや低い地域であり、台地縁辺の斜面も多いためと考えられます。

【環境づくりの課題】

●公共交通の利便性の向上等、自動車交通量の低減に伴う慢性的な交通渋滞の解消、自動車排気ガス対策や騒音対策など自動車公害の改善

●自動車交通に対する環境保全に向けた緑地の適正な維持管理、道路沿線の緑化や緑地帯の確保など

●自転車利用の促進に向けた適正な駐輪場の確保、自転車専用道の確保など

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、土地利用履歴の情報提供など

●斜面地周辺での土砂災害や河川周辺等での水害などの自然災害の未然防止

●坪井川等の水害の未然防止など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上や自転車利用施設の充実など

●交通渋滞の防止をはじめ、道路環境の改善など緑地の保全と創造等に留意した道路整備

●緑地の環境保全機能の維持・向上のための適切な樹林地等の育成や緑地の維持管理

●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、土地利用履歴情報の提供や跡地利用における土壌汚染対策など

●地域における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区の改善対策

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用

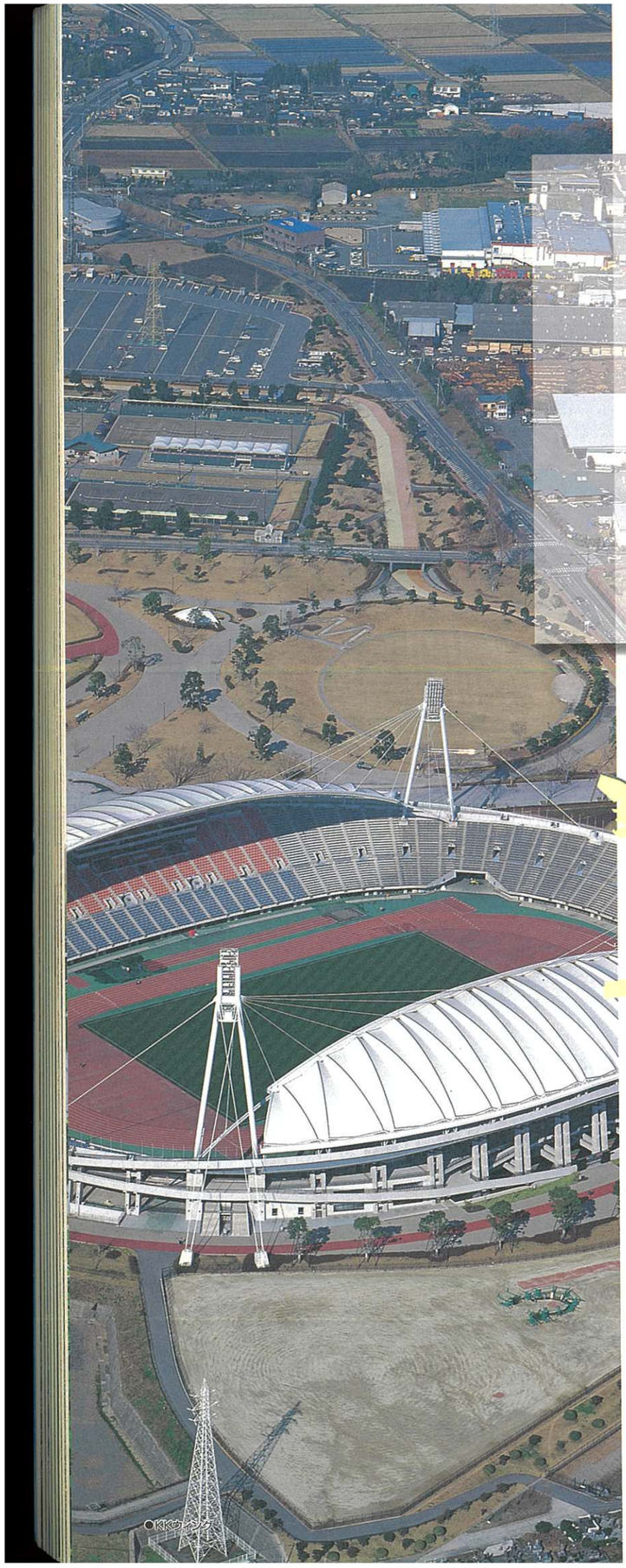
●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化

●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

自然災害防止

●坪井川下流地域での水害の防止、後背流域での雨水保水機能の向上

●台地縁辺斜面地などでの崖くずれなど土砂災害への配慮と樹林地の地盤保持機能の向上

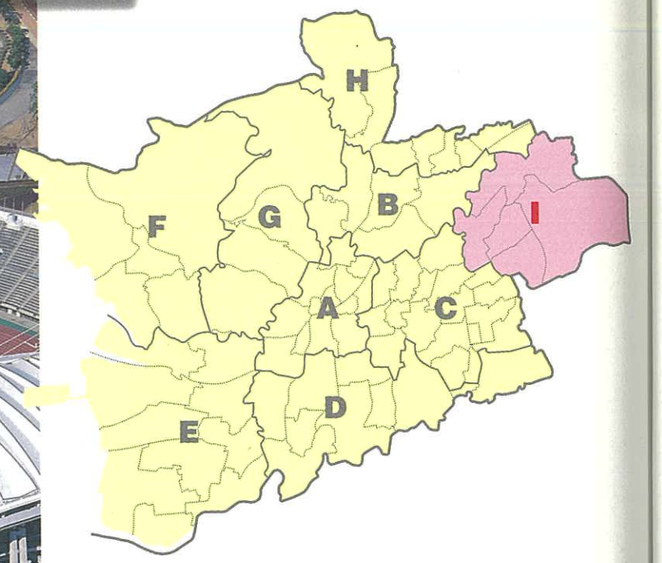


良好な地域の環境づくりに向けて
（地域別環境配慮指針）

地域

地域の位置・対象校区

託麻東、託麻西、託麻北、託麻南、長嶺



環境づくりの基本的方向

託麻三山と白川の自然にふれあい誰もが憩える環境づくり

○託麻三山と白川がつくる良好な自然とスポーツ・レクリエーション機能が調和した街づくり

○地下水かん養機能の保全と一体となった自然環境や緑地の整備などやすらぎのある街づくり

○公共交通の利便性の向上と利用による環境にやさしい魅力ある街づくり

1 地域の概況

地勢・沿革

●平坦な安定した台地で、北側に白川が流れ、中央に神園山、小山山、戸島山からなる託麻三山の丘が景観や自然環境の変化をもたらしています。

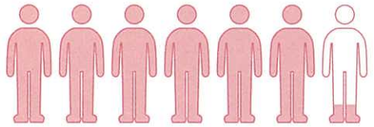
●地域は、主に畑地として利用されてきましたが、西から東へと宅地化が急激にすすみ、新興住宅地として様相を変えてきています。地形、地質的条件から、市域において最も重要な地下水かん養域の一つとして位置づけられ、都市化に伴う地下水かん養機能の低下などが懸念されています。

●また、県民総合運動公園が整備されるなど、今後、この運動公園を中心として、託麻三山等の自然環境を利用した野外のレクリエーションの基地として、発展が期待されています。

人口・世帯数

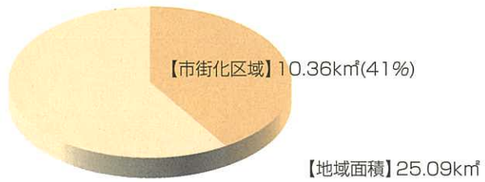
平成12年10月時点

【地域人口】 61,494人

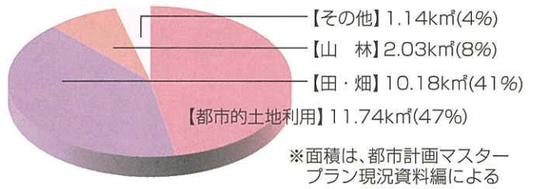


【地域世帯数】 21,640世帯

面　積



土地利用



※面積は、都市計画マスタープラン現況資料編による

【概　要】都市的土地利用と自然的土地利用がほぼ同じ割合で広がっています。自然的土地利用としては、託麻台地に広がる畑と白川沿岸の水田などが約4割を占め、山林は、託麻三山を中心に分布しています。

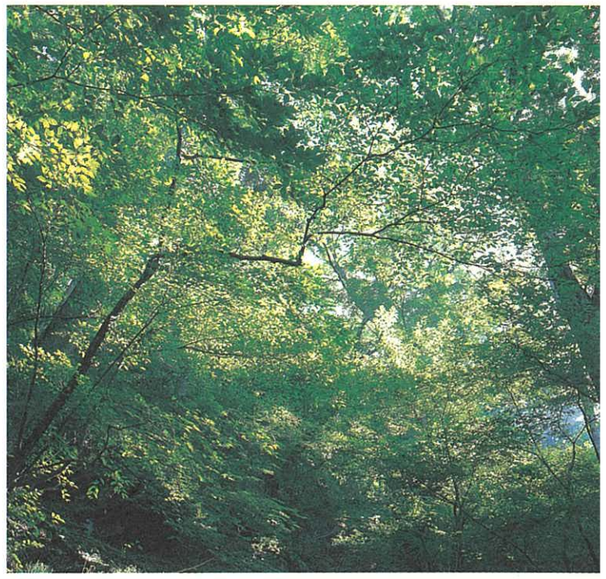
交　通

●鉄　道：鉄道はありません

●道　路：九州自動車道が縦貫し、北部の国道57号線との合流部に熊本ＩＣが、南部に隣接する益城町古閑の県道熊本益城大津線との合流部に益城熊本空港ＩＣがあり、市の玄関口となっています。国道57号線のほか、県道熊本空港線・熊本益城大津線が東西方向に、また、県道益城菊陽線が南北に縦断し、国道443号線が東端を南北に通過しています。

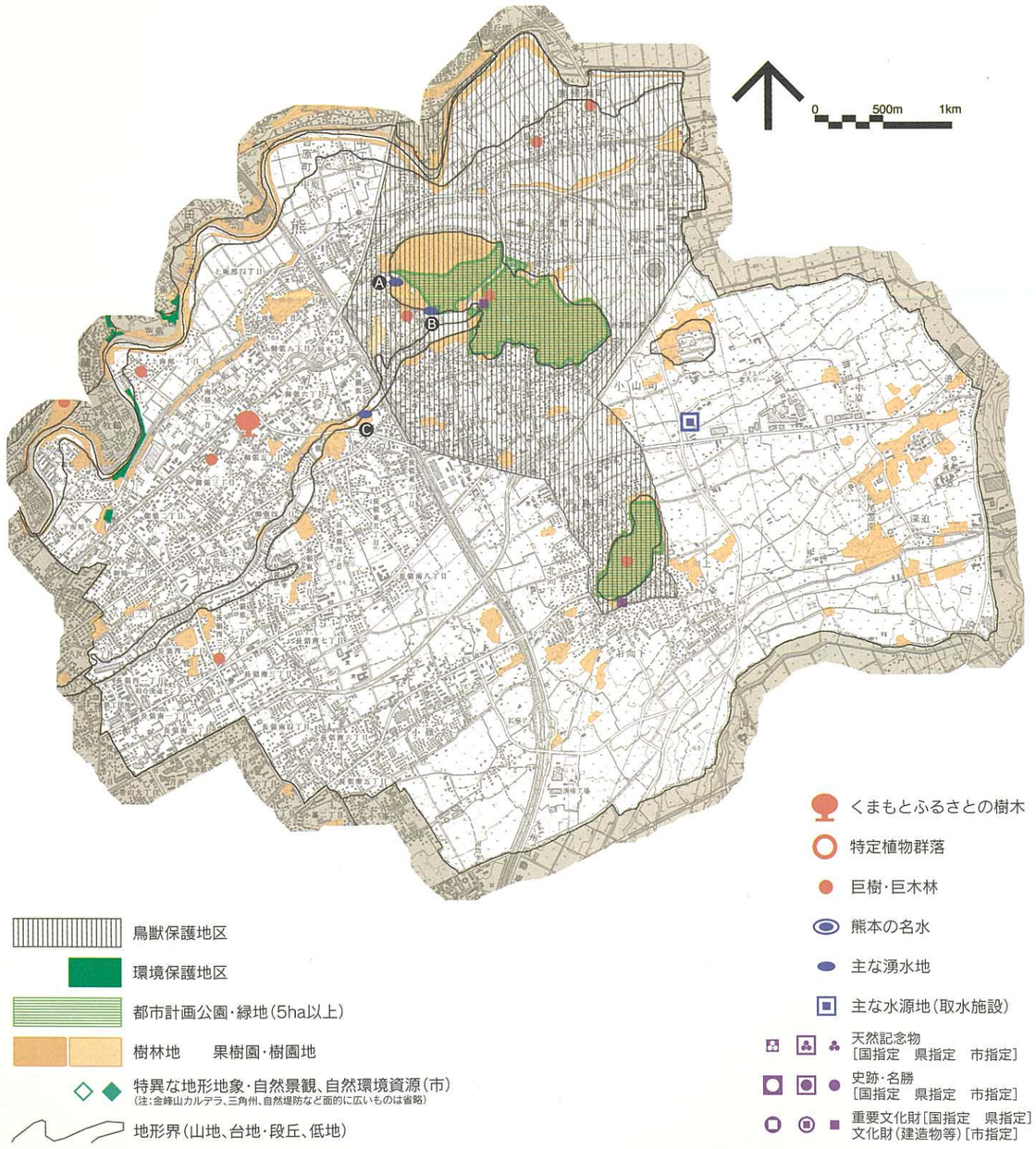
主な開発計画

特になし



2 環境配慮指針

(1)自然と共生する風格ある「森の都」をつくる



1-1 自然環境特性

恵み豊かなくまもとの水

【現　状】

●阿蘇火砕流堆積物や段丘堆積物からなる標高50～100mの平坦な託麻台地が広がり、東から西の江津湖にかけて緩やかに標高を下げています。託麻台地は、透水性が高く地下水かん養機能が高く、市域でもとくに重要な地下水かん養域となっています。

●台地中央に、標高180～190mの神園山・小山山・戸島山の小高い丘が点在し、託麻三山として古くから市民に親しまれています。三山は中生代白亜紀の堆積岩(御船層群)からなり、熊本の地下水の水理基盤となっています。

●加勢川水系の上流域にあたり、江津湖に流入する健軍川や藻器堀川、秋津川に流入する妙見川や鉄砂川の浅い谷が東西方向に形成されています。透水性が高い地盤であるため、河川水が伏没しやすく平常時は自流水が少ない水辺環境となっています。

●北部を流れる白川は段丘面を削り大きく蛇行しながら流下し、特徴ある河川景観を形成しています。白川沿いの低位段丘には水田が広がり遊水機能を有し、下流域の市街地における水害防止をはじめ、地下水かん養上重要な役割を果たしています。

●湧水地は、神園山山麓に湧出する桜井硯の池、大師山さんの水をはじめ、藻器堀川上流の妙見さんなどの湧水があります。

●有機塩素化合物による地下水汚染地区が各地にあり、汚染機構解明調査を行い水質監視を継続しています。

●河川水質の環境基準点は、白川の吉原橋に設定されています。加勢川水系の河川については地域内に測定地点がありませんが、下水道整備に伴い、健軍川や藻器堀川は下流部の測定地点で良好な水質を保ってきています。

●下水道は全域が東部処理区に含まれ、認可区域の大半は整備が進められてきていますが、未整備地区は戸島や小山周辺、白川沿いにまとまっています。なお、白川沿岸や東部、南部には計画区域外の田園地域も広がり、今後、地域の特性に応じた適切な生活排水処理対策などが望まれています。

【環境質の状況】 ※平成5年度以降

●河川水質(BOD)

白川(吉原橋)→平成11,12年度は環境基準(A類型)を達成

●地下水質

有機塩素化合物による地下水汚染地区：小山、長嶺、託麻西、託麻東

平成12年度は託麻東地区では基準超過井戸は見られませんでしたが、その他の地区では超過しています。

【環境資源一覧】

河川等

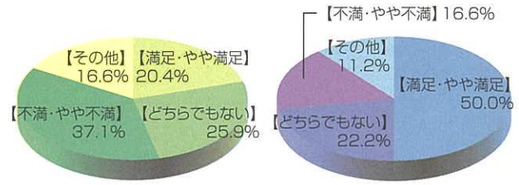
白川、健軍川、藻器堀川、妙見川、鉄砂川

湧　水

桜井硯の池Ⓐ、大師山さんの水Ⓑ、妙見さんⒸ、など

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●海や川のきれいさ　　●地下水の豊富さ



●海や川のきれいさや地下水の豊富さへの満足度は、全市平均より下まわっています。海や川のきれいさへの不満の原因として、「家庭排水」や「ゴミの散乱」などがあげられています。

●また、地下水の豊富さについては、地下水を感じる湧水地などが「近くにはない」も、他地域に比べて多くなっています。不満の原因としては、「家庭での水のむだづかい」をあげています。

【環境づくりの課題】

●地下水かん養上重要な地域であり、かん養機能の回復などに配慮した緑地空間の創出等、総合的な地下水保全対策

●地下水汚染物質の適正管理など地下水汚染の防止、汚染地区の環境改善

●健軍川、藻器堀川、妙見川、鉄砂川等の水質浄化や水辺のゴミ散乱防止、身近に自然とふれあえる親水空間の形成

●湧水地や水辺の保全等を通じた地下水かん養域としての理解の向上・循環型の水利用、雨水の有効利用など

自然豊かな「森の都」

【現　　状】

●台地の東側には畑地等を主体とした農地が広がるなど、地域は比較的緑豊かな地域として今日まで残されてきました。

●神園山・小山山・戸島山からなる託麻三山は、小さいながらも緑豊かな丘として、広々とした田園景観に落ち着きのある風景を醸成し、地域のランドマークともなっています。

●託麻三山は、コナラ群落やクヌギーコナラ群落、シイ・カシ萌芽林などヤブツバキクラス域の代償植生に覆われ、里山として地域の人々に親しまれてきました。現在は、竹林の増加による自然林の減少が見られます。

●北部を蛇行して流れる白川沿いには、川と平行して中位～下位～低位面へと順次標高を下げる段丘面が形成され、白川の水辺と段丘崖沿いに残された樹林地とあいまって、良好な河川景観を形成しています。

●託麻三山一帯と総合運動公園から白川沿岸にかけては、野鳥をはじめとした生物の生息環境ともなっており、託麻三山鳥獣保護区に指定されています。

●神園山北部に、熊本県民総合運動公園が整備されるなど、託麻三山とあわせて身近な野外レクリエーションの場として親しまれています。

●道路網の整備とあわせて、西から宅地化が進展してきているほか、熊本空港に隣接し、九州自動車道のインターチェンジを有することから、近年、テクノポリス地域として事業所等の立地も見られ、都市化が進展してきています。

【環境資源一覧】

特定植物群落

小山御領神社の楠

巨樹・巨木林

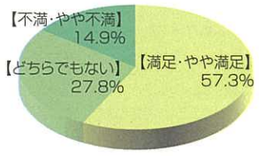
8箇所

特異な地形・地質・自然現象

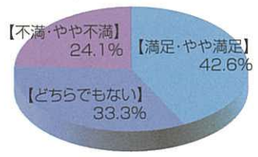
白川河岸段丘

【市民意識】　平成11年意識調査結果による

●木や草花など緑とのふれあい



●野鳥や昆虫など生き物との親しみ



●緑とのふれあいは、やや満足の傾向となっていますが市平均よりやや低くなっています。生き物とのふれあいの満足度は、市平均をやや上まわっていますが、不満の割合も多い傾向にあります。不満の原因として、「身近に野鳥や昆虫が少ない」、「生息できる場所が少ない」となっています。

【環境づくりの課題】

●託麻三山や白川沿岸の良好な自然環境や生物生息環境の保全と適正な利用

●健軍川や藻器堀川、妙見川や鉄砂川などの台地内を流下する河川の水辺を生かした水辺と緑のネットワーク形成、ビオトープの形成

●運動公園を中心としたレクリエーション機能の充実など

歴史遺産等

【現　　状】

●本地域には、市指定無形民俗文化財の肥後神楽（上南部）、市指定建造物の正平塔（石燈籠）などがあります。

●託麻三山を中心とした台地部には埋蔵文化財の包蔵地が各所に広がり、白川沿いの段丘地や託麻三山周辺からは、埋蔵文化財が集中して出土しています。

●託麻三山の山腹や山麓には、社寺等がまとまって分布するなど比較的早くから集落が形成され、農村地域としての代表的な歴史的景観を形成しています。

●屋敷林等に囲まれた比較的緑比率の高い集落地が点在するなど、緑豊かな田園景観を形成していましたが、西部からの都市化に伴い、徐々に変貌してきています。

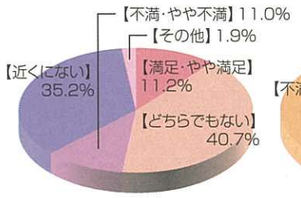
【環境資源一覧】

文化財(建造物)

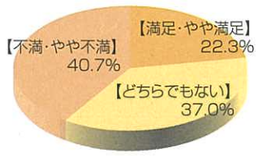
日向六地蔵塔(市)、正平塔〔石燈籠〕(市)

【市民意識】　平成11年意識調査結果による

●古い町並みや史跡などの歴史的雰囲気



●街並みの風景の美しさ



●歴史的雰囲気の満足度は、歴史的資源が近くにないとの回答が特に多く、市内で最も低い地域となっています。

●街並みの風景の美しさへの満足度も低い傾向にあり、「どちらでもない」「やや不満」がそれぞれ4割弱を占めています。不満の原因として、「看板や電柱が目立つ」、「街並みが雑然としている」、「建築物が不ぞろい」があげられています。

【環境づくりの課題】

●託麻三山を中心とした地域の農村景観や農村の歴史的文化的環境の保全と育成、伝統芸能などの継承

●適正な土地利用による都市と田園環境との調和など

1-2 環境配慮指針

自然と共生する風格ある「森の都」をつくる

恵み豊かなくまもとの水を守る

●地下水かん養域としての農地や樹林地、水辺等の適正な保全、湧水地の保全や地下水質の保全など、総合的な地下水保全対策の推進

●白川沿岸の水田等が有する地下水かん養機能など、多面的機能の保全と活用

●健軍川、藻器堀川など河川や水路の水質浄化と水辺を生かした親水空間やビオトープの創造など、地下水かん養機能を有する水辺環境づくり

●市街化地域等における建物周辺緑化、駐車場や道路等での透水性の確保、浸透桝の設置など、地下水汚染に配慮した雨水の地下浸透機能の向上

●雨水利用や水の循環利用など、水資源の有効利用に配慮した住まいや事業所等の建築や改善

●地下水汚染物質の使用自粛や適正な管理による地下水汚染等の未然防止、汚染地区の浄化対策など

●下水道未整備地区における適切な排水処理対策などの水質汚濁の防止

自然豊かな「森の都」を育てる

●特色ある街並みを形成する託麻三山の保全と託麻三山への眺望の確保、白川と周辺農地の保全・活用による良好な水辺の自然環境や景観の保全

●白川の水辺環境と託麻三山の自然環境との一体的な保全と野鳥等の生息環境の保全や創出、落葉広葉樹林などの多様な生物の生息環境の保全

●健軍川、藻器堀川などの河川や水路を生かした親水空間やビオトープの創造など、身近な自然とのふれあいネットワークづくりと快適な居住環境の創造

歴史遺産等を生かした美しい景観をつくる

●地域の歴史的文化的資源の保全、埋蔵文化財の精密調査、適正な保全と活用

●託麻三山周辺の集落等が形成する歴史的文化的環境や緑地環境を生かした個性豊かな街並みの保全と活用

2 環境配慮指針

(2) 環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

- 都市計画公園・緑地
- 緑地及び広域公園・特殊公園・総合公園・地区公園
- 運動公園及び墓園
- 近隣公園・街区公園
- 樹林地　果樹園・樹園地
- 水質測定地点（基準点）
- 水質測定地点（補助点、参考点）
- 一般大気環境測定局
- 自動車排気ガス測定局
- 自動車騒音測定地点
- 火 斎場（火葬場）
- ご 東部環境工場（ごみ焼却場）
- タ ターミナル（バス、トラック）
- リ リサイクル情報プラザ
- リサイクル施設 ※一般廃棄物処分許可業者
- 自動車道及びインターチェンジ
- 都市計画道路（注：国道・県道との重複部は省略）
- 国道・県道
- 鉄道（JR線）及び駅

2-1 生活環境特性

生活環境

【現　状】

大　気

●地域には一般環境大気測定局及び自動車排気ガス測定局がありませんが、他地域と同様に、二酸化硫黄、二酸化窒素、一酸化炭素はここ数年は環境基準を達成していると考えられます。浮遊粒子状物質や光化学オキシダントは環境基準を達成していないと考えられます。

騒音・振動

●地域の自動車騒音測定地点は、県道戸島熊本線（戸島団地内郵便局）で実施されています。平成11年度においては、昼と夜の時間帯で環境基準を達成しています。また、騒音規制法による要請限度は全ての時間帯で環境基準を達成していました。

有害物質

●戸島町日下部公民館における大気中のダイオキシン類の測定結果では、環境基準を達成しています。
●地下水かん養域であるため地下水汚染の未然防止が重要になっています。

交　通

●交通量の多い国道57号線が北部地区を横断し、慢性的な交通混雑が発生しています。また、九州自動車道が南北に地域を横断し、県道熊本空港線が通過するなど、道路の利便性は高い地域ですが、鉄道がなく中心市街地へは交通混雑地を通過するため、比較的利便性が低くなっています。

ごみ・資源

●一般廃棄物の焼却施設である東部環境工場が、南部に立地しています。
●地域内には、再生資源集団回収に向けた自主的な取組みを行っている団体として、子供会33団体、町内会5団体、ＰＴＡ3団体、老人会1団体、その他5団体の計47団体が登録され、活動を行っています。

自然災害

●地域には急傾斜地崩壊危険区域が一部にありますが、全体的に安定した地域です。市街化の進展に伴い健軍川や藻器掘川の下流域への流出水を増大させ水害等を引き起こす可能性があります。

【環境質の状況】

二酸化硫黄、二酸化窒素

ここ数年は環境基準を達成

浮遊粒子状物質や光化学オキシダント

環境基準を未達成

自動車交通騒音

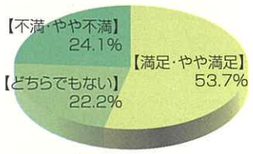
県道戸島熊本線で、昼・夜の時間帯で環境基準を達成

ダイオキシン

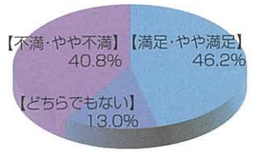
測定地点で大気環境基準を達成

【市民意識】 平成11年意識調査結果による

●空気のきれいさやにおい



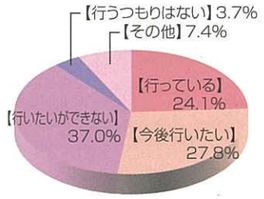
●静けさ



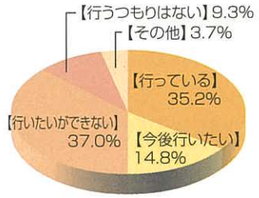
●空気のきれいさやにおいへの満足は、市平均とほぼ同じ傾向にあります。不満の原因として「自動車の排気ガス」が最も多く、次いで「鶏・畜舎からのにおい」があげられています。

●静けさの満足度は、満足がやや上まわっていますが、不満の割合が市域でも高い傾向にあります。不満の原因としては、他地域と同様に「自動車やバイクの騒音」が主因となっていますが、熊本空港への離着陸の進路ともなっているため、「鉄道・飛行機などの騒音」が市内でも特に多くなっています。

●マイカー利用を控える



●自転車を利用する



●「マイカー利用を控える」や「自転車を利用する」行動については、行っている割合が、河内地域に次いで低くなっています。

●なお、それぞれの行動について、「行いたいができない」との回答も河内地域に次いで高くなっています。公共交通など利便性が低いことが原因として考えられます。

【環境づくりの課題】

●慢性的な交通渋滞の解消、自動車排気ガス対策や騒音対策など、自動車公害の改善

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、土地利用履歴の情報提供など

●利用者に配慮した公共交通機関の利便性向上など、公共交通網の体系的整備

●雨水の各戸貯留や地下浸透などによる下流域での都市型水害の未然防止など

2-2 環境配慮指針

環境負荷の少ない循環型の社会をつくる

さわやかで安心できる生活環境をつくる

ごみを減らし、資源循環のまちをつくる

地球環境問題に地域から貢献する

大気、騒音・振動、温暖化防止など

●公共交通の利便性の向上や自転車道などの整備による野外レクリエーション地域として環境にやさしいまちづくり

●交通量の多い主要幹線道路等の沿線緑化や緑地帯の確保など、自動車排気ガスによる大気汚染、自動車騒音等の防止

●歩行者空間の確保や公共施設のバリアフリー化、狭隘道路等における交通安全など、高齢化社会に対応したまちづくり

有害物質の管理等

●有害化学物質の使用抑制や適正管理、土地利用履歴情報の提供や跡地利用における土壌汚染対策など

●地域における土壌や地下水汚染状況の把握と汚染地区の浄化対策など

ごみ対策

●家庭等における生ゴミの堆肥化などによる減量化と堆肥の活用

●飲食店やスーパーなどの事業所から出る生ゴミのリサイクルによる減量化

●水辺や緑地、道路周辺、家庭や事業所周辺の積極的な環境美化など

自然災害防止

●雨水の保水機能や地下浸透機能、水田等の遊水機能の保全と向上による健軍川や藻器掘川などの下流域における水害の防止

●託麻三山周辺での土砂災害への配慮と樹林地の地盤保持機能の向上

メモ

第2次
熊本市環境総合計画
地域別環境配慮指針

2003年2月　発行
編集・発行：熊本市環境保全局
印　　刷：株式会社　城野印刷所
上益城郡益城町広崎1630-1

第2次
熊本市環境総合計画

地域別環境配慮指針

PRINTED WITH SOY INK™ 印刷インキは大豆油インキを使用しています。

R100 この印刷物は、古紙混入率100%の再生紙で作られています。